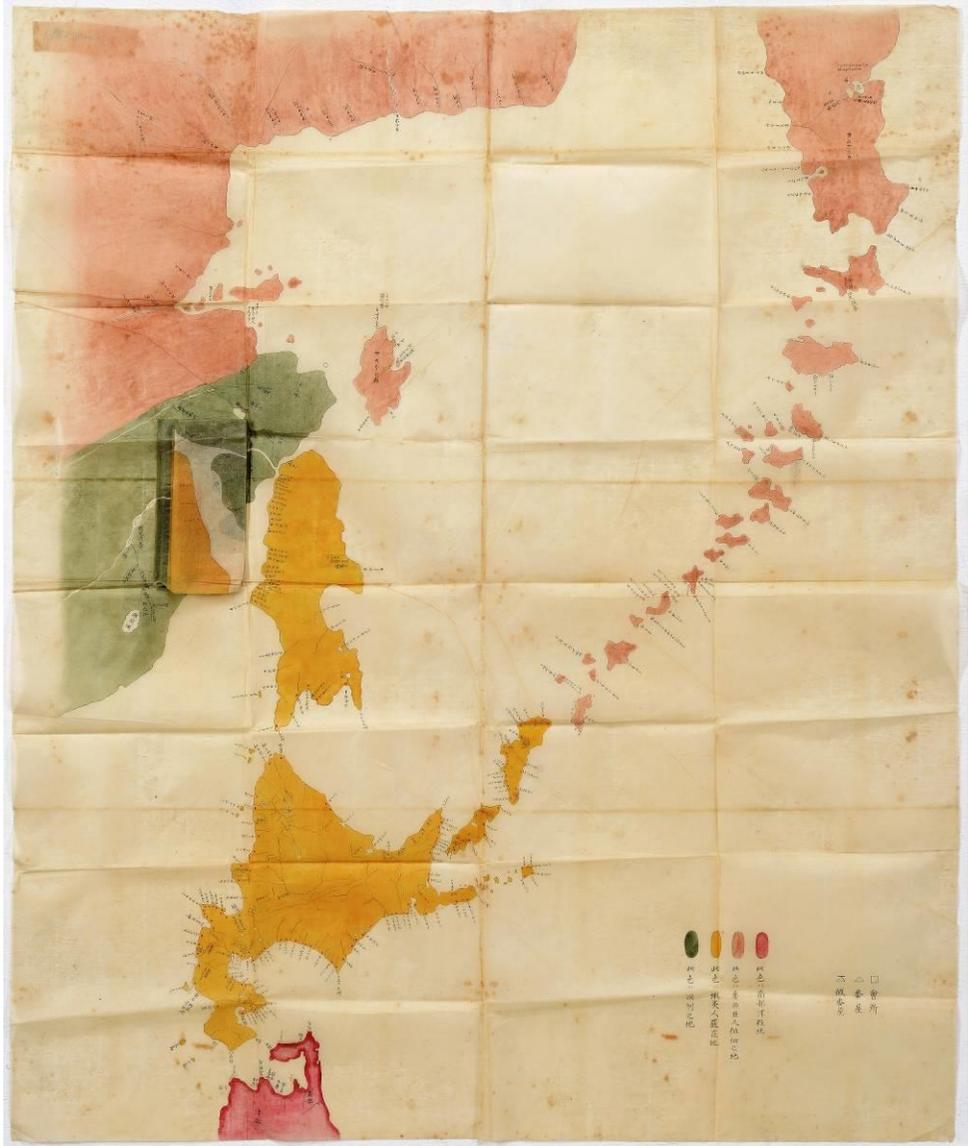


二〇二六年(平成二十八年)三月

東京阿部家資料

文書編(6)

福山市教育委員会



「蝦夷地図」 (東京阿部家資料)

目次

凡例

『観国録』について

『観国録 壺』

凡例	1		
四月十五日 自箱館至大野	1		
四月十六日 大野発行鷺之木投宿	2		
四月十七日 鷺之木発行山越内止宿	3		
四月十八日 同所滞行	4		
四月十九日 山越内発程ヲシヤマンベ止宿	4		
四月廿日 ヲシヤマンベ発行黒松内投宿	6		
四月廿一日 黒松内発行イソヤ止宿	9		
四月廿二日 磯屋出立岩内止宿	12		
四月廿三日 イワナイ発船フルウ投宿	13		
四月廿四日 布留宇発船志也古丹止宿	15		
四月廿五日 鷓鴣潭出立古平止宿	17		
四月廿六日 古平出立高島止宿	20		
四月廿七日 高島出立石狩投宿	24		
四月廿八日 石刈出立安都多止宿	26		
四月廿九日 アツタ出航マシケ投宿	28		
五月朔日 マシケ出立ル、モツヘ投宿	32		
五月二日 留流物部出立遠仁志加止宿	34		
五月三日 オニシカ出立トマ、キ止宿	36		
五月四日 トマ、イ発足フウレベツ投宿	38		
五月五日 フーレベツ出立テシヲ止宿	41		
五月六日 テシヲ出立ワツカシヤクナイ止宿	43		
五月七日 ワツカシヤクナイ出立バツカイ止宿	45		
五月八日 バツカイ出立ソーヤ止宿	46		
五月九日 ソウヤ滞留	48		
五月十日 ソウヤ滞留	48		
五月十一日 ソウヤ出帆至北蝦夷自シラヌシ沖			
五月十二日 落船翌十二日エンルモコマフ着岸	49		
モコマフ着船	51		

五月十三日	同所滞行……………	51
五月十四日	モコマフ出帆トコンホ止宿……………	51
五月十五日	同所滞留……………	51
五月十六日	トコンホ出帆昼夜舟行……………	51
『観国録 弐』……………		
凡例……………	……………	52
五月十七日	シラヌシ着船同所滞留……………	52
五月十八日	シラヌシ出航リヤトマリ投宿……………	54
五月十九日	リヤトマリ出航クシユンコタン投宿……………	56
五月廿日	クシユンコタン滞留……………	57
五月廿一日	同所滞留……………	59
五月廿二日	同所逗留……………	59
五月廿三日	同所滞行……………	59
五月廿四日	同所滞行纒安泊……………	60
五月廿五日	同所逗留……………	61
五月廿六日	クシユンコタン出立キムンナイ野宿……………	61

五月廿七日	キムンナイ滞留……………	62
五月廿八日	キムンナイ出立ウエンコタン止宿……………	63
五月廿九日	ウエンコタン出立ロレイ止宿……………	65
五月晦日	ロレイ出立シユクシナイ投宿……………	67
閏五月朔日	シユクウシナイ出立アイ止宿……………	69
閏五月二日	アイ出立ヲタサン止宿……………	71
閏五月三日	ヲタシヤン出立シラ、オロ止宿……………	72
閏五月四日	同所滞行……………	74
閏五月五日	滞行在シラ、オロ……………	76
閏五月六日	シラ、オロ出立フヌフ止宿……………	76
閏五月七日	同所滞行……………	80
閏五月八日	フヌフ出船ウエンコタン止宿……………	82
閏五月九日	ウエンコタン出立コタンケシ止宿……………	83
閏五月十日	同所滞留……………	86
閏五月十一日	コタンケシ出立シツカ止宿……………	86
閏五月十二日	シツカ出立シリマヲカ止宿……………	90
閏五月十三日	シリマヲカ滞留……………	95

閏五月十四日	シリマオカ出立コタンケシ帰宿……	98
閏五月十五日	コタンケシ発船フヌフ投宿……	99
閏五月十六日	フヌフ出船マアヌイ止宿……	100
閏五月十七日	同所尼行……	102
閏五月十八日	マーヌイ出立クシユンナイ止宿……	103
閏五月十九日	クシユンナイ発船	
	ライチシカ湖口繫泊……	105
閏五月廿日	ライチシカ出帆ウシヨロ投宿……	110
閏五月廿一日	ウシヨロ出帆ナヤス仮宿……	112
閏五月廿二日	ナヤス発船ホロコタン到着……	114
閏五月廿三日	ホロコタン逗留……	116
閏五月廿四日	同所滞留……	122
閏五月廿五日	不出船又滞留……	122
閏五月廿六日	未夕船ヲ出サス……	122

凡 例

- 一 本書は、「東京阿部家資料」文書編（6）として、旧福山藩主阿部家（東京阿部家）から福山市に寄贈いただいた資料の内『観国録 壱』と、『観国録 貳』の中で樺太最北端折り返し地点までを収録した。文書の収録については、原則として原文の形にそうようにつとめたが、読者の便を図るため、つぎの点に留意した。
 - 1 漢字の字体については、原則として新字体を用いた。異字・あて字等はつとめて通行の表記に統一したが、そのまま用いたものもある。
 - 2 合字は通常の仮名に改めた。
 - 3 変体仮名は、原則としてカタカナに改めた。
 - 4 読点（、）あるいは並列点（・）を付けた。
 - 5 地名の表記については原則原文のまま記した。
 - 6 誤字や当て字は原則原文のまま記し、行間に（ ）で適切な文字を記した。脱字と思われる場合には（○脱力）、意味が不明な文字は（ママ）と記した。かぎ括弧の脱字は適宜補い、不要と思われるものは削除した。
- 一 本書は、資料集という性格上、現代の感覚からすれば不適切な用語や表現も原文のまま収録した。
- 一 本書の編集は、福山市教育委員会文化課 まなびの館ローズコム 歴史資料室の 鐘尾光世・小林英行・桑田直美があたった。

『観国録』について

『観国録』は、福山藩士の関藤藤陰（石川和介）が安政三年（一八五六年）及び安政四年の両度、蝦夷地と北蝦夷（樺太）を調査した記録である。地勢・境界・戸口・風俗・産物・土壌・気候などの項目について記し、蝦夷地を経営するための指針を随所で簡潔に述べている。東京阿部家資料に残るものは写して、壹・貳・参・肆の四冊から成る。

安政元年、日本は米・英・露と和親条約を結び箱館（函館）の開港を約すなど、この時期、諸外国との外交関係は緊迫し、北方の詳細な地理の把握と海防は急務となっていた。幕府は蝦夷地を直轄地とし箱館奉行を置いて蝦夷地探索を命じていたが、さらに老中阿部正弘は幕閣に諮ってそれぞれの家臣を派遣しての蝦夷地探検を推進する。福山藩の中からその任を拝命したのが関藤藤陰である。

関藤藤陰は備中吉浜（現岡山県笠岡市吉浜）に生まれ、頼山陽に学び、福山藩に儒官として採用された。その後、

福山藩主で幕府老中を務めた阿部正弘から君側御用掛に抜擢されて藩政・幕政を補佐し、正弘亡き後も三代の藩主の側にあつて重責を担った。

安政三年の初回には、医師であり広く蘭学に通じていた寺地強平（舟里）のほか、山本橋次郎が同行し、国後島と択捉島を含む東蝦夷地（太平洋側）を調査している。だが、その間の記録は現存せず、蝦夷本島に戻ってからの標津・箱館の間の記録のみが「肆」に載っている。翌安政四年には、寺地に代わって吉沢忠恕が同行し、西蝦夷地（日本海側とオホーツク海側）から樺太までを調査している。こちらは箱館出立から長万部に戻ってくるまでが壹・貳・参の三巻にわたって記されており、欠損はないと思われる。

本編では、安政四年四月一五日の箱館出立から、樺太におけるロシアとの国境最前線の集落と考えられていたホロコタンに到着、滞在した同年閏五月二六日までの往路（壹及び貳の途中まで）を掲載した。ホロコタンから長万部までの復路と安政三年の記録は来年度以降に出版予定である。

観国録 (七)

地勢 記、山海形勢・川原湖沼・道路灣港等

境界 記、税舖所轄疆界・漁場并所謂運上屋・番屋・通行家及官廨吏員・藩衛砲台等

戸口 記、夷人戸口、附録、内地人別開漁場所謂出稼者

風俗 記、夷人習俗情状及其衣食居宅倉庫等

物産 記、草木・鳥獸・虫魚・金石・海草等

土質 記、壤塊砂磧燥湿肥瘠及水利通塞可施開墾与否

附録、水性清濁輕重

氣候 別、有測器就以知寒暖度数乃記之

四月十五日晴 自箱館至大野、行程五里

亀田 七重浜 一本木 千代田 大野

地勢 箱館灣港ノ大概形成孤山ヲ東南ニ擁シ、西北ニ面シ

海水ヲ受ケ、海水ニ瀕シテ市街櫛比人煙稠密セリ、是ヲ正

面トス、後面ハ右ノ孤山ヲ西南ニ擁シ海水ヲ東北ニ受ケ、

海ニ沿テ尻沢辺ト云フ村落ヨリシテ大森浜ト云フ漁場アリ、

而シテ灣形浅ク舟船碇泊スヘキ地勢ニ非ス、正面ノ灣港ハ

比類罕ナル好畧ト称ス、見渡スニ今日繫泊セル商船百艘ニ

近シ、墨夷ノ商船二隻是レ亦偶来泊セルヲ見ル、既ニ箱館

市街ヲ離レ海ニ循ヒ西面シテ行ク、亀田村万年橋ヲ過キ七

重浜ヲ経テ、海ニ背キ右折西北面シテ行ク、有川ノ上流一

橋ヲ渡リ、一本木・千代田ノ村落ヲ經過シテ大野村ニ達ス、

今日五里ノ行程左リ海ニ循フ者二里半許、右ハ終始渺茫々

ル大曠野ナリ、野ヲ隔テ連山周匝ス、山麓谷間ニ遙ニ見ル

村落ヲ赤川・蒜沢・大川・七重・藤山ナト称シ、右ノ大曠

野ヲ桔梗野ト称ス、路右ハ既ニ海ニ遠カリテ、遙ニ見受ル

村落ハ有川・戸切地・穴太平・文月・濁川等ニテ、穴太平

ノ岡巒上ニ一陣営ヲ見ル、是レハ松前家ヨリシテ海警ノ為

メ将卒ヲ差越シ置ケル処ナリ、此等村落ノ背後皆連山重疊

シテ桔梗野背後ノ連山ト縫接ス、既ニ大野ニ至レハ左右連

山頗ル近ツキタリ

物産 桔梗野茫茫タル平地ナレトモ、矮小ノ柏樹及ヒ雜草

繁殖セルノミニテ更ニ所獲ナシ、而シテ千代田・一本木・大野、文化度以来開墾ノ田畝多ク、近日ニ至リ殊ニ新田増加セル由ナリ、其所獲ハ粟・稗・麦・大小豆ニシテ、水田ニ米ヲ得ルコト亦多シト聞ク、牛馬ノ利亦多キ由、但シコレヲ農耕ヲ用ユルヲ主トセス、特ニ駄送ノ用ニ充ルニ似タルハ未タ農事ノ十分開ケサル所以カ、千代田・大野梨樹多シ、秋実ノ利知ルヘシ

土質 箱館七重浜ノ辺ニ論ナク大野辺ト雖モ地面沙交リニテ稍赤色アリ、必ス瘠地ニ非ルヘシ、桔梗野開墾ノ力ヲ尽サハ幾万石ノ所獲アルヘキカ、捨置クハ惜ムヘキコトナリ、但水利不足ニハナキヤトモ思ハル、老農ニ就テ問ハント欲ス

氣候 大野逆旅酉刻四十九度ナリ、今日經過スル路傍イマタ梅花ハ開カサレトモ柳ナトハ頗ル新葉生長シ、雑草モ稍々青々トシテ花開ク者亦鮮カラス

四月十六日雨 大野発行鷺之木投宿、行程八里半

本郷 一之渡 峠下 宿野辺 追分 森 鳥崎 鷺之木
地勢 大野・本郷・一之渡ノ三村人家連接シ、一之渡村ヨリ左ノ山麓ヲ往クニ足趾少シク登リ、既ニシテ又下リ田間ニ出テ小里間ヲ過ク、此ヲ国菱ト称シ峠下村ノ内ナリ、峠下村ニ至リ昨日前面ニ見シ山下ニ付当リ此ヨリ山坂ヲ攀上ルコト殆半里、此ヲ茅部峠ト称ス、峠ヨリ回顧スレハ東南打開ケ箱館港モ歴々一覽スヘキニ、今日ハ煙雨ニテ黯然トシテ毫モ目ニ触ル者無シ、峠ヲ下リ路右ニ巨大ノ一沼ヲ得ル、沼ヲ隔テ駒ヶ岳呼テ答ント欲スル程ニ見ルヘキヲ今日ハ聊モ見得サルナリ、沼ヲ右ニシテ行キ左ハ山ニ循ヒ屈曲登降スルコト数度ニシテ沼ニ背キ又一嶺ヲ踰ユ、此ヲ小沼峠ト云フ、茅部峠ニ比スレハ三分ノ一二モ及ハサレトモ亦稍峻絶ナル処モアルナリ、此峠ヲ過テ路左ニ一沼ヲ得ル、此ヲ小沼ト称シ嚮ニ沿来リシ沼ヲ大沼ト称ス、大沼南北ノ径リ四五町七八町許トモ思ハルレトモ、東流シテ鹿部ニ至リ海ニ入ル由、其長サハ数里アル由ナリ、小沼周廻十町許モアルヘキカ、既ニシテ小沼ノ溢出シテ一川ヲ為ス者アリ、

此ヲ度レハ午飯ヲ用フヘキ所ナリ、一人家アリ、此処ヲ宿野辺ト云、此レ全ク土庶通行ノ為メニ設ルナリ、大野ヨリ此ニ至リ四里トス、又行三里ニシテ一人家アル処路岐アリ、追分ト称ス、此ヨリ右ヲ砂原路トシ左ヲ鷺之木路トス、左ニ就キ一川ヲ度ル、此ヲ中之川ト称ス、又山岡上ヲ往キ海浜ニ出ツ、此ヲ森村トス、頗ル人煙稠密而シテ夷宅十余戸アリ、此処ヨリ左折、海ニ循ヒ鳥崎川ヲ度リ鳥崎ノ漁場ヲ過キ鷺之木ニ達ス、茅部峠ヨリシテ此際一円総称シテ茅部ト云ヒ就中首村アリ支村アリ、砂原・鷺ノ木・落部ノ如キ皆首村ナリ、而今日所過ノ宿野辺・追分・森・鳥崎、皆鷺之木管内ナリ、今日方向茅部峠ヨリシテ東北ヲ指シ森村ニ至リ転シテ北差西ニ向フナリ、而シテ峠村・追分ノ間深山密樹ノ中ヲ過キ、追分ヨリシテ平坦岡上矮小草木ノ植立セラルノミニテ四望豁然ナリ

戸口 森村ノ夷民十余戸アリ

物産 大野・峠村之間農民多ク其所獲昨日所記ニ変セルコトナシ、林中巨材ハ柏・樺・雁皮・厚朴・桑・柳多シ、路

傍雜草、薇蕨・款冬・福寿草ノ類已ニ繁茂青々タリ、鷺之木辺頃日鮮漁所獲甚殷盛ナリ

土質 大抵砂地ノミナリ

氣候 大野逆旅卯刻四十七度、鷺之木逆旅酉刻四十八度

四月十七日雨 鷺之木發行山越内止宿、行程五里拾三

町

福間 棒美 蝦谷古丹 本茅部 石倉 昆内 茂無部

落部 野田追 沼尻 油追 山越内

形勢 鷺之木ハ東北内海ニ面シ南崗巒ヲ背後ニ負ヒ西北海浜ニ沿フテ蝦夷ニ至ル咽喉ノ地、而シテ東「ヲシラナイ」・南宿野辺・西石倉ニ至ル数村ノ首部タリ、村ヲ出ル四五町ニシテ鷺之木川徒涉シ山岡ニ登リ磯端ニ出ツ、湯ノ岬ト云フ、礁石多ク遠浅ニシテ浪緩ナル処、岸ヲ隔ツル三四間許ニシテ方一間程ノ所沸々潮水ヲ突テ湧出ルアリ、温泉ナリ、而其泉脈ハ後ロノ岡上ニアリ、其岡下ニ温泉アルニ甚々温ルキ故土人汲ミ取沸シテ浴スト云、福間・棒美・蝦谷古丹

ヲ經、宮之沢川ヲ徒渉シテ一岡ニ登ル、左山ニ沿テ村ヲナス、本茅部ト云、岡ヲ下リ山ニ循フテ海浜ニ出、山瀬泊ト称ス、転シテ左山ニ傍ヒ平砂ヲ行数十歩、岡阜汀渚ヲ登降數回、「石倉」「コンナイ」ヲ過テ茂無部ニ至ル、小岬アリ、山瀬泊ヨリ此ニ至リテ一小湾ヲナス、夷家八九軒夷倉二三在ルヲ見ル、土人云フ、昨年痘ヲ避テ山ニ入未夕帰ラサルモノ十ノ八九ナリト、是ヨリ北ニ向ヒ山ニ循ヒ転シテ西ニ向ヒ落シ部ニ出ツ、此地山勢遠ク東南ヲ囲ミ西岡巒重疊シ平地北ニ面シテ一村落ヲナス、地勢鱗形ノ如シ、方ニシテ三町余モアルヘシ、夷屋多シ、是此辺ノ首部ニシテ茂無部・野田追・沼尻・油追等ノ村落ヲ管轄シ、以テ人間ト蝦夷トノ限トス、村西ニ落部川アリ、汎流ニシテ水深シ、兩岸ニ杭ヲ立大綱一条ヲ張りワタシ、蝦船ニ綱ヲ付ケ大綱ニ縁シテ船ヲ進退上下シ、以テ人ヲ渡スナリ、一岡ヲ上下シ海浜ニ出テ絶壁海ニ臨ミ汀砂コロタ石多シ、行ク數十町又平岡ニ登ル、地勢次第ニ開ケ山遠ク岡闊ク平坦ニテ矮小雑木生茂セリ、野田追ヲ過キ野田追川ヲ過ク、船渡前川ノ

如シ、海浜平岡、上沼尻・油追ヲ經テ山越内ニ達ス

戸口 茂無部夷家七戸、落部三十余戸、野田追十戸許アリ、村々ノ前後皆漁場アリテ漁業最殷盛ナリ、鮭魚所獲昨日ニ記スル如シ

産物 路傍「ヲンコ」・李・絮柳・玫瑰・款冬其他雜草繁生スルヲ見ル

土質 本茅部・茂無部辺黒土砂雜リ、落部以西赤黒色ノ粘土多シ、墾開セハ良地ナルヘキニ漁業ニ利ヲ射テ農事ヲ廢ス風習惜ム可シ

氣候 鷲之木逆旅卯刻四十八度、山越内逆旅酉刻四十六度

四月十八日晴 同所滯行

土質 測水器風袋百七匁一合三勺入 百六十九匁 風袋共掛目也、正味六十

氣候 卯之刻四十三度、酉刻五十八度半

四月十九日霽 日咲微雨 山越内発程「ヲシヤマンベ」止宿、

行路九里半

フエンベ フコツナイ ホンオマナイ トコタン
 ユウラツプ フェタウシナイ ヤマサキ ホンシラリカ
 シラリカ ルコツ ホロナイ クンヌイ ワルイ
 モンベツ

地勢 山越内会所元ノ岸容東北二向フテ浅湾ヲ開キ、右ニ
 湯追ノ岬海面三四丁所ニ迸出セリ、然レトモ浅瀬ユヘ商船
 此ニ抵ル者遠ク洋中ニ下錨スト云、会所ノ在ル所極テ海ニ
 瀕シ其相距ルコト数十弓ニ過キス、背後ハ二三丁ヲ隔テ、
 平岡夷隴綿延連亘セリ、早間会所ヲ出テ行クコト四五丁ニ
 シテ海激ニ降り岡足ヲ沿ヒ平沙上ヲ行ク、「フエンベ」ヲ
 過キ十余町ニテ「ラコツナイ」細流アリ、此際ヨリ丘陵漸
 ク遠カリ、地形稍開朗ナルヲ覚フ、「ホンヲマナイ」ニ至
 レハ幅員愈寛ク広袤二三里モ有ンカ、唯榛樾離立目ヲ遮ル、
 其詳ヲ得ス、「トコタン」モ地勢同様ニテ水沢激沮ノ地ナ
 リ、又行ク一大漁場アリ、「ユウラツプ」ト称ス、此辺地
 勢ノ迢眩ナルコト前ニ倍セリ、憩所ヲ過キ「ユウラツプ」

川ヲ航ス、川広十余間水勢頗ル迅激ナリ、其源「フトロ」
 ト云フ地ニ出ルト聞ク、此ヲ過キ三丁許ニテ亦其支流アリ、
 幅六七間許は復渡舟アリ、此ヨリ浜形一変シ衝ヲ東北ニ転
 ス、蓋シ鷲之木ヨリ此辺迄ハ些ノ迂曲アリト雖トモ概スル
 ニ正北行ナリ、是ヨリ以往ハ漸時ニ内浦大湾ノ巽底ニ赴ク
 ナル可シ、六七丁ニシテ細溪ヲ踰ヘ「フェタウシナイ」、
 此ニ至リ岡陵亦海ニ逼迫セリ、則チ浦激軟沙ヲ踏ンテ行ク、
 「ヤマサキ」「ホンシラリカ」ヲ経過シ「シラリカ」ニ抵
 ル、此処少シノ岬形ヲナセリ、「ルコツ」ヨリ阜丘亦遠カ
 リ、平沢范瀾ノ地トナル、「ホロナイ」「クンヌイ」「ワリ
 イ」等皆一轍ノ地勢ニテ其間夕線流七八条ヲ踰ユ、「モン
 ベツ」ハ右等ノ地ヨリ豁開ニテ其川ノ大キ殆^(大)ント「ユウラ
 ツプ」ニ比ス、然レトモ水浅キユヘ掲厲ス可シ、夫ヨリ平
 野三十丁計リニシテ一大川ノ海ニ注クアリ、則チ黒松内ノ
 末流ナリ、川左ニ循フテ遡ルコト五六丁ニシテ「オシヤマ
 ンベ」番屋ニ達ス

境界 山越内会所ノ右二三丁所ニ界標アリ、華夷ノ地境ト

ス、左二邏所アリ、商旅ヲ譏ス、路引無キ者出入ヲ許サス、松前私邑ノ節ハ行旅皆征アリシ由、当時官命アリテ其事廢スト云フ、聞西浦出漁之民此ヲ過ル者年二万余人ト云フ、今日所過ノ地皆山越内管内、「オシヤマンヘ」モ其出番屋ナリ、官吏ハ山越内ニ在リ、「フエンベ」「ヨコツナイ」「トコタン」「ユウラツプ」「フエタウシナイ」「ヤマサキ」「ルコツ」皆漁場ナリ、憩所ハ「ユウラツプ」「クンヌイ」ニアリ、午餉所ハ「シラリカ」ニアリ

戸口 山越内夷屋十五六煙、「ユウラツプ」二十余、其余各所三四戸アリ、又無キ者アリ、之ヲ略ス

風俗 大抵客歳見ル所ニ異ラス、唯屋側植ル所ロノ木幣上熊羆ノ鬮體ヲ穿チ貫ク者アリ、多キハ七八顆ニ至ル、是レ始テ見ル処ロナリ、是亦陋俗熊ヲ以テ神トナスユヘカ
物産 草木、今日見ル所玫瑰・熊笹・白樅・柏・蕨薇等多シ、又矮短雜樹アリ、一々名ヲ詳カニセス
土質 平野大率沙地ナリ、其奥ニ至ラハ如何有ンカ、「クンヌイ」辺ヨリ以往ハ皆黒色粘土ナリ

氣候 下卯四十九度、申牌四十八度
雜記 当年大野、土井侯人衆ヲ此地ニ遣シ墾開ヲ謀ル、蓋シ先年人ヲシテ金鉞ヲ索メシム、未タ其所ヲ得ス、故ニ暫ク此地ニ占居シ徐々是ヲ探搜セントス、故ニ此事アリ、其請フ所万余石ノ地ト云フ、其余越後及ヒ箱館ノ民墾田ノ為メ地ヲ請フ者三四輩、官皆之ヲ允ス、今山越内管内十余里ノ地、瀕海漁場ヲ除ク外皆割与シ尽スト云フ

四月廿日雨 「オシヤマンベ」発行黒松内投宿、路程六里

栗木岱 イヌ、シナイ 二股 チフトシナイ 薇台
チライトマベツ エナラ幣嶺 リナリカ
地勢 「オシヤマンベ」番屋元ノ形勢東南ニ面シ絵鞆・恵山兩大岬ノ間灣入セル海面此処ニ至テ窮ル模様ナリ、故ニ山越内ヨリシテ此ニ來ル海浜ハ北ヲ指シ、此ヨリ「アブタ」「ウス」ニ向フ海浜東南ヲ指スナリ、番屋ノ前ニ於テ東北ヨリ西南ニ指シ流レ海ニ注入スル川ハ昨日記セル如ク

黒松内方角ヨリ来ル者ニシテ「オシヤマンベ」川ト称ス、番屋ノ前面少シク左ニ当リ川ヲ隔テ浜辺ニ在ル漁場地名「アンチー」ト云、但シ童子ノ語ルマ、ヲ記ス、
称呼ノ誤アルモ知ルヘカラス、番屋ノ背後ニ出テ西向シテ発行ス、此路西蝦夷地「ヲタスツ」「スツ、」ノ両場所ニ出ル者ニシテ、東西蝦夷往来相通スル道路ノ最便且近捷ナル者ナリ、其路黒松内山中ヲ越ルヲ以テ古来黒松内越ト唱フ、松前家領分ノ時ハ人ノ通行ヲ禁シ、僅カニ夷人或ハ近辺税舗ノ番人等時アリテ往来スルノミナルニ、方今官領トナリ務テ人ノ往来便利ナルヲ要トセラシ、ヨリ、前年箱館ノ福次郎・千代田郷ノ才次郎ナル者財ヲ散シテ此道ヲ開キ、是迄一縷ノ細径ナリシニ、忽チ變シテ蕩々タル大道トナレリ、但シ兩人開ク所ハ「ヲシヤマンベ」ヨリ黒松内ニ止リ、黒松内ヨリ西海岸ニ達スルマテハ「オタスツ」ノ請負人栄五郎ノ手ニ成ル由ナリ、サテ「オシヤマンベ」ヨリ発シ一里許ノ間平遠原野四望豁然タリ、第一里ノ喉木地名栗木岱、此辺ヨリ左右丘陵逼近シ樹木密鬱ニシテ山林間ノ路トナレリ、新開ノ路ニシテ雨中且雪消

ノ水ヲ得テ泥濘鞋ヲ没シ其艱苦亦甚シケレトモ、堂々タル官道ナル事ハ夷地ニ罕ナル者ト云ヘシ、第二里ノ喉木地名「イヌ、シナイ」、ソレヨリ半里許ニシテ二股ト云、此処ニ「オシヤマンベ」ヨリ休憩所ヲ置ク、又半里ニシテ第三里ノ喉木地名「チフトシナイ」、此ヨリ行十町許ニシテ岡巒上ニ登ル、薇台ト云、第四里ノ喉木地名「チライトマヘツ」、此辺低山ヲ左ニシテ行ク、瑣些ノ登降アリテ遂ニ又一岡巒ニ登ル、此ヲ「エナヲ」峠ト称ス、夷地東西ノ分界ナリ、岡巒ノ上平坦ニシテ行ク、三十町許ニシテ平低ノ地ニ下ル、第四度ノ喉木ヲ得ル、地名「リナリカ」ト云、此ヨリ半里強黒松内ニ至ル、今日経過ノ地西北ヲ指スニ似テ実ハ北ヲ指ス者十ノ七八ニ居ル、栗木岱以北路登降アレトモ、要スルニ平地ニシテ独り薇台・幣嶺ヲ踰ル者僅カニ山坂上下ノ状アルノミ、川流ハ「オシヤマンベ」川ヲ右ニシテ傍テ行ク、川幅二十間許、栗木岱以下ハ舟船通用スル由、上流ノ主タル者二派アリ、二股ニテ相合シ其一西ヨリ来ルモノ官道ヲ横截スル故ニ今日円木艇ニテ渡ル、其余小流西

ヨリ来テ「オシヤマンベ」川ニ落ル者多シ、皆今日渡過ス、聞クニ此夥多ノ小流及ヒ幣嶺以北ノ小流、凡ソ「オシヤマンベ」ヨリ黒松内マテ橋ヲ架スル者三十八所、上文所謂福次郎・才太郎官ニ乞テ、今年ヨリ五年ノ間、士人ヲ除ク外通行ノ者一橋毎二三錢トシテ通計百十四錢ヲ福次郎・才太郎ニ致ス事トナレリト、サテ幣嶺以南ノ水ハ皆「オシヤマンベ」川ニ落チ、幣嶺以北ノ水ハ皆黒松内川ニ落ツ、黒松内川水源ハ「シマコマキ」ノ山中ヨリ来ルトカ、「リナリカ」喉木ノ北数町ニシテ此川裂テ二流トナル、今日其裂テ東スル者ヲ渡ル、既ニ渡レハ東スル者転廻シテ北流ス、是ニ於テ二流ヲ左右ニシテ宿所ニ着ス、而シテ二流ノ大小右ニスル者ハ左ニスル者ノ三分一トモ云ヘキ也

境界 「オシヤマンベ」番屋山越内会所ニ隸属ス、山越内管轄スル所ノ海浜十二里余ニシテ漁場十四所^{但シ十四所ノ數ハ再ヒ檢覈ヲ期ス}ノ由ナリ、今日經過スル地「エナオ」峠ノ巔マテヲ「オシヤマンベ」管内トス、ソレヨリ以北黒松内辺「アフタ」領トス、「エナオ」以北ハ皆西地稅舖ノ管轄ニ係ルヘキ地勢ニ似テ、

東地ノ「アフタ」ヨリ領スルハ必ス然ル所以アルナラン、後日ノ檢覈ヲ期ス、「オシヤマンベ」番屋元通行家一棟・旅宿所一棟・板倉二棟及ヒ厩・漁小屋等アリ、又「ウス」ノ善光寺往年ヨリ仮リニ此地ニ移轉シ番屋ヲ中分シテ寺院ト為セリ、又盛岡侯警衛人衆此地ニ屯戍スル者陣營イマタ成ラス、仮リニ旅宿所ニ寓ス官吏ノ詰合ハ山越内ヨリ統治セル故ニ此地ニ居ル人ナシ

戸口「オシヤマンベ」番屋元夷家四十軒許、山越内領中ノ夷凡テ三百人許ニシテ其老幼廢疾ノ者ヲ除キ見在使用ニ供スル者八十人許ノ由

物産「オシヤマンベ」近辺黒松内越路筋近山金坑アル由聞キシコトアレトモ今詳ニスルコト能ハス、善光寺ノ役僧淨心ト云者其地ニ石漆アル由ヲ語ル、帰来ノ時再檢セント期ス、草木、栗木岱ノ辺栗樹多シ、其余經過山中楸・柏・樺・柳多シ、草ハ虎杖蓬蒿方ニ萌茁シ款冬・牛舌・ムイ等ノ花亦多シ、又木賊多ク殊ニ熊笹繁茂甚シク大サ大指ニ勝ル許ノ竹多シ、薇台ハ薇ノ多キヲ以テ名ヲ得ルナリ、黒松

内川鮭等ノ魚遡ルコト多キ由、「オシヤマンへ」川モ必ス然ルヘシ、再聞ヲ期ス

土質 水辺ハ砂石赤土ニシテ水流ニ稍遠カル所ハ黒土真土多シ、赤色粘土亦多シ、要スルニ何レノ地モ米ヲ除ク外諸穀必繁殖スルトノ説話多シ、「オシヤマンへ」番屋元モ頗ル畦畝多シ、栗木岱ニ箱館ノ豊作ト云者、「チライトマベツ」ニ驚ノ木ノ八内ト云者来テ居宅ヲ構ヘ其地ヲ開墾ヲスル事ヲ創始セリ、両地ニテ十五万坪許新墾スヘキ意ノ由ナリ、黒松内ニ住スル利右衛門ナル者亦其地ヲ開墾ノ企ヲ創始セルヲ見ル也 「オシヤマンベ」井水風岱共百七十匆気候 卯刻四十九度、酉刻五十二度、黒松内越山中既ニ雪消ス(下脱方)イヘトモ到处残雪魔斑ヲ為シ全ク消シタルニ非ス

四月廿一日曇 黒松内発行イソヤ止宿、行程五里拾九町

ネツブ ヒグリ バミクロス ヲタスツ ベンザイドマリ
タンネモイ フツコトマリ アイビクシナイ タンネシウ

ヒヤ ユフキナイ サミトリマ ホロベツ アルトウ

地勢 黒松内ハ幣嶺ノ西北一里許所、「シマコマキ」ヨリ来ル溪水「リナリカ」ノ北ニシテ分派シ、一水東又北シ一水ハ西シ、両川ノ間一大洲ヲナシタルモノ也、往年利右衛門ナル者始テ「フシコクロス」ニ至テ家シ後官ニ願ヒ此地ニ移リ住シ、行旅憩息止宿ノ処トナシ「シンクロマツナイ」ト号シ于今卅九年住居ス、北ニ山ヲ見テ川ヲ前ニシ南又山ニ対シ東ハ南山北巒相逼リ唯西北ノ間纔ニ打開キタレトモ、概スルニ深山林中別ニ一境ヲナスモノナリ、今日利右宅前円木艇ヲ以テ川ヲ渡ル、此川即「スツ、」川ノ上流ニシテ、昨記黒松内川ナルモノ北西流シテ今一派ノ溪流ト逢合シテ「スツ、」ニ至テ西海ニ入ルナリ、川北数町一小山ヲ上下シ溪流板橋ヲ架スルモノヲ渡リ稍平坦ノ処ニ至ル、「ネツブ」ト云、仍テ此水ヲ「ネツブ」川ト云フ、密林中ニ入一里許山ヲ躡、平地ニ下リ又山ニ入り下リテ「スツ、」川ノ辺ニ出、山ニ傍テ一茅屋ヲ見ル、人ノ有ルナシ、此地ヲ「ヒグリ」ト云、右山左川行クニ百歩許九折ヲ攀テ

山頭ニ登リ鬱林中ヲ行ク、次第ニ陵夷シ又「スツ、」川ノ
 辺ニ出、又川ニ背キ行クコト数町、「ババクロス」ト云フ
 処ニ抵リ、行コト半里許ニシテ豁然タル曠原上ニ出テ西海
 ヲ眼下ニ臨ム、行ク数丁ニシテ路岐ス、一墩木アリ、左「ス
 ツ、」右「ヲタスツ」ト云フ追分ナリ、
黒松内ヨリ此処ニ至
 ル未タ墩木ヲ不立、
 故ニ路行ク負担ノ者ニ問テ地
 名ヲ記ス、猶再檢ヲ期スル也 私領ノ時ハ黒松内ヨリ川ニ沿フ
 テ迂回曲折シテ来ル故ニ路甚迂ナリ、又船ヲ以テ下リテ
 「スツ、」ニ至ルハ敏捷ナレトモ、雪消ノ水迅流スル時ハ
 危キ故ニ不通、今公領ニナリテ此新道開ケ川ニ依ラスシテ
 直路ヲナシ平坦近捷ノ官道トナリテ両便ヲ得ルト云フ、右
 ニ折レテ岡ニ傍ヒ高原ヲ行ク十町許、遂ニ海浜ニ出ツ、
 「ヲタスツ」ニ抵ル、人煙稠密頗繁盛ナリ、「タンネモ
 イ」「フツコトマリ」等凡数村ヲ経テ「ホロベツ」板橋ヲ
 渡リ「イソヤ」ニ達ス、抑々今日経過スル処ノ地勢其大概
 ヲ云ハ、「ヲシヤマンベ」ヨリ幣嶺ヲ過キ黒松内ニ至ル
 マテ南西辺ハ山越内領ノ山々ノ麓、東北辺ハ「アフタ」領
 諸山ノ麓左右相引テ黒松内ニ至リ殆ント相接近ス、既ニシ

テ南辺ノ山ハ連亘シ西海岸「スツ、」ノ山趾トナリ、同所
 弁慶力岬ニ至テ海ニ走ル、北辺ノ山モ連走シ西海岸「ヲタ
 スツ」山トナリ其趾弁財泊リニ至テ海ニ臨ム、而シテ「ス
 ツ、」川ハ黒松内以北平野密林間ヲ蜿蜒シ、諸溪水ヲ合シ
 テ一巨川トナリ、遂ニ西シテ「スツ、」ニ至テ海ニ入ル、
 黒松内以北ノ野モ次第ニ打開ケ追分ニ至テ豁然タル曠原ト
 ナリ、漸々平低シテ海浜ニ至ル、此処北弁財泊ノ岬南弁慶
 岬ト相距ル一里余、相對シテ一大灣ヲナス、而シテ「ス
 ツ、」「ヲタスツ」亦南北相對シテ此灣中ニ有リ、「ヲタ
 スツ」ヨリ「イソヤ」ニ至ル間ノ人家山岡ヲ後ニシ海面
 シテト居ス、此海畔奇礁怪巖多シ
 境界 黒松内利右衛門宅地前「スツ、」川ヲ以テ「アブ
 タ」「ヲタスツ」ノ境界トスト聞ク、蓋黒松内川以南「ア
 ブタ」領以北「ヲタスツ」領ナラン、未タ標木無シ、又
 是ヨリ海浜ニ至リ北「ユウキナイ」ノ村口ヲ以テ「ヲタ
 スツ」領ノ界トナス、黒松内利右衛門ハ数年此地ニ住シ
 テ、行旅ヲ憩泊スルヲ以テ業トナシ運上屋ノ管轄ヲ不受独

立ス、旅舎一棟・厩一棟・物置雜小屋二棟・弁天社一字ヲ見ル、此山道処々ニ山稼スル小屋ヲ見懸タリ、「ヲタスツ」運上屋元旅舎一棟・厩・物置・板屋等アリ、外漁小屋六七十内ニ妻子引連越年スルモ又常住スルモノモ許多アリト云、「ヒヤ」ニ番屋一軒「ヲタスツ」ヨリ置処ナリ、漁小屋数十家アリ、其外各村皆同様漁小屋等「ヲタスツ」ノ趣ニシテ唯其数ニ多少アルノミ、概スルニ「ヲタスツ」ヨリ「イソヤ」ニ至ル一里余ノ海浜人煙殆ント相接ス、其繁盛推テ知ルヘシ、「ヲタスツ」官吏詰合ハ「スツ」、「ヨリ統治ス、同心二人居ルト云フ

戸口 「ヲタスツ」ニ夷小屋一二ヲ見ル、「タンネモイ」ニテ四五戸ヲ見ルトイヘトモ何レモ夷人居ラス、聞ク、昨年来痘瘡流行、当春ニ至蝦夷男女四十余人ヲ損スルニ依リ恐怖甚シク、山ニ遁匿スルニ猶免ル、コトヲ得ス、今老壯十人許山ニ在リテ不出来、セカチ一人メノコ一人幸ニ死ヲ免レテ村中ニアリ、実ニ蝦夷ノ災厄殆ント殄滅スルニ至ル故ニ其廢屋モ出稼ノ者代リ住スト「ヲタスツ」ノ蝦夷四五十人在ルモノ今塵カニ二人ヲ存ス、

「イソヤ」、可憐ノ甚敷モノナラスヤ、漁小屋ハ各村数十連モ亦アリト、
簷皆北越辺ヨリ出稼スル者ナリ、一々記セス

物産 西海岸此辺鯡漁三番ヲ期ス、大抵四月一杯ニ済ミ夏獵業ナシ、仍テ畑作ヲナス、粟・稗・大豆・大根・苾等ヲ植ス、粟・大根最成熟ス、秋味又有レトモ至テ少シト云、草木、黒松内以北林中ブナノ大木ヲ多ク見ル、其他樺・椴・柳・樺ノ類尤多シ、木賊・ムイ・熊笹等甚多シ、虫売ハ白色ニ黄ヲ帯テ自身ナル大蝸牛ヲ「ヒグリ」「バヱクロス」辺林中ニテ多ク見ル、昨日利右ノ宅ニテヤマベト云形味トモ鮎ニ似タル魚ヲ食シタリ、「スツ」、「川ニテ取ルト云

土質 黒松内辺ヨリハ赤黄色ノ粘土ノ処多ク見タリ、「ネツブ」ニ一ヶ所方二町余開墾スヘキ地、「バヱクロス」ヨリ半里程北ニ一ヶ所方三四町ノ場所一二仮小屋アリテ開墾スヘキ模様ト思ハル、尤昨年比試耕セシニヤ畦畷ノ跡大分見ヘタリ、其他深林ノ中殊更海畔曠原ニ至テハ、雜木荊柴ヲ剪伐シ水道ヲ付溝漉ヲ修理シテ開墾ノ力ヲ尽サハ、米ハ知ラス他穀種ハ必成熟スヘキ地ト思ハル也、山越内領ノ地

性トハ大ニ異ナルモノト覺ユ 黒松内水性、流水風袋共
百七十一号
氣候 卯刻四十九度、酉刻四十九度

四月廿二日陰午下晴 磯屋出立岩内止宿、海程五里半
余

地勢 磯屋運上屋ノ在ル処、岡壟三面ヲ環擁シ氣象極メテ
窘束、但西一面ヲ開イテ海ニ面セリ、灣嶽ハ正北ニ向ヒ運
上屋モ亦同シ、左ニ昨日經過ノ「アルトウ」少シノ出岬ヲ
為シ右ノ「ノツト」岬ト対峙シ小湾ヲナシ、其先キハ南ノ
弁慶岬ト北ノ雷電岬ト遙ニ相揖シ大湾口ヲ為セリ、其距離
十余里モアル可シ、運上屋ノ前ニハ岸ヲ距ルコト百余歩所
ニ巨礁アリ、延透數十歩アリ、其最高所ニ天女祠ヲ安置シ
長橋ヲ架シテ之ニ通ス、祠左一巖ノ双尖ヲ為ス有リ、二見
ノ浦ト目称ス、蓋中土勢州ノ所有ニ擬スル也、漁獲アル毎
ニ必ス是ヲ祭ルト云フ、運上屋左右ニハ漁廠・蚕舎連絡里
許、其盛ナル「ヲタスツ」ニ伯仲ス可シ、偕此ヨリ岩内ニ

抵ル海陸兩道アリ、陸道ハ山路嶮巖ニシテ且残雪モアリテ
伝遞甚艱難ナル由ユヘ此日海路ニ由ル也、辰牌上舟、舟子
十余人櫓ヲ鼓シテ進行ス、甚駛疾ナリ、四五丁ニシテ「シ
ユマヤコタン」、此際ハ十余丈ノ蘚崖直チニ海ニ迫リ往々
路ヲ断ツ、則チ崖趾ニ棧ヲ造リテ通セシム、右様ノ所六七
アリ、其棧道長サ大抵數十間アリ、此ヲ過キテ行クコト半
里許ニシテ「ノツト」岬、危巖嶮峻ノ所ナリ、舟ヲ転シ岬
背ニ出ツ、一大河アリ、海ニ注入ス、是ヲ「シリベツ」ト
称ス、其源ハ羊蹄岳ヨリ来ル、川身水深ク海舶ヲ下ス可シ、
河口ハ百余歩モアラシカ、地勢頗ル開明ナリ、舟此ヲ過ル
ニ水ト潮相戰声勢甚雄壯ナリ、平山ニ沿テ進ムコト十余丁、
山勢漸ク峭絶トナル、「アブシタ」ト云フ地アリ、是ヲ磯
屋・岩内ノ分界トナス、夫ヨリ絶壁百余丈屏障ヲ列スルカ
如キ所ニ循フテ行クコト半里許ニシテ雷電岬ニ至ル、是即
チ雷電山脈ノ迸出スル者也、山頂ヲ仰クニ骨角稜々トシテ
險絶畏ル可シ、已ニシテ岬末ニ至ル、一巨巖アリ、純骨ニ
シテ肉無ク前薄ク側潤シ殆ント一大木板ノ如シ、其上錯愕

簇起シテ手指ヲ連ルカ如ク、其中央欠壞シテ半月形ヲナス、
 弁慶刀掛岩ト目ス、其余奇礁羅陳セリ、岬ヲ遶テ行、岩勢
 愈瑰偉ナリ、二ツノ瀑布アリ、此辺硫黄極テ多ク、波上数
 ケ所ニ煙ヲ噴スルヲ見、皆是湯泉ノ湧出スル也、忽騰リ忽
 滅シ奇套言フ可カラス、山中ニモ又温泉アル由、巖趾ニ沿
 フテ進ム、一巖岬ヲ得タリ、此ヲ廻レハ「ニベシナイ」ト
 云フ、是又前同様ノ高岩峻壁ナリ、三瀑アリテ是ニ懸ル、
 其中央者尤奇也、高サ二十余尺モアラン、濺ク者ハ展テ縮
 トナリ、激ナル者ハ散シテ霧トナル、頗ル美觀トス、又行
 里余、岩崖去ツテ砂渚来ル、是ヲ「ニツナイ」トナス、此
 ヨリ漁廠櫛比シテ陸離絶ヘス、一里許リニシテ沙嘴ヲ廻リ
 港中ニ入り、晡時岩内運上屋ニ抵ル
 境界 磯屋官吏アリ、尤「スツ、」ニ隸ス、此地ノ漁廠
 百五六十モアル由、殊ニ「シユマヤコタン」ニハ小市モア
 リ繁盛驚ク可シ、大抵昨今過ル所七八里ノ間々漁場連綿ト
 シテ殆ント間断無キガ如シ、昨年東浦歴覽セシニ漁利第一
 ト称スル「ネモロ」ノ如キ全ク数十里ノ地ヲ占ムル故ヘナ

リ、此辺ハ僅々十里内ノ地ニシテ此ノ如キ繁庶ナリ、コレ
 以テ西浦魚蝦ノ利鬪島ニ冠タルヲ見ル可シ、聞ク、西浦六
 ケ場所ト称スル者アリ、昨日ノ「オタスツ」今日ノ「イソ
 ヤ」是其一ト云フ、是日過ル処「ノツト」岬ヨリ「ニツナ
 イ」ノ間々大概県崖偏仄ノ地ニテ絶テ漁舎ヲ見ス、但「シ
 リヘツ」河左ニ茅舎二三ヲ見ルノミ、其他ハ前ニ言フ如キ
 繁錯ノ地ナリ、「イソヤ」ニ蝦夷十余名アリ、又痘ヲ避ケ
 テ皆山中ニ潜匿シ、止リ居ル者唯一夷婦ノミト云
 此 入于 此条可係戸
 口部、誤挿
 物産 船中ユヘ知ルコトヲ得ス、土質亦同シ 「イソヤ」
 流水掛目風袋共百七十匁
 氣候 卯刻四十四度、酉刻五十四度、昨今見ル所ノ山岳積
 雪爛然隆冬ノ模様ニ異ナラス、唯岡巒ハ無シ

四月廿三日晴 「イワナイ」発船「フルウ」投宿、行
 程六里 海路直徑ハ六
 里ニ至ラス
 ホリカツプ ヒロカルウシ チヤツナイ シフイ

カヤノマ ウスベツ アルト トマリ カブト岬

サカツキ テリキシ モイワ 弁財泊

地勢 「イワナイ」ノ大勢ハ西蝦夷地中ニ於テモ首数スベ
 キ深灣佳港ナリ、其地西北ニ面シ、左ハ運上屋元ヨリ「ニ
 ツナイ」岬ニ至リ西差南ニ指シ、右ハ「ホリカツプ」ヨリ
 シテ「カブト」岬「サネナイ」岬西差北ニ指シ、宛然左右
 翼ヲ張ル如シ、而シテ海水西北ヨリ灣入スル者一里ニ上ル
 ヘシ、其左右ノ幅モ殆ント二里許アルヘシ、運上屋ハ上文
 所云左翼ノ部ニ係ル北面シテ海ニ臨メリ、其背後ハ港灣ヲ
 周匝シテ平沢縹渺、其幅員長短斷補セハ方一里以上アル
 ヘシ、其又背後ヲ取廻ス諸山ハ疎林岩石相交リ高低亦齊シ
 カラス、而シテ残雪ノ山ヲ没スル者十ノ七八ナリ、「フル
 ウ」場所ニ赴ク海陸兩程アレトモ、便風ニ乗シ速行シテ今
 日「シヤコタン」マテモ往カント欲シ舟ヲ命シ發行ス、針
 路已ヨリ亥ヲ指シ帆ル、既ニシテ風稍利便ナラス、丑寅
 ニ帆リ「ホリカツプ」ノ沖ニ至リ轉シテ山ニ循テ北行ス、
 「欄外 発岩内行一二里間、舟中頻々回顧羊蹄岳、巍然挺

出于諸山之背、姿態全与富岳同、可謂夷地ノ鎮矣、執羅針
 照之、在辰巳間」 「イワナイ」運上屋ヨリシテ海浜平坦
 ナルノミ、一モ漁場ナク「ホリカツプ」始テ得ル漁場ナリ、
 此処一川アリテ鮭魚ノ利アル由、ソレヨリシテ山麓丘阜稍
 海面ニ近ツキ、其間溪沢ノ小ナル者一小灣ヲ為ス者アル毎
 ニ漁場アリ、即チ「ヒロカルウシ」「チャツナイ」等ナリ、
 「ウスベツ」ヨリシテ丘阜崖岸峻絶、石岩嵯峨ニシテ海浜
 ノ状態一変ス、「カブト」岬ニ至リ岩礁絶壁最勇壯ノ状ナ
 リ、此岬ヲ廻レハ稍平坦ノ浜ヲ得テ「カブト」「モイワ」
 兩岬ノ間一浅灣ヲ為ス、「サカツキ」「テリキシ」其地ノ漁
 場ナリ、漁事ニ設ル番屋アリテ頗ル佳場ナリ、「モイワ」
 ノ岬ヨリシテ又岩崖絶険ノ形勢トナル、而シテ灣形ナク僅
 カニ一小灣形弁才泊ヲ得ルノミニシテ「フルフ」運上屋元
 ニ達ス
 境界 「イワナイ」運上屋ノ所領、南ハ「イソヤ」領ニ接
 スル「アブシタ」、北ハ「フルウ」領ニ接スル「ウスベ
 ツ」マテ凡六里半トス、「ウスベツ」「アルト」「トマリ」

三個ニ区分アレトモ実ハ一所ノ漁場ナリ、「ウスヘツ」「アルト」ノ間ニ一小川アリテコレヲ領界トス、此処イツレニモ番屋アリ、「イワナイ」運上屋元同心二人詰合アリテ「フルウ」運上屋元ニモ詰メ、二所隔月ニ交替ス、何レモ「スツ、」ニ隸属ス、長谷川儀三郎持場ナリ、漁場「イワナイ」ニ係ル者上文ニ記セシ「ニツナイ」ヨリ運上屋元ニ至ルマテ櫛比シ、「ホリカツプ」ヨリ「ウスベツ」マテ凡六所ナリ

戸口 「イワナイ」領、夷人六十人許ニシテ壯者ノ实用使役ニ供スルハ今僅カ二十二人ノミノ由ナリ、出稼凡三百軒許ニシテ当今鮭漁ノ時節ニテ来居ル者ハ三千人許ノ由ナリ物産 何レノ場所モ近地ハ皆鮭漁殷盛ナリ、鱈・「カスベ」ノ類亦從テ利多シ、陸地草木ハ船中ヨリシテ目撃シ詳ニスルコト能ハス、硫黄山必多シ 「イワナイ」巽位ニ在ル硫黄山其一ナリ
土質 近地出稼漁小家・夷家等皆兼葭ヲ以テ屋ヲ葺ク、ソレニ供スルニ余リアルナリ、菅亦多シ、蓆席ニ用フル者皆土産ナリ 以上、上条ニ記スヘ、キヲ誤テ此ニ出ス、海浜平坦ノ処ハ沙石ニシテ懸

崖ハ黒色ノ石多シ、「イワナイ」運上屋背後ノ地溇濁ノ水ヲ滌除シテ開拓セハ必ス諸穀ヲ獲ヘシ 「フルウ」井泉風袋トモ百七十目

氣候 卯上刻四十六度、酉刻五十八度、昨日過シ「ニヘシナイ」・今日過シ「モイワ」山上ニ桜花ノ満開セルヲ見ル、寒岩四月始知春ノ光景ナリ

四月廿四日晴 布留宇発船志也古丹止宿、海路九里半

余

フエタウシナイ ヲ、モリ 一二日サネナイ タネナイ カバシラナイ

ムナメナイ ヲカムイ岬 クサナイ グルウ

地勢 「フルウ」地形東南ハ山岩高ク聳へ、東ハ巖石雜草ヲ戴テ近ク屋後ニ逼リ、南ノ山ハ雜樹茂密形大堤ノ如ク東西ニ横タハリ、北ハ稍平低ノ山ナレトモ巖石稜々峻峭壁ノ如ク、海ニ至テ尽クル処ニ於テ一大洞口ヲ穿チ以テ往来ニ便ス、而シテ西ハ海ニ面シテ一小湾トナル、湾中海畔悉ク礁石ニシテ波涛洶湧繫泊佳ナル処ニ非ス、概スルニ広袤塵

カニ一町ニ不過ト思ハル、運上屋ハ南岸ニ傍ヒ北差西ニ向
 ヒ漁小屋・夷家其左右ニ列ス、扱今日此処発船、岸ニ沿フ
 テ針路ヲ亥ニ取「フエタウシナイ」「ヲ、モリ」ヲ経テ
 「サネナイ」ノ岬ニ至ル、船中回顧スレハ近ク「雷電」岬
 フ已位ニ望ミ、稍遠クシテ「スツ、」ノ弁慶岬ヲ未位ニ、
 尤遠クシテ杳靄ノ中ニ「シマコマキ」ノ岬ヲ望ムノ外、浩
 渺タル蒼海目撃スルモノナシ、「サネナイ」岬ヲ廻リ針ヲ子
 ニ指シテ帆ス、此間絶壁海ニ迫リテ又漁場ヲ見ス、「欄外
 此辺通船ノ時、洋中遙ニ異国船ヲ見掛タリ」、廿余丁ニシテ
 一岬ヲ得タリ、「蚊柱」ト云フ、漁場其左ニ見ヘタリ、砂浜
 ニシテ山亦平低、「マサトマリ」ニ至テ懸崖高聳ヘ延テ「ヲ
 カムイ」岬ニ至ル、此岬ハ西蝦夷西浦ノ三岬中「シマコマキ」
 岬・「マシケ」
 北ライノコト也
 岬ト此岬ヲ合シテ三岬ト云フ、松前ヨリ「ソウ
 ヤ」ニ至ルノ三難所ニシテ、此岬其中途ニ居ル也 第一險難ノ処トナ
 ス、「マサトマリ」沖ヨリ望ムニ巖石海中ニ突出スルコト
 数百歩ニシテ其尽頭峭壁数十仞、中絶スル事数十歩、一大
 礁石波濤中ニ蟠踞シ、其礁石ヲ根柢トナシテ一大巖石嶄然
 トシテ直立ス、高サ凡ソ五六丈、上尖リテ窄ク中広ク下稍

細ク、之ヲ望ムニ神人ノ衣冠シテ拱シテ立ツカ如シ、而シ
 テ其近傍岸ニ沿ヒ又海中ニ散布シ暗礁尤多シ、故ニ風微シ
 ク動ケハ波濤ノ洶湧スルコト他ノ比ニ非ス、夷人此岬ヲ過
 ル必膜拜シテ去ルト云フ、今亦此岬ヲ過キ畢テ始テ無恙ヲ
 祝ス岬ヲ過ケルトキ肅然無声、過
 キ畢テ幣ヲ削リ海ニ投スル也、蓋シ其大形勢ヲ按スルニ、
 岩内ヨリ余市ニ抵ル山道ヲ過ル時ハ纔ニ一日程、然ルニ航
 海スルトキハ五六日程也、而此岬ハ「シヤコタン」山「リ
 フナイ」山ノ山脈次第第二陵夷シテ延テ海中ニ斗出シ、西北
 南ノ三方ニ当リ、遙ニ南「シマコマキ」北「マシケ」ノ岬
 ト対峙シ、此岬中間特ニ海中ニ迸出シタル故ニ風濤ノ難モ
 第一ニ居ル由、夷人ニ論ナシ、航海スルモノ畏憚スル所以
 也、今日風無キモ巨濤緩走シ行舟一昂一低波ト浮沈ス、既
 ニ奇礁ノ間ヲ過テ礁間ノ潮路纔ニ数歩、大船ハ必礁外ヲ行ク、
 浪アルトキハ小舟モ亦礁石ノ外ヲ行ク
 「クサナイ」ノ浜ニ出ツ、海水平穩ニシテ席ノ如シ、一岬
 ノ表裏ニシテ難易頓ニ異ナリ、舟子茶ヲ煎シテ午飯ヲ進シ
 テ、是ヨリ丑ニ向ヒ、「ライチシ」岬ヲ過テ、未牌「シヤ
 コタン」運上屋ニ達ス

境界 「フルフ」運上屋ノ所領ハ、南「アルト」ニ至リ北
 「ムナメナイ」ニ至リテ「シヤコタン」領ト接ス、運上
 屋元ヨリ北「フエタウシナイ」マテ半里程漁小屋相連ル、
 「ヲ、モリ」大漁場廿町許漁小屋連接シ、「サネナイ」
 「カハシラ」「ムナメナイ」等皆漁場ニシテ番屋モアリト
 云フ、「シヤコタン」領ニ入「マサトマリ」漁小屋少シ見
 へタリ、「クサナイ」ハ大漁場ニシテ漁小屋連簷數百家繁
 盛ト見へタリ、番屋モアル由、「シヤコタン」運上屋元ニ
 同心一人ツ、隔月ニ交替シテ「フルヒラ」ヨリ詰ルト云フ
 戸口 「フルウ」夷家十余戸、出稼小屋九十余軒アル由
 物産 各所何レモ鯨漁殷盛、鱈・カスベノ類当節鱒モアリ
 ト云、晚餐ニ供シタリ、今日過ル所ノ海中鯨十數疋ヲ見タ
 リ、殊ニ「シヤコタン」灣口ヲ多シトス、大ナルモノ長サ
 四五間・小ナルモノモ二間ニ減セス、「ヲカムイ」岬巖礁
 上ニトゞノ十數疋臥シ眠ルヲ見受タリ、草木、「フエタウ
 シナイ」ノ山崖樹林ノ中ニ桜花爛漫ヲ見ル
 土質 舟行故ニ見ルコトナシ 水性、「フルウ」運上屋元

ノ流水風袋共百七十匂

氣候 卯刻五十四度、酉刻五十四度、是正ニ内地清和ノ時
 候ニシテ、今此地ニテ身ニ適スル衣服ハ猶内地二月比ノ衣
 服ヲ襲用ス

四月念五澄晴 鷓鴣潭出立古平止宿、行程五里半余

クツタルウシナイ イタトシナイ クツタルウス

ニセイオロウヲマナイ ホリカシヤコタン チヤツナイ

弁天泊 ビクニ ホントマリ アトマイ ホンキナウシ

ヒロカルウシ 丸山 泊 メハ、タラエ チヨベタン

地勢 「シヤコタン」運上屋元山三面ヲ圍繞シ山脚ト海濱
 トノ相距ルコト百歩許ニ過キス、地勢頗ル狹隘ナレトモ山
 背低平ニシテ樹木又稀レナルユヘ稍開豁ノ光景アリ、運上
 屋ヨリ右二丁所ニ小溪アリ、「グツタルウシナイ」ト称ス、一
 線流其内ヲ貫流シ海ニ委スル者アリ、是即チ「シヤコタ
 ン」川ナリ、右ノ方「シヤコタン」川ヲ隔テ、一巨岩ノ斗
 出スルアリ、是ヲ黒松内岬ト云フ、岬ヲ離ル、コト數十歩、

一岩嶋アリ、弁天小祠ヲ安ス、橋アリ抵リ見ル可シ、此際石磯ナリ、左ノ方乱礁平布岬形ヲナスアリ、「カマトマリ」岬ト称ス、前言フ所ノ黒松内岬ト東扼シテ湾口ヲナス、湾ハ西面ニシテ広延五六丁許、波浪ハ甚タ緩穩ナリト雖トモ甚タ浅磯ユヘ巨船ノ碇繫ニ堪ヘス、然レトモ左リニ「ライチシ」湾、右ニ弁才泊好畧ニテ是レカ羽翼トナルユヘ船舶ノ此ニ至ル者嘗テ風濤ノ虞ナシ、殊ニ「ライチシ」ハ大湾ユヘ九十月ノ頃ハ奥地ヨリ帰来ノ船舶此湾ニ下碇候風シ「オカムイ」岬ヲ踰ユ、其多キ時ハ三百余隻ニ至ルト云フ、弁天泊リ先キニ一大岬ヲ望ム、「シمامイ」ト云フ、是レ「シヤコタン」ノ西北陲ニテ蓋シ此ヲ過レバ岸勢東ニ走ルナル可シ、偕亦「於加武伊」岬ハ大弓曲ヲナシテ遠ク湾口ノ中央ニ当レリ、辰牌運上屋ヲ出テ右轉シテ「クツタルウシナイ」ニ入ル、此沢幅一丁許長サハ迂旋セルユヘ知ルコトヲ得ス、行クコト五六丁ニシテ一嶺ニ上ル、登路頗ル峻滑ナリ、五丁余ニシテ絶巔ニ達ス、是レヨリ山勢兩崖峻峙、其上ノ徑リ六七步ニ過キス馬鬣ノ如シ、低昂上下シ

テ行ク、是ヨリ終始「シヤコタン」岳ヲ右ニス、此岳峭拔奇絶ノ態無シト雖トモ蜿蜒六七里高ク群峯上ニ朗出ス、実ニ此際ノ巨鎮ト云フ可シ、十余丁ニシテ平山上ニ出ツ、左峡ニ窪下ノ地アリ、「イタトシナイ」ト云フ、又行キ一ノ嶮標ヲ得タリ、「クツタルウス」ト書ス、此辺ヨリ東南ニ「ヒクニ」「フルヒラ」ノ諸峯ヲ望ム、過テ行ク半里許沢アリ、「ニセイオロウヲマナイ」ト云フ、又半里ニテ山ヲ降り広袤三十余町ノ平沢ヲ得タリ、此ニ憩所アリ、二ノ嶮標ヲ立ツ、「ホリカシヤコタン」ト云フ、此地ヲ「シヤコタン」「ヒクニ」ノ分境トナス、憩所ノ前ニ細流アリ、即チ「シヤコタン」川ノ上游ナリ、「シヤコタン」岳ノ背尾此ニ頭ハレタリ、遂ニ川ヲ踰ヘ一岡ヲ過キ、又「ホリカシヤコタン」沢ノ曲入セル者ヲ横截シテ高原ニ陟リ、一里余ニシテ峻阪ヲ降り海浜一小湾ヲ得タリ、「チャツナイ」ト称ス漁場ナリ、前ニ小嶋突起ス、弁天島ト名ツク、祠在ル所以ナラン、湾右ノ岬根ヲ踰ヘ弁才泊リト称ス、繫泊ス可シ、是ヨリ「ヒクニ」ニ接シ漁場連続セリ、「ヒクニ」川

ヲ航ス、幅七八間湍激ナリ、川上開豁大率一里余ノ溪澗ナリ、已ニシテ運上屋ニ午餉ス、此地北面ニ灣ヲ開ケリ、右ニ「ホントマリ」岬アリ、左ノ弁才泊岬ト対峙ス、頗ル安港ナレトモ恨ラクハ海浅シ、故ニ巨舶ハ洋中ニ泊ス、正面十余里外ニ「マシケ」ノ山ヲ望ム、殆ント雲煙ノ縹渺タルカ如シ、遂ニ行ク、「ホントマリ」岬ヲ過ク、犖确銳利歩履甚難シ、小灣アリ、「アトマヒ」ト称ス、山崖一瀑ヲ懸ク、其末海ニ注入ス、灣右一巖岬アリ、名ヲ同フス、此レヨリ右折シテ背後ノ山ニ登攀ス、峻絶ナリ、阪ノ中腹ヨリ回顧、「ヒクニ」ノ左リニ一長岬ヲ出現セリ、「クツタルウシ」ト云フ、岬末ノ波上ニ一巨岩崛起セリ、已ニシテ行キ七八丁ニテ崖下ノ海灣ニ漁場アリ、「ホロキシナイ」ト名ツク、「ヒクニ」「フルヒラ」ノ界トナス、五六丁ニシテ下レハ海浜漁場・番屋等アリ、是ヲ「ヒロカルウシ」トナス、其右一大岬アリ、其根ハ延長低平ニテ堤塙ノ如ク、其末ハ突然地ヲ抜ク数百丈ノ高山ナリ、其形チ円シ、故ニ丸山岬ト名ツク、絶巔ニ烽火台アリ、「ヒクニ」「ヨイ

チ」ニモ又之ヲ設ケ、若シ事有レハ合烽シテ相互ニ警報スト云フ、虜船洋中ヲ過ル者皆此岬ヲ標準トナス由、遂ニ岬根ヲ度リ海浜ニ出ツ、地勢甚々明快ニテ山足ト海浜ノ距離約ネ半里許リアリ、夫ヨリ「トマリ」「メハ、タラエ」「チヨベタン」等ノ漁廠間ヲ過ギ、遂ニ「フルヒラ」運上屋ニ達ス

境界 「ビクニ」ヨリ以北過ル所地名アル者皆漁場ナリ、「ホリカシヤコタン」ノ憩所ハ「シヤコタン」「ビクニ」合費ニテ設ル者ノ由、「シヤコタン」「ビクニ」共ニ「フルヒラ」ニ隸ス、両地詰合同心ナリ、前言フ所ノ「ホリカシヤコタン」ノ沢ヨリ以東ハ「ビクニ」管内ナリ、「シヤコタン」領ハ西山ノ麓ヲ限トス

戸口 「シヤコタン」蝦夷ハ十四人、帰化十五人、「ヒクニ」十五人、帰化三人、其外出稼人年々増減アリト雖トモ公裁後両地合等九百余口ヲ増ス、委詳ハ「フルヒラ」官吏栗山子贈ル所ノ書中ニアリ、何分是等ハ開拓ノ一助トモナル可キ事ナリ

物産 「シヤコタン」山麓ヨリ虎班ヲ点セル短篠ヲ産ス、頗ル珍トス可ヘシ、当時新令アリ、猥ニ斬伐ヲ許サ、ル由、今日ノ山中熊笹十ノ九ニ居ル、樹ハ樺多シ、又白樺モアリ、往々桜花ノ爛粲タルヲ見ル、山中又山牡丹アリ可愛、「イタトシナイ」ノ辺ニテ鹿數頭ヲ見ル、「ビクニ」灣前ニテ海鱈二三尾ヲ見ル

土質 山中大抵黒色埴土ナリ、溪沢モ往々肥瘦ノ地アリ、聞ク、「シヤコタン」「ビクニ」ノ出漁者地ヲ請ヒ墾作ヲ擬スル者既ニ三十余人ニ及フ由、水性、「シヤコタン」流泉百七十一匁風袋共

氣候 朝暮共ニ五十四度、是日甚暄暖ニテ皆衣一重或ハ二重ヲ成セリ

四月廿六日半晴 古平出立高島止宿、行程九里半余

フルヒラ川 メナシトマリ ウタシツ ホリタキ
ラルマキ セタカモイ ユンナイ チャラツナイ
シマトマリ ホントマリ ウタコシ シリバ岬 下ヨイチ

上ヨイチ ヨイチ川 フンコベ ラムシマナイ ホロボ岬
オシヨロ 兜岬 ホツケマ チコタン ホンチコタン
モ、ナイ 滝沢 鍋岩 スウヤ ホンムイ岬

アイカツフ岬 イナオサン テミヤ

地勢 古平ノ大形勢乾位ニ丸山岬アリ、巽位ニ「セタカモイ」岬アリ、両岬遙ニ相對スル直線筋ヨリ坤位ニ灣入スル半里許アルヘキ一港ナリ、故ニ灣ノ中央良位ニ面ス、而シテ運上屋ハ東差北ニ面ス、其背後頗ル溪沢平地アリテ殆ント岩内ニ繼テ小ナル者ナリ、平沢ノ外ハ皆山巒圍繞セリ、海浜丸山岬内ヨリシテ「トマリ」「メハ、タラエ」「チヨベタン」運上屋在ル処「メナシトマリ」「ヲタシツ」「ラルマキ」等皆漁場ナリ、要スルニ古平持場僅カニ二里余ナレトモ漁場櫛比甚殷盛ノ地ナリ、「セタカモイ」岬ノ前十里許ハ背後ノ平沢ナクシテ全石懸崖峻絶削ルカ如ク、而シテ其間小出入灣形ヲ為ス、恰モ六曲屏ヲ置カ如シ、然ル内ニモ瑣々狹隘ノ澗地アレハ夷居或ハ漁ヲ為ス所アリ、「セタカモイ」岬ヲ廻レハ一小灣地名「ユンナイ」ト云漁場ナリ、「ユン

ナイ」岬ヲ廻レハ「古平」「ヨイチ」分界ノ処ニシテ、既ニ「ヨイチ」ニ属スル「チャラツナイ」ト云漁場ナリ、「チャラツナイ」ノ前海中ニ蠟燭岩ナル者高サ三丈許モアルヘキカ陸地ヲ離ルコト五町許ナリ、「ヲカムイ」岬ノ一奇礁石ニ繼テ奇観トスヘキ也、「チャラツナイ」ヨリシテ又「シマトマリ」「ホンシマトマリ」「ウタコシ」等ノ漁場アリ、漁場ハ必ス左右両岬ヲ擁セル小湾ニシテ一里余皆同様ニ出沒屈曲ス、最後ニ「シリバ」岬ヲ得ル、其岬ノ高サ三町許モアルヘク巨大ノ巉岩峭矗ス、衆石重積シテ一岩ト為タル如キ形ナリ、「古平」以来ノ一大岬ナリ、古平ヨリ此迄舟首東ヲ指シ来ル、此岬ヲ廻レハ南面シテ岩牆ニ沿ヒ行キ半里近クニシテ「ヨイチ」運上屋ナリ、「ヨイチ」ノ形勢ハ一大湾東面シ、左ハ「シリバ」岬ヲ擁シ右ハ「モイリ」岬ヲ擁シ、背後ハ地勢開豁平低ノ丘陵断続シテ其間ニ坦然タル平沢幅員数百頃アルヘシ、然レトモ北「シリバ」岬ヨリ二三町間ハ岩牆峭立シ其下僅カニ数戸ノ漁場アルノミ、南「モイリ」岬内即チ運上屋在ル処ニシテ、其背

後岡阜繚繞此レ亦地勢狹隘、且ツ運上屋前ノ海面其左手ニ礁石多ク宛然堤坡ノ形ヲ為シ、全体一湾ノ海ヲ中断スル者ノ如シ、サレトモ湾内漁場人煙繁密ニシテ大場所ノ運上屋元タルコト一覽シテ人目ヲ驚カス、此運上屋元ヲ下「ヨイチ」ト称ス、運上屋前ヨリ南行シ「モイリ」岬ヲ廻リ「ヨイチ」川ヲ渡レハ上「ヨイチ」ト称ス也、「ヨイチ」川舟渡シ水源「ヨイチ」岳ヨリ来ル由、「ヨイチ」岳ハ運上屋ヨリ巳ノ位ニ当レリ、下「ヨイチ」上「ヨイチ」地勢連接シ上「ヨイチ」亦人煙少シトセス、此ヨリ舟ヲ捨テ陸行ス、上「ヨイチ」ヨリ東面シ海ニ沿ヒ沙浜ヲ行クコト一里許、此間路右ハ平原渺茫南ノ諸山麓ニ達スルマテ殆ント二里ニモ近カ、ランカ、上下「ヨイチ」共ニ地勢開豁ナレトモ諸高山遙ニ二囲匝ス、独り西南隅ノ一方山ヲ見ス、頃日岩内ヨリ「ヨイチ」ニ官道開拓ノ挙アリト聞ク、必ス此方向ナルヘシ、サテ上「ヨイチ」ヨリ東面行スルコト一里余、「フンコベ」川ヲ渡リ「フンコベ」ト云地ニ至ル、漁場ナリ、此ヨリ行路海ニ沿テ左折北面スル形勢勿論ナレトモ「フン

コベ」岬下歩行スヘカラス、因テ岬背ノ山路ヲ打越シ「ラムシマナイ」ト云地ニ出ツ、漁場ニシテ既ニ「オシヨロ」領ナリ、「フンコベ」岬ノ中央ヲ以テ「オシヨロ」「ヨイチ」ノ領界トスル故ナリ、「ラムシマナイ」漁場ニシテ一湾ノ地、且ツ平沢頗ル広ク屈曲連綿シテ一里許モ東位ニ至ルナリ、「ラムシマナイ」ヨリシテ海岸ヲ行カハ「ホロベ」岬下ヲ過クヘキニ、亦「フンコベ」岬ト均シク人足ヲ容レズ、因テ又岬背ヲ打越シ北面シ一山坂ヲ下レハ「オシヨロ」運上屋元ナリ、「オシヨロ」運上屋元一小湾港ナレトモ三面ニ山ヲ擁シ、西差北ノ一面海ニ向ヒ海口僅カニ五之間許ニシテ其内ノ湾港幅員方ニ百間許ナルヘシ、弁才船十四五隻碇泊スヘキ地ナリ、運上屋ハ海口ニ面シ背後溪間稍豁然平地アリテ陸路高島ニ赴ク路筋ナリ、行クニ從ヒ丘岡上ニ升リ右ニ「ラムシマナイ」ヨリ連亘セル平沢ヲ見ル、左ハ海ニ臨ミ西ハ法華澗ノ岬東「アイカツフ」岬マテヲ眼下ニ見下スナリ、蓋「オシヨロ」港ヨリシテ海濱ノミヲ往カハ港口ニ先ツ得ル岬ヲ兜岬トス、此「ヨイチ」ヨリ歴然

注視スル者ナリ、兜岬ノ次ヲ「法華間」ノ岬トス、次ニ「チコタン」「ホンチコタン」「モ、ナイ」「スウヤ」等ノ漁場、次ニ「ホンムイ」岬「アイカツフ」岬ト称スル地アルナリ、而シテ今往クハ丘岡上ニシテ、行ク良久クシテ坂路ヲ下リ「モ、ナイ」ニ至リ、又次ノ丘岡ニ升リ滝沢領ヲ打越シ、再ヒ鍋岩嶺ヲ打越シ「スウヤ」ニ下リ至リ、又丘陵蜿蜒シテ足趾稍揚ルノ路ヲ行キ、陵上ニ至リ窮テ「イナオサン」ト云フ地「ヲシヨロ」「タカシマ」ノ領界ナリ、又坂ヲ下ルニ林樾間鬱密タル谷底ニ至ル今日經過ノ処皆草山ニシテ、独此処ノミ林中、又一坂ヲ登リ程ナク草山ノ間ニ下リ、又登リ一低嶺ヲ打越シ、海濱漁場「テミヤ」ト称スル一好港ニ至ル、「ヲシヨロ」ヨリシテ此ニ至ル左右屈曲比々スレトモ、概スルニ始終東面シテ来レリ、「テミヤ」海濱ニ至リ右折、「オタルナイ」ニ赴カハ奥地ニ往ク順路ナルニ左折シテ高島ニ赴ク、此レ海岸場所ヲ一々経過シテ一所ヲ余サミラントスル也、「テミヤ」ヨリ既ニ左折シ程ナク一高阜ニ登ル、阜頂ノ平低ナル処北面シテ行キ殆ント半里ニ近クシテ峻絶

ノ一線路ヲ下レハ即チ高島運上屋元ナリ

境界 「フルヒラ」「ヨイチ」「ヲシヨロ」「タカシマ」

四場所ノ境界、地名ハ上文ニ記スル如ク、而シテ其海浜持

場ハ「フルヒラ」二里半、「ヨイチ」四里半、「オシヨ

ロ」三里半トス、「シヤコタン」以来ノ場所ハ「イシカ

リ」詰水野一郎右衛門持

此「スツ」、「詰長谷川儀三郎兼帯スル由

ニシテ、「フルヒ

ラ」詰調役下役栗山某「フルヒラ」「ヒクニ」「シヤコタ

ン」三場所ヲ治メ、「ヨイチ」詰調役下役平嶋某「ヨイ

チ」「オシヨロ」ヲ治ム、藩衛ハ「フルウ」以南津軽家ノ

持、「シヤコタン」以北佐竹家ノ持ナレトモ、頃日経過ノ

地ニハ更ニ其藩将卒来居ル者ナシ、但シ「フルヒラ」ノ丸

山・「ヨイチ」ノ「シリバ」山頂ニ烽火台アリ、何レトモ

灣港ニシテ異船ノ来テ碇泊スヘキ地ナレハ也

戸口 「フルヒラ」ノ夷戸及出稼人数等ハ栗山其所惠ノ記

ニ詳カ也、「ヨイチ」夷人四百余名、「オシヨロ」百三十

余名許ナリ、出稼ハ「ヨイチ」百戸、「オシヨロ」二百名

許ノ由ナリ

物産 漁品例年ノ如ク然ル内ニ「ヒクニ」「ヲシヨロ」今

年ナト所獲多キ由ナリ、舟路目撃スル草木甚分明ナラス、

「ヨイチ」以後経過路傍、平原草山多クシテ産物ト云ヘキ

者無シ、但「カタクリ」甚多シ、「イナオサン」林樾間ニ

テハ「ユヅリ」葉・木賊多シ、「ヲシヨロ」海岸ニテ海馬

ノ游泳セルヲ見タリ

風俗 「フルヒラ」以東、夷宅及ヒ出稼漁小屋等ニ至ル迄

熊笹ヲ以テ屋ヲ葺ク者比々ト有ル也

土質 経歴セシ山中ノ土、表面ハ甚黒ク其内裏赤土ナル者

多シ、「ヨイチ」ヨリ「フンコベ」ニ至ル間ノ平沢及ヒ

「ラムシマナイ」地面平低豁然、開墾セハ其利必多シ、但

「ヨイチ」ニ在ル平沢ハ沙地ニシテ或ハ穀菓植物繁盛ニ至

ルマシキカ

氣候 朝四十六度、夕四十七度、若シ午前ニ測試セハ六十

度以上ナランカ、午前後薄暑ヲ覺ヘタリ、桜花満開ヲ見ル、

毎日ノ事ナリ、今日「ヲシヨロ」ニ於テ盆栽ノ梅花ヲ見ル、

蓋シ百花一時ニ開遍スル時候ニ至リタルナリ

四月二十七日好晴 高島出立石狩投宿、行程九里拾四町

マヤン岬 ビヤウ岩 テミヤ シマサン ヲコバツ岬

イロナイ ヲタルナイ アリホロ岬 ノブカ カツナイ

アツトマリ フレシマ ポントマリ岬 クマウシ アサリ

マサリ リフンコトマリ カモイコタン岬 チヤラツナイ

ハルウシ リブンツカ ヲタスツ ゼンバコ

ヲタルナイ川 フンベムイ

地勢 高島ハ南西北三面岡巒圍繞シ、東方海ニ向ヒ幅員広カラス、方数百歩ノ小境也、北ハ「シクシン」岬南ハ小山ノ趾礁石上一線路ヲ通シテ崖陰ニ小漁場方十歩許ナルアリ、其左方一大岬ヲ「マヤン」ト云フモノト対峙シテ一小湾ヲナシ、運上屋ノ正面湾中ニ海岸ヲ距ルコト二三十間処ニ岩石二ツ並立ス、各周囲数十歩高サ四五丈草樹繁茂ス、宛トシテ蓬萊ノ如シ、高島ハ是ヲ以テ名ヲ得タルト云フ、近傍礁石多ク水深シ、「ヲタルナイ」ニ至ル海陸二道アリ、山

道ハ昨日ノ来路「テミヤ」ニ出テ行クヘシ、一里ニ遠シ、

海路ハ直径廿余町シテ近シ、故ニ舟行ヲ取ル、岬ヲ過キ右顧スレハ山巒打開ケ一大平坦ノ地海ニ沿フテ村落アリ、即チ「テミヤ」ナリ、北「マヤン」岬ヲ限リ「ヒヤウ」岩ヲ

表トナシ、南「シマサン」ヲ合シ「シマサン」川ノ前面ニ

聚合突起スル「ヲコバツ」岩ヲ限リ一大湾ヲナシ、浅湾ナレトモ佳港ニシテ漁業頗ル繁昌ス、而シテ高島ニ属ス、

「ヲコバツ」岩陰ヲ「イロナイ」ト云フ小漁場ナリ、「シマサン」ト「イロナイ」トノ間小川アリ、「ヲコバツ」岩

ニ衝突スルヲ以テ高島「ヲタルナイ」ノ領界トス、「イロナイ」ヨリ岬ヲ廻リ二町許ニシテ「ヲタルナイ」ニ抵ル、

「ヲタルナイ」ノ形勢、西「ヲコツ」岬・東「アリホロ」岬ヲ限リ一湾ヲナス、而シテ湾北ニ面シ、南「ヲタルナ

イ」山高ク聳へ、其山趾左右遠ク延テ平岡トナリテ堤ノ如ク、中ニ数頃ノ平地ヲ開クモノ也、運上屋ハ西岡ニ付テ占

居シ東北ニ面ス、此湾中礁石頗ル多ケレトモ水深ク潮緩ナル故ニ大舶モ七八隻碇泊シタリ

湾小浅ナレトモ「テミヤ」ヨリ曲折シテ湾ヲナス故湾外自カラ又一

大湾ヲナスナリ、是ヨリ石狩ニ抵ル山道アレトモ雪消ニテ後ニ云フベシ

路悪シキト云フニ付又舟行ス、羅針ヲ卯辰ノ間ニ取テ進ム、「アリホロ」岬ヲ廻リテ「ノブカ」ノ大漁場ナリ、是ヨリ平岡海ニ逼リ岡下ノ浜汀沢ヲナシ、所々小岬アリテ屈曲小湾ヲナシタル数弓ノ平地必漁場アリ、大ナルモノハ数十町ニ連リ、小ナルモノハ数町ニ不過、「カツナイ」「アツトマリ」「フレシマ」ヲ経テ「ボントマリ」岬ヲ廻リ「クマウシ」「アサリマサ」ハ差打開ケタル大漁場ナリ、「フンコトマリ」ヨリ岡転シテ山トナリ稍々高く殊ニ海滨ニ逼迫シ「カモイコタン」ニ至ル、岨々タル岩石高く数十丈ニ聳へ、横幅一町余許アリ、山巔大石落々トシテ墜ントスルヲ畏ル、而シテ其下海畔礁石ノ間、崖下逶迤数弓ノ平地アリ、蝦夷数軒其処ニト居ス、言フ、此山巔ノ石日ニ幾箇ヲ墜スト雖モ古来ヨリ夷人ニ損傷アルコトナシ、故ニ夷人「カモイ」ノ守護スル処ナリトテ安居スト 夷人神ヲ指テ「カモイ」ト云フ、故ニ「カモイ」岬ト云フ、岬ヲ廻リテ「チヤラツナイ」大漁場也、此後ロノ山「カモイ」岬ニ並テ懸崖ナレトモ稍低シ、

瀑布アリ岩角ヨリ灑下ス、高拾余間許幅一間モアルヘシ、「シ、キナイ」ト云フ、扱「高島」「ヲタルナイ」各一小湾ヲナストイヘトモ其大形勢ハ、此「カモイ」岬ハ「ヲタルナイ」東辺ニ於テ特ニ斗出シ南高島領ノ「カハシラ」岬ト相對峙シ、両領ノ諸小湾ヲ包テ一大湾トナリ、「高島」「小垂内」最其湾底トナス、故ニ大舶風浪ヲ避クルノ便アリ、而シテ漁業モ又ヨシト云フ、進ンテ「ハルウシ」「リフンツカ」「ヲタスツ」等ヲ経テ「ゼンバコ」ニ抵ル、過ル所小舟往来網罟ヲ張り専ラ青魚ヲ漁ス、而シテ「ヲタルナイ」ヨリ此ニ至ル迄漁場櫛比シ凡四里ノ間人煙連節ス、盛ナリト謂ツベシ、^(ママ)「ゼンバコ」ノ地勢ハ前略ノ岡巒此ニ至テ尽キ地勢一変開豁トナル、村後ニ遠ク一ノ大山ヲ見ル、「ゼンバコ」山ト云フ、甚高カラズト雖モ此辺ニテノ山ナリト云、南東ハ遙ニ平原眺シ、西北隅ハ遠ク岡陵丘阜圍繞シテ北差東海ニ面シ一大漁場也、「ヲタルナイ」領ノ漁場村落此ニ至テ尽ク、午飯シ畢リ此ヨリ舟ヲ捨テ陸行ス、左海右原沙汀ヲ東行ス、一里許ニシテ「ヲタルナイ」川舟渡

シ東岸に墩木アリ、是ヨリ以西「小垂内」領、以東ハ石狩領ト記ス、此川ヲ以テ兩領ノ分界トナス、回顧スレハ「ゼンバコ」山ノ南麓遠ク延テ尽ル、頭又山ヲ見ズ只樹木林ヲナス簪ノ如キモノヲ見ルノミ、原上ヲ行ク数町、下リテ砂礫ヲ行ク一里許、原上ニ番屋アリ小憩ス、地名「フンベムイ」ト云フ、原頭ヲ眺望スルニ西ハ猶「小樽内」「膳波古」山ヲ遠ク杳靄ノ間ニ見タレトモ、東南ハ更ニ目撃スルモノナク曠原渺茫天ニ接シテ際涯ナキカ如シ、是ヨリ又原上ヲ行ク二里余、石狩ノ元小屋ニ達ス

境界 高島領ハ北「ホンモイ」ヨリ南「シマサン」ノ川ニ至テ「ヲタルナイ」ト接シ、山道ハ西「イナヲサン」ニ至テ「ヲシヨロ」ト界ス、而シテ領海二里許「ヲタルナイ」ハ西「ヲコバツ」岬ニテ高島ト接シ、東「ヲタルナイ」川ニ至テ石狩ト界ス、領海凡四里余ト云フ、而シテ兩領ノ漁場五六里ノ間ニ並列シ人煙稠密、西海岸漁業ノ繁盛此ニ至テ極ルニ似タリ 出稼ノ者二千余人、且当年ヨリ止、ツテ定住スルモノ半バニ過クト 中絶シテ石狩ハ寥々タルモノ也、官吏調役下役一人「ヲタルナイ」ニ

居テ高島ヲ兼知ス、石狩ノ持場ナリト云

戸口 「高島」ニ夷家十九戸、「ヲタルナイ」ニ廿六戸、人別百余人ト云ヘリ

物産 何レモ当節鯡漁盛ナリ、草木又別種ヲ見ス、海岸崖上樺雜木新緑ヲナス、中ニ桜花爛燦ナルヲ見ル、「フンベムイ」原上玫瑰殊ニ多ク、蒲公英ト著草茂生ス

土質 「高シマ」ノ山黒土、「テミヤ」黒土砂交リ、平岡上ハ黒色粘土ニテ開墾スヘキ所モ有ルベシ、「ヲタルナイ」ハ舟行故不知如何、「ゼンバコ」辺ハ砂交ノ雜黒土ニテ、石狩ニ至ル原上ニ連節スル故沙漠同然ナリ、「フンベムイ」辺ハ全ク砂地ニテ瘠地ト思ハル 水性、「タカシマ」流水百七十一匁

氣候 朝卯刻五十度、酉刻五十五度

四月廿八日晴 石刈出立安都多止宿、行程三里半

シユツプ 中浜 シリアツカリ ムイ フラ泊 モーライ
オネ泊 ウエンズリ コタンベツ

地勢 石刈ノ形勢北ニ海ヲ受ケ、鷓鴣潭ノ「オカムイ」岬・間繁ノ「オフイ」岬其東西ヲ扼シ、鵬ノ両翼ヲ張ルカ如ク以テ外湾口ヲ作シ、高島・間繁ノ二岬其内湾ヲナス、本地其内湾ノ極底中央ニ在リテ左右相距リコト十余里外ナル可シ、其ノ南方ハ曠野瀾茫一氣、又寸碧ヲ見ス、元小屋ハ南面ニシテ海ヲ背ニス、屋左百余歩所ニ所謂石刈川流注シテ海ニ透セリ、川ノ広大ナルコト中州ノ刀根川ニ過ク、水色黯黄流勢甚疾シ、海舶ノ此地ニ来ル者皆川身ニ繫碇ス、其深サ十四五尋ニ至ルト云フ、先輩稱シテ版图中第一ノ巨浸トナス、果シテ誣サルナリ、聞ク、此ノ濫觴南北ニ脈アリ、南脈ハ東浦ノ垂漢・雄張辺傍ニ起リ、北脈ハ沙裏道・江差・門別ノ際ニ亘レリ、北脈一百里所ニ漁番屋アリ、夫ヨリ水源迄ハ猶五十里許リモアリト云、然レトモ此等ノ言皆伝聞或ハ臆度ニ出ル者ナレハ未タ確抛トナスニ不足^{其詳審ニ至リ}テハ帰途ノ、往年近藤重蔵此地ニ一府鎮ヲ置キ四方ヲ控制シ外患不虞ノ救応ニ備ンコトヲ建議ス、其言剴切ニシテ能ク其肯綮ニ的當セリ、後ノ論者皆其範圍ヲ出ルコト能ハス、

実ニ天下ニツ無キノ書ナリ、就テ而シテ之ヲ察セバ其要ヲ得ベシ、吾儕区々ノ克ク啄ヲ容ル所ニ非ス、故ニ総テ欠略シテ論ゼス、之ヲ要スルニ此地西浦ノ中央ニ抛在シ地勢八達ニシテ実ニ蝦中ノ要喉ト稱ス可シ、唯海浜ハ砂路繩直ニシテ絶テ小曲ナシ、故ニ繫泊ニハ甚不便ナリ、早ニ元小屋ヲ出テ石刈川ヲ航済ス、兩岸ニハ根拔ノ巨材堆積シテ陵ヲナス、之レ以テ其源ノ大ナルヲ知ル可シ、此ヨリ北行シテ疎林ヲ過キ、二丁許ニシテ右折シ、海ニ並ヒ曠原上ヲ行ク、一里ニシテ「シユツプ」川、之ヲ石刈・安都多ノ分界トナス、已ニシテ行キ中浜「シリアツカリ」川ヲ過キ海濊ニ降ル、此辺ヨリ岡巒漸ク偪近シ岸勢次第ニ西面ニ変シ小岬アリ、「ムイ」ト云フ、是ヨリ赤土ノ絶崖ニ循フテ行ク、小湾アリ、「フラ」泊ト云フ、夫ヨリ廿丁ニテ「モーライ」、地勢頗ル平曠ナリ、一川ヲ踰ヘ又廿丁ニシテ「ヲネトマリ」、此辺ヨリ以往岸容曲巒多ク海畔礁石多ク海水漸ク深シ、十丁ニテ「ウエンスリ」、其左一岬アリ、又一丁ニテ「コタンベツ」川アリ、是ヨリ沙嘴ヲ遶リ五丁ニシテ「ヲ

シヨロコツ」ニ達ス、即チ安都多税館ノ在ル所也

境界 石刈ハ西浦中央ノ首場所ニシテ、調役並詰合ニテ

「シヤコタン」ヨリ「マシケ」ニ至ルノ地ヲ統轄ス、其運

上屋ヲ元小屋ト称スル所以又其故ナル可シ、然レトモ余ノ

首場所ハ此称アルコト能ハス、此レ本地ノ蝦中ニ要枢タル

ヲ以テナル可シ、今日經過ノ「シリアツカリ」「ヲネトマ

リ」皆番屋アリ、惣所トナス可シ

戸口 石刈元小屋許ニ夷屋七八軒、其製他所ヨリ稍大ニシ

テ潔ヨシ、其余ハ皆川筋ニ聚落ヲナス由、人口文化公領ノ

時ハ二千七八百モアリシ由ナレトモ今八百余口ニ過キス、

之レガ為メニ浩歎ヲナス可シ、「シユツプ」ハ「尤仏」ノ

出稼漁場ナリ、川向ニモ又漁場アリ、是レハ「アツタ」ヨ

リ出ス者、「シリアツカリ」「フラトマリ」「モウラキ」

「オネトマリ」「ウエンスリ」「コタンベツ」皆漁場ナリ、

其内「モウラキ」ヨリ以西ハ皆秋鱈場ユヘ当時ハ空家ニシ

テ寂寞極レリ、其漁時ハ石刈川筋及ヒ此辺出稼夥シク甚タ

繁盛ナル由、此辺并石刈川筋ノ出稼人当時ハ皆他場所ニテ

稼キス、「ヲネトマリ」ヨリハ皆鮭場ニテ漁舎「アツタ」

迄連続シ甚タ盛ナリ

物産 原野大抵兼葦・木賊・蒲公英・矮柏多シ

土質 石刈前後ノ地瀕海ノ処ハ砂地軟鬆ニシテ瘠鹵甚シ、

稍海ニ遠カレハ皆沃肥トナル、「ヲネトマリ」ヨリノ海浜

ハ礫礮礁岩多シ 石刈水性ハ甚タ汚濁ニテ悪シキ由ナリ、

然レトモ掛目ハ矢張風袋共百七十一匁

氣候 朝五十度、夜六十一度

四月念九 「アツタ」出帆「アシケ」投宿、海路十七

里余

地勢 「アツタ」運上屋元海灣ノ形勢、左右四五町許ニ出

崎ヲ擁セル浅小ナル一湾ニシテ西面ナリ、而シテ左右後ノ

三面丘阜繚繞ス、運上屋前ヨリ乗船シ沖ニ出ルコト一町余

ニシテ舵ヲ転シテ北面シテ帆ル、亥位ニ当テ斗出セル一大

岬ヲ遙ニ見ル、此ヲ「アイカツプ」岬ト云 又「フウマシ

外 「アイカツプ」ニテ針ヲ見シニ「シヤコタン」岳申西 ナイ」岬ト云「欄

ニ当リ「ヨイチ」岳午未ニ当レリ、既ニ運上屋元ヲ離ルレハ平低丘陵ノ崖ニ傍テ往ク、崖下ニ漁場出稼アリ、地名「ヲタナイ」ト云、運上屋ヨリ一里余ニシテ丘陵間ノ頗ル豁然開明ナル一平沢ヲ得ル、出稼及夷戸人煙甚殷盛ナリ、此処ヲ「アツタ」ト云、今ノ運上屋昔ハ此処ニ在シヲ今ノ処ニ移シタル也、今ノ運上屋元地名「ヲシヨロコツ」トス、然レトモ往々専ラ「ヲシヨロコツ」ヲ称セス「アツタ」ヲ一領ノ総称トスル也、「アツタ」ノ次ニ得ル一沢人煙稠密ナル漁場ヲ「ホロナイ」ト云、此辺ヨリシテ草山丘陵ノ姿一変シテ鬱林ニシテ險絶ナル山トナレリ、而シテ懸崖ノ下ニ於テ漁場断続ス、地名「トモンベツ」「ヤス、ケ」ナト云フ也、既ニシテ「滝ノ沢」「ルリラン」ナト云地ニ至レハ山腹墻壁甚シキ峻絶ニシテ漁場トスヘキ余地ナシ、「コキビリ」ト云フ一沢ニ至ル、小湍流アリ、此ヲ「アツタ」「ハマ、シケ」ノ領界トス、又「キマキ」「オクリツキ」ト云フ小岬ヲ経テ「アイカツプ」岬ニ至ル、「アツタ」以來右ニ諸山ノ突兀絶險ナルヲ見ル、其中ニ此岬前ヨリノ

「シヨカンベツ」岳ヲ見ル、又此岬ニテ羅針ヲ檢セシニ、「シヤコタン」岳申酉ノ間ニ見エ「ヨイチ」岳午未ノ間ニ在リ、「アイカツプ」岬巖岩突怒直立諸状頗ル看ルヘキ者也、岬ヲ廻レハ一漁場アリ、此レヲ「アイカツプ」ト云、既ニシテ又峭壁綿連シ其間ニ一溪沢ヲ得ル、「リサンベツ」ト云、ソレヨリシテ又平沢打開タル地ヲ得ル、「ハマナカ」ト云沙浜ナリ、此処ノ背後ニ当テ黄金山ヲ見ル、甚高峻ナル者ニ非レトモ形チ四柱ノ屋脊ノ如シ、サテ打開ケタル平原尽キ「マシケ」川ト云アリ、此処ニ漁場アリ、此ヨリシテ石浜ヲ歩スルコト数町、小岬ヲマハリテ「ハマ、シケ」運上元ニ來ル、此場所ノ形勢モ左右小岬アル狭隘ノ灣、其幅員大抵「アツタ」ト均シクシテ灣ハ申位ニ面ス、但シ運上屋背後ノ山甚窳逼セズ、僅カナル溪沢アルナリ、要スルニ地面ノ狭小「アツタ」ヨリ一等甚シク運上屋元ノ人家モ幾ハクモ無キ也、此場所ニ到着セシニ既ニ午時ニシテ、此ヨリ「マシケ」ニ至ルハ十里ノ海路ナレハ行キ難キ筈ナルニ、幸ニ便風ナレハ行得ラルヘキ由ニテ舟既ニ艤シ

ケレハ、喜ヒ意外ニ出テ即刻発船ス、漁場「モイ」「テキサマ」ナト云フ地ヲ経ル、皆漁場ナリ、既ニシテ運上屋元ヨリ一里許ニシテ僅カナル溪沢アリ、一小沢「ホンクンベツ」ト云、出稼漁場四五戸アリ、又半里許ニシテ一溪沢ヲ得ル、此レヲ「ムラフトナイ」ト云、漁家二戸アリ、此ノ数里間ノ形勢「ハマ、シケ」「マシケ」ノ間巨大ノ山岳三四連亘盤踞ス、其最東ニ在テ巍然タル者ヲ「シヨカンベツ」岳ト云フ、「ムラフトナイ」ヨリ十余町ニシテ溪沢ノ稍寛闊ナルヲ得ル、漁場ニシテ此ヲ「ホロクンベツ」ト云、此処ヨリ「シヨカンベツ」岳最歴々指看ルヘキ也、「ホンクンベツ」「ホロクンベツ」何レモ川流アリテ得ル地名ナリ、又半里許ニシテ「トコタン」、既ニシテ「チウシベ」何レモ一人家ナキ也、「ハマ、シケ」運上家元ヨリ半里許ノ間ハ草山蜿蜒セル地勢ナリシニ、変シテ深樹鬱密ノ山ト為リ、峻崖絶壁巉岩磊砢ノ浜辺ト為ル、「チウシベ」ノ次ヲ「タマキ」ト云、此ニ至レハ巉岩稍拔直立千仞ノ状態、随テ往ケハ随テ見ハレ、可畏可驚ノ形勢際限ナキ如シ、

「タマキ」岬ニ「オフイ」岬ヲ得ル、「オフイ」「タマキ」畢竟一岬ニシテ、其最海中ニ斗出セル者「オフイ」ナリシ故ニ概称シテ「オフイ」ト云、此レ「オカムイ」ト頡頏ノ大岬ニシテ夷地屈曲ノ大勢ヲ為ス、故ニ夷地ニ入りシヨリ「オカムイ」「オフイ」ノ名聞得テ爛熟セシニ、今是ヲ実歴シ彼此軒輊ナキヲ知ル也、「ハマ、シケ」ヨリ此ニ至ル針路ヲ戌亥ニ指シ来リ、此岬ヨリシテ転シテ丑寅ヲ指ス、又此岬ニテ羅針ヲ檢セシニ「シヤコタン」岳未位ニ当リ「ヨイチ」岳午ニ当ル、以テ「オカモイ」「オフイ」ノ地勢ニ関係スルコトノ大ナルヲ知ルヘシ、且懸崖盤陀ノ状ハ「オカムイ」ハ海中挺立一奇礁アルヲ以テ危険ノ光景ヲ装成シ、「オフイ」ハ幅員巨大ノ巉岩班列争聳、一岬尽レハ又一岬出テ仰瞻驚駭人胆消セントス、蓋シ彼ハ奇觀此ハ壯觀ト云ヘキ也、「オフイ」岬ヨリシテ七八町許ニテ僅カ二人居ヲ置クヘキ隘窄ノ石浜アリテ番屋一棟及ヒ板倉納屋等アリ、此処ヲ「オフイ」ト云、岬名是ヨリ得ル也、石浜ノ左背小岬ヲ以テ「ハマ、シケ」「マシケ」ノ領界トス、

既ニシテ又懸絶ノ崖ト為リ数小岬及ヒ「イワオヒ」島島ト称スレト
モ畢竟一ヲ経テ「ニウナイ」岬ニ至ル、此レ「オフイ」ノ
 礁石也

丑寅ニ当レリ、而シテ此レ亦「オフイ」ニ継クヘキ断崖千
 尺竈竈争攫ノ状境ナリ、畢竟「マシケ」諸山各高峻巨大ニ
 シテ其山脈散走雲根盤旋シテ十数里間ノ危岸絶壁ヲ為シ、
 更ニ迸出シ海中無数ノ礁石トナリタル也、「ニウナイ」岬
 陰僅カニ一漁場ヲ得ル、人戸三個アルノミ、「ニウナイ」
 ヨリ二里半余ニシテ「カモイ、トリ」岬、此亦「ニウナ
 イ」ノ丑寅ニ在ルナリ、「カモイ、トリ」岬ヲ離レハ地勢
 一変シテ平低ノ草山トナリ丘陵トナリ、「オウビツカリ」
 「ビシトカリ」「クシヤナイ」「シヨカンヘツ」大川「ノツ
 カ」等ノ漁場櫛比シ、「カモイ、トリ」岬ト「ノツカ」岬
 遥ニ相對シ其間ニ一里許ノ弓形一大湾ヲ為セリ、「ノツ
 カ」「サク」ト云地ヨリシテ右折シテ数町ニシテ「マシ
 ケ」運上屋元也「マシケ」ハ総称ニシテ運上屋元
 ノ全体ノ地名ハ「ホロトマリ」ト云
 境界 税舗所領海浜「アツタ」五里半、「ハマ、シケ」七
 里余、而境界ノ地名ハ既ニ上文ニ記ス、「アツタ」同心ノ

詰合アリ、石狩ヨリ兩人隔月ニ更番、「ハマ、シケ」調役
 下役ノ詰合アリ

戸口 「アツタ」土夷五十人許、出稼二百人余、且ツ石狩
 ノ夷人來テ出稼スル者亦多シ、又和人出稼ノ内ニテ婦人來
 居ル者七十人許ナリ、「ハマ、シケ」承リ残セリ、再聞ヲ
 期ス

物産 「アツタ」領「ホロナイ」ヨリシテ「マシケ」ニ至
 ル迄、海上ノ諸山皆鬱密新樹ニシテ絶テ禿楮ノ山ナシ、独
 リ高峯陰谷ノ残雪及ヒ巉岩ノ処ノミ樹木ヲ見ス、新緑樹木
 ハ樺・柳・桦多シ、但シ大材巨木ハ絶テ見サルナリ、「ア
 ツタ」「ハマ、シケ」並ニ鮭漁所獲アリ、独惜ムヘキハ
 「アイカツプ」前後・「オフイ」「ニウナイ」前後絶壁海
 岸ノ地一漁利ナシ、其故ヲ問フニ海浜窄狭ニシテ道路通セ
 ス、漁小家及船等ヲ置クヘキ地ナシ、如何トモスヘカラス
 ト、果シテ然ラハ殊ニ遺憾ノ事也、今日鯨魚数十頭・海馬
 亦六七頭・熊二頭・鷲四頭ヲ見受タリ

土質 今日經過ノ地ハ平低開墾スヘキ地ナシ、土ハ石交リ

赤土多シ、「オフイ」岬以北ハ全然赤土ナリ 「マシケ」
流水風袋共百七十目

氣候 卯刻五十二度、戌刻五十四度

補遺 「ハマ、シケ」領「タマキ」ヨリ「マシケ」領

「カモイ、トリ」マテ瀑布三十余所、其内最美ナルハ

「ニウナイ」ニテ海浜ヨリ二町以上ニ巉岩兩個峭立、其

間ヲ直下スルコト三四十間、日光華巖瀑ニ似テ聊小ナル

ノミ、此外「オフイ」岬陰モ亦美瀑アリ、要スルニ大小

巨細枚挙スルニ暇アラス

異聞 「オフイ」岬暗礁多ク且碇泊スヘキ灣ナク、其地

ニ過クル船通掛リ天氣變シ浪高クシテ破壊スル者往々ア

リ、昨年モ度々アリシ由ナリ、且「ハマ、シケ」ヨリ

「マシケ」へ八里半ト称スレトモ実ハ十一里許アル也、

蝦夷地ハ十里ニ滿レハ其間ニ必ス止宿所ヲ設クヘキ義ト

ナリ来リ居シ故ニ、此処ニ限ラス八里半或ハ九里、九里

半ナト称スル者ハ必シモ皆名実相称フ者ノミニ非ス、八

里以内ノ名アル処ハ実ニ然ル里数ニシテ虚称ハナキ也ト

「アツタ」ノ番人窃カニ從僕ニ語りシ也

五月朔日雨 マシケ出立ル、モツヘ投宿、行程四里余

ハシベツ シモンベツ シヤクマ ノフシヤ アフン

タントシナイ シユクシナイ アブシラリ リウゲ

フレシマナイ ビラ セタベツ セムシ

地勢 「マシケ」ハ重々タル大山ヲ西南ニ擁シ、東北海ニ

面シ彼ノ大山ノ麓漸シテ丘陵トナリ「シヨカンベツ」川ヨ

リ絶ニ平地トナル、方数里ノ間平岡連亘シ又丘陵断続、南

ヨリ東北ヘ其外ヲ環匝シテ「セムシ」ニ至テ海ニ逼ル、海

浜西ノ方「ノツカ」岬「サク」ヨリ右折シテ南差東「ハシ

ベツ」ニ至テ出崎トナリ弓形ノ灣ヲナシ、「ハシベツ」ヨ

リ「シヤクマ」ニ至テ又弓灣ヲナシ、「シヤクマ」ヨリ

「ノフシヤ」「アフン」ニ至テ又一小弓形ノ灣ヲナシ、一

灣コトニ西ニ向ヒ遂ニ一大円曲ノ灣ヲナシ「ノツカ」ノ岬

ト相對ス、而シテ灣丑寅ニ正面シ兩岬左右東北ニ居リ、

「ハシベツ」未申ノ位ニ在テ灣底ニ居ル、灣口広サ直径一

里不足ナルヘシ、直線ヨリ湾底マテ半里許アルベシ、是ヲ「マシケ」ノ湾トナス、運上屋ハ湾ノ西畔ニ在テ良位ニ面ス、秋田藩陣營其西ニ立ツ、「マシケ」ノ大形如斯、但湾ハ茫洋ニシテ碇泊ニ利アラスト雖モ辺成応援ノ為メ兵屯ヲ置ヘキ所歟、扱運上屋ヲ出テ右折シ崖下ノ石浜ヲ七八丁行キ「ナカウタ」ト云漁場アリ、「ハシベツ」ニ属ス、其所ニ標木アリ、曰ク陣屋御任地、従是西「シヨカンヘツ」ニ至ル是佐竹家營地ノ表也、「ハシベツ」ハ大漁場トス、三ヶ所一連漁小屋櫛比ス、皆崖下海ニ沿テト居ス、而中一ヶ所ハ地勢稍豁ニシテ平坦八町許アリ、番屋ヲ置ク、平地ヲ行ク、路傍熊笹多シ、「シモンベツ」ノ漁場ヲ過テ「シヤクマ」ニ至リ番屋アリ小憩ス、塚木アリ、運上屋元へ一里廿八丁、「シユくシナイ」へ一里三丁トアリ、是ヨリ路傍熊笹・小柏木多キ処ヲ過キテ「ノブシヤ」ノ漁場也、「ノブシヤ」川幅廿間余迅流ナリ、聞ク、此川ニ遡リ山ニ入り石狩ノ河源ニ出ツ、然レトモ夏ハ草木繁茂シテ行キ難ク、嚴冬積雪凍合ノ時雪ヲ踏テ往来ス、甚迂ナラストイヘトモ土人

ノ外ハ為シ難キコトナリト、橋ヲ渡テ「アフィン」ナリ、出稼小屋・夷家雑居ス、此岬ニテ羅針ヲ見シニ「ノツカ」ノ岬ト亥辰相對シ一大湾ヲナスコト前文ノ如シ、是ヨリ次第海浜辰巳差開キテ大洋ニ面スル也、是ヨリ岡逼リ路細ク、「タントシナイ」ノ漁場ヲ過キ沢ニ下リ川ヲ渡リ、又平地ニ出稍広闊ノ一沢ヲ得「シユくシナイ」ト云フ番屋アリ、午餉ヲ用フ、又行三町許、岡脊海ニ横タハル切通シヲ行キ橋ヲ渡レハ岡上ノ平地ニ出ツ、標木アリ、此川ヲ以テ西「マシケ」領・東「ル、モツヘ」領ノ分界トナス、「リウゲ」 「フレシマナイ」ノ漁場ヲ過テ「ビラ」ニ至ル、「ル、モツヘ」ヨリ置ク番屋アリ、此ヨリ「ル、モツヘ」へ一里余ト云、休息セス暫行テ小坂ヲ下リ岡迫テ路幅数尺ノ石浜ニ出テ、拾丁許ニテ岡陵開ケ平地トナリ左右笹多シ、「セタベツ」ト云「ビラ」ニ属ス、都テ沙路也、行半里許岡横タハリ路無キカ如シ、崖下路左漁屋二戸アリ、「セムシ」ト云、其岡脊海ニ枕シテ岬トナリ礁石海中ニ起伏スル処「セムシ」岬ト云フ、直ニ坂ヲ攀テ岡脊ニ出、此モ「セムシ」

ト云フ、岡西「マシケ」ニ連リ南北幅四五町ノ曠原ニテ熊笹茂生ス、岡ヲ下リ「ル、モツペ」川ヲ渡リ運上屋ニ抵ル境界「マシケ」ノ東「ル、モツペ」ト界スルコト上文ノ如ク、西「ハマ、シケ」ト界ス、領海里数昨日記スル処ノ如シ、「マシケ」ニ調役下役ノ詰合一人アリ、是迄石狩ノ管轄ニ係ル、漁場・番屋等前文中言フ処ノ如シ、藩衛「マシケ」運上屋元ノ西ノ平地少シ高キ処ニ方ニ町許ノ佐竹家ノ営所アリ、元陣屋ト称ス、宗谷及唐太「シラヌシ」等ニ出張所アリ、此処勤番二百人余アリ、聞ク、昨年四月此ニ来テ屯戍シ寒地ノ越年瘴癘ノ氣ニ当リ、当年春ニ至リ損傷スルモノ七十人ニ及フト「欄外 帰路秋田ノ医員ニ聞シニハ五十六人此地ニテ没シ、其「クシユン」「ソヤウ」途中ニテ没シタヲ合セテ七十八人ニ至ルト云」、豈之カ為メニ悲酸セサランヤ、砲台ニケ所「ノツカ」「サク」ノ辺ニ置ントスト

戸口 蝦夷屋三十余戸、人別百三四十人ト云、出稼二百余家、人別千余人ト「マシケ」ノ領中

風俗 蝦夷帰化スルモノ一人ヲ「アフン」テ見タリ、結髪剃髪右衽ノ姿ニナレトモ状態猶夷ヲ免レス

産物 何レモ鮭漁繁盛、其他大口魚・カスヘ・比目魚・ソイ多シ、畑作近年ハ茄子・小豆・胡瓜・隠見豆・菜菔等能ク熟スト云フ

土質 大抵黒色・黄黒色ノ粘土、砂雜ノ黒赤色土也、開墾セハ粟・稗等雜穀必成熟ト思ハル、地多シ、「ル、モツヘ」ハ一段土性美也ト番云ヘリ 水性、風袋共百七十一匁 泉水・井水

氣候 卯刻五十三度、酉刻五十五度

五月二日 留流物部出立遠仁志加止宿、行程五里半余、雨午後風

地勢 「ル、モツヘ」運上屋元北差西ニ向ヒ、「セムシ」「エンルモ」ノ二岬小湾ヲナシ、背後ハ平沢迢曠、丘陵邈透トシテ遠ク其左右ヲ擁ス、「ル、モツヘ」川其中ヲ貫流シ運上家ノ背ヨリ左ニ出テ海ニ入ル、川幅六十間余頗ル穩

流ニシテ海舶ヲ繫ク可シ三四百石積ノ船ヲ限リトスル由、蝦夷人往々積雪上ヲ蹈ミ川脈ヲ趁ヒ遡リテ石刈ノ地ニ至ル、但夏月ハ長篠蒙茸人行ヲ通セスト云フ、早発湾ニ循フテ行キ、「エンルモ」岬ヲ踰ユ、漁場ナリ、又十余丁ニテ「ホントマリ」、小湾ニテ岬アリ、其ヲ「サントマリ」岬ト称ス、其間タニ「トヒタンナイ」ノ小沢アリ、又行里余、「ウシヤ」余程ノ出岬大漁場ナリ、此ヲ過テ一広沢ヲ得タリ、「ホロルサン」ト云フ、「ラメラシベツ」川流出ス、其幅三十余間舟之ヲ済ル、右ノ広沢是ニ至テ尽キ、一山其右ヲ扼シ斗出シテ岬ヲナス、「エンカルウシ」ト名ツク、岬ヲ遶レハ浅湾アリ、「ヲネトマリ」ト云フ、又行クコト五六丁ニシテ小岬アリ、是日風濤頗ル起リシユヘ此ヨリ右転シテ山路ヲ取ル、「トヨラチケ」ト云フ茂林ヲ穿チ五六丁ニシテ又海漱ニ下リ行ク、細流アリ「ホロト、コ」ト云フ、夫ヨリ二十余丁ニシテ其分派アリ、「ホント、コ」ト名ツク、夫ヨリ「ユナイ」小沢ナリ、此奥ニ温泉アリ故ニ名ツク、「テントカレ」泉ヲ踰へ小岬アリ、「トシナイ」ト云フ、其右又一岬

アリテ浅湾ヲナス、名ツケテ「ミヨトマリ」ト云フ、「ホシニシカ」ニ至リ沙嘴ヲ廻リ一川ヲ度リ「ヲニシカ」番屋ニ達ス、是日歴ル所ノ浜浦海浅クシテ漁獲ニ乏シク、砂鬆ニシテ步履ニ難シ、但シ「ヲネトマリ」以南ハ湾曲多ク昨日ノ観ル所ニ彷彿セリ、其以北ハ砂渚繩直ニシテ絶々石刈前後ノ地ニ似タリ、今日過ル所ノ地名
 エンルモ ホントマリ トヒタンナイ サントマリ
 ウシヤ ホロルサン ヲメラシベツ エンカルウシ
 ヲネトマリ トヨラチケ ホロト、コ ホント、コ
 ユナイ テントカン トシナイ ミヨトマリ
 ホンヲニシカ
 境界 「ル、モツペ」ハ調役並詰合ニテ此ヨリ北沙裏ノ地迄皆其管下ニ係ル、是日過ル所ノ「エンルモ」「ホントマリ」「サントマリ」「ウシヤ」「ヲネトマリ」「ミヨトマリ」「ホンヲニシカ」皆漁場ナリ、「ウシヤ」ニ番屋アリ、「ヲネトマリ」ニ午餉所アリ
 戸口 夷民二百三十三口、聞ク、年々ニ減少スル由歎スヘ

シ、出稼人ハ何程アルカ詳カニセス、此レハ昨年ヨリ増タル由

物産 「トヨラチケ」山中ニテ「シナ」ト云フ木ヲ觀ル、

又桜草アリ、蝦夷地ニテハ始テ見タリ 「シナ」ノ葉ハ蔦ニ類セリ、皮ハ櫨ノ如シ

土質 「ル、モツペ」ノ地ハ甚タ肥沃ニテ蔬菜何ニテモ種

ユ可シ、蘿蔔・豇豆ノ属、尤能ク豊熟スト云フ、若シ墾

シテ穀類ヲ植ヘハ佳ナル可シ、留流川脈ハ衍沃ノ大沢ナ

リ、棄テ鹵莽ニ付ス惜ム可シ 「ル、モツペ」井水風袋共

百七十一匁

氣候 測器朝暮共六十三度

五月三日 オニシカ出立トマ、并止宿、行程五里而近、

是日乍晴

オシネオニシカ トマリキシナイ オタネコロ

ヤハオタネコロ チヤシユンナイ イチフラナイ

イチフラナイ岬 メモトマリ リキビリ ウエンピラ

コタンベツ コタンヘツ岬 ソウメントマリ ホロナイ

地勢 「オニシカ」番屋元ノ形勢、海浜戍位二面シ左ニ

「ホンオニシカ」右ニ「オンネオニシカ」ノ両岬ヲ擁シ一

小湾ヲ為シ、背後ハ平低ノ草山ニシテ佳港要地ニ非ルコト

勿論ナリ、然レトモ聊ノ漁場タルヲ兼テ、「ル、モツペ」

「トマ、イ」ノ中央休泊所ヲ營構シタル者ナリ、番屋前ヨ

リ數十武「オンネオニシカ」漁場ニ近ツキ路ヲ転シ右折シ

テ草原上ヲ迂曲登降シ「オンネオニシカベツ」ノ川橋ヲ度

リテ「オンネオニシカ」岬ノ北ナル海濊ニ出ツ 直行シテ「オ

ヲ度ラスシテ如此三四丁ノ迂路ニ就ク、「オンネオニシカ」

ハ、橋梁ノ架スヘキ処ヲ撰ヒテノコトナリ岬頗ル海面ニ斗出セル形状ナリ、此処ヨリ岡阜草崖ヲ右ニ

シテ海濊ヲ往ク、連日同様ノ光景ナリ、五六町許ニシテ小

溪沢ヲ得ル、地名「トマリキシナイ」ト云、又十余町モ過

キ小溪沢「オタネコロ」ト云、又数町ニシテ「ヤハオタネ

コロ」ト云フ、凡ソ沢アレハ必瑞流アリテ海ニ注入スルハ

言ヲ待タサル常景ナリ、其次ノ小溪沢其奥頗ル深遠ナルニ

似タリ、此処ヲ「チヤシユンナイ」ト云フ、「ル、モツ

ヘ」「トマ、イ」ノ領界也、又七八丁許ニシテ狭小ナル澗

谷「イチブラナイ」ト称ス、其処ノ岬ヲ「イチブラナイ」岬トス、此レ「オンネオニシカ」岬以来ノ大岬ナリ、回顧スレハ「オンネオニシカ」ヨリ此ニ至リ一長灣ヲ為シ、而シテ羅針ヲ檢スルニ彼レハ巳位ニ在リ、此レハ亥位ニ在テ対向ス、「イチブラナイ」岬ヲ廻レハ小灣アリ、灣ヲ過キ尽セハ午飯所ナリ、小灣ニ漁場アリ、午飯所ニ至ルマテ地名「メモトマリ」ト云フ、「チャシユンナイ」ヨリ此ニ至リ二十町トス、午飯所前ニ一小川ヲ度リ漁場ヲ得ル、地名「リキビラ」ト云、又十町許ニシテ一小岬アリ、「チシヤ」ト云、海中礁石突起シ又暗礁多シ、既ニシテ「ホンサラ」ト云フ地ヲ経テ「ウエンビラ」岬ニ至ル、亦小岬ナリ、此ヲ廻リ右折シ一個ノ大溪沢ニ出ツ、即チ「ウエンビラ」ト云フ、此ノ沢ノ径リ四五町許ニシテ、左ハ沙土堆積シテ其上草茅蕃殖シ自然ト海ヲ隔ツル一長堤ノ如シ、右ハ奥深キコト殆一里許モアルヘシ、昨今経過ノ地概シテ平遠丘陵ノミニテ絶テ山岳ナシ、此大沢ニ至リ右顧スレハ遙ニ崔嵬重疊セル高山雪ヲ戴テ皚然タリ、「ハボロ」山ト称ス、

「ウエンビラ」ノ沢ヲ経過シ尽シ大河アリ、「コタンベツ」ト云、舟ニテ度ル、川幅四十間許、其水ノ海ニ注入スル処ノ北岸大岬アリ、「コタンヘツ」岬トス、岬内ニ夷居一戸アリ、又一厩アリ、冬中「トマ、イ」所畜ノ馬ヲ置ク所ナリ、此岬「オンネオニシカ」「イチブラ」ニ比スレハ最海遠ク海面ニ斗出ス、来路「オフイ」岬ヲ過キテヨリ、前面ニ右ヨリ左ニ迸走セル岬ヲ見シハ即チ此岬ナリ、此岬ニテ方向ヲ檢スルニ「オフイ」岬未位ニ当レリ、「テウレ」「ヤキシリ」ニ小島「テシヲ」領分トス申位ニ在リ、「リイシリ」島「ソウヤ」領分ナリ西位ニ在リ、而シテ「ル、モツヘ」巳午ノ間ニ在ルナリ、此岬ヲ廻リ行歩ノ方向別ニ変セスシテ数町経過シ、「ソウメントマリ」ト云フ一浅灣ヨリ「ホロナイ」ト云フ僅カニ平曠ナル草原ヲ経テ「トマ、イ」運上屋元ニ着シ宿ヲ投ス、「トマ、イ」運上屋元、「コタンベツ」ヨリ半里余「メモトマリ」ヨリ二里卅五町ト称ス境界「オニシカ」番屋ノミニテ吏員ノ居ナシ、漁場ハ「オニシカ」「オンネオニシカ」「メモトマリ」「リキビ

リ」ニ在ルノミ

戸口 夷家「オニシカ」ニ二三戸アリ、其他出稼漁場二三所、合シテ十家ニ上ラス、「コタンベツ」ニ夷家一戸、蓋川渡守ナリ

物産 漁利ノ鮮少上文ニテ概知スヘシ、「リキビリ」地方ハ昆布多キ由、ソレ故ナルカ浜上ニ波ノ打上ケテ棄レル者多シ

土質 道路ハ磯浜ノミナル故ニ深沙蹠ヲ没スルニ至レリ、沿海ノ地皆沙多シ、然レトモ数町内地ニ入ラハ黒土粘土アルニ似タリ

氣候 朝四十三度、夕四十七度

五月四日晴北風 「トマ、イ」発足「フウレベツ」投宿、行程八里二町余

トマリアサマ ヲシ、ルシ ホンナイ ヲ、クチナイ
タチヤシケナイ シイルクマナイ ハボロヒラ岬 ハボロ
ニカリウシ マシナイ チユクベツ ヤキチナイ トウシ

ヒタチナイ モチユクベツ シロチヤナイ モセタキナイ
ヲンネシロチヤナイ チロチロナイ ヒサンベツ
キンコシナイ シリヤントマリ イナヲウシ
イシウシナイ

地勢 「トマ、イ」ハ東南岡陵堤ノ如ク連リタル海岸へ偃月ノ如ク吹寄沙積テ丘壟トナリタル平地ニテ境域広カラス、長短斷補セハ方四五町モアルヘシ、故ニ灣ノ船ヲ繋クヘキナシ、只東北ノ方「トマリアサマ」ト云処少シク弓形ノ灣ヲナシテアレハ此ニ繫船スヘキカ、方位ハ西面海ニ臨メリ、「フウレベツ」ハ丑ニ当リ、「リイシリ」島ハ子ニ当リ、「ヤンキシリ」「テウレ」ニ島ハ戌ニ当リ、西ハ海水、後背ノ堤ト相連テ路ナキニ似タリ、運上屋元ハ西差戌ニ向フ、右倉庫左ニ蝦夷屋敷數軒在リ、甚要地勢ニアラス、然レトモ背後ノ岡ヲ攀登リテ見レハ一大曠原アリテ方二里許モスヘキ処アリ、爰ニ營柵屯戍ヲ置キ街市ヲ建陸路ヲ通セハ、「マシケ」「ソウヤ」ノ応接首尾シ而シテ農耕ノ業モ繁盛スヘキ沃地ト思ハルナリ、運上屋出立右ニ折レテ一

町許、「トマリアサマ」ト云漁廠二軒ヲ見ル、崖下ノ砂浜ヲ行ク十丁、「ヲシ、ルシ」ト云少シノ沢ナリ、「ホンナイ」ヲ経テ「ヲ、クチナイ」丘陵絶テ沢広ク遠ク樹木ノ鬱茂ヲ見ル、六七町行テ「ヲチヤシケナイ」、又行七八丁「シイルケマナイ」、二三所溪水岩石ヲ伝テ高ク瀑布ヲナシテ海ニ注入スル些ノ懸崖アリ、十数丁ニシテ一ノ岬ヲ廻ル、「ハボロビラ」ト云、右ニ折テ沢ノ中ヲ行三四町、「ハボロ」川ヲ渡ル、聞ク、此川ニ沿フテ浜ルコト三日程、「ハボロ」山下ニ出ツ、金鉞アリ、今廢ス、然レトモ沙金此辺ニ流レ来ルト云フ、今見ルコトナシ、此川幅甘間余船渡、東岸ノ沢ヲ「イカレウシナイ」ト云、一丁許行テ又海浜ニ出ツ、二三町行テ右折山ニ入り蛇行數町遂ニ高原ノ上ニ出ツ、四望渺茫トシテ際涯ナク只丘陵ノ遠ク圍匝スルノミニテ山巒ヲ見ス、原中虎杖・欸冬茂生ス、「ニカウシ」ニ至ル、少シク海ニ斗出シ眺望頗ル佳ナリ、羅針ヲ立ルニ、右ノ方遠ク海ニ走ルモノハ「ウエンベツ」ニシテ子丑ノ間ニアリ、「ヒサンベツ」少シ近ク寅ニ当リ、「ヤンキシリ」

「テウレ」三島ハ海中遙カニ成ノ位ニアリ、檜原上ヲ行ク、熊笹繁茂シ原上一円ニアリ、忽柏林中ニ入ル、未タ新葉ヲ不見枯葉ノ枝ニ粘スルアリ、復タ熊笹ノ原トナリ坂ヲ下リテ広沢ニ出、「チユクベツ」ト云フ、夷屋一軒番屋アリテ爰ニ小憩シ午飯ヲ喫シ、川ヲ渡リ沢アリ、欸冬・木賊多シ、披払シテ行ク、一町許ニシテ海浜ニ出ツ、砂路ヲ行ク、「ヤキチナイ」「トウシ」等ヲ過テ「モチクベツ」ニ至ル、川アリ、舟渡「ヒタチナイ」ヲ経テ「シロチヤナイ」「ランニ至ル、沢中廿余町アリト云フ、「モセタキナイ」「ランネシロチヤナイ」皆沢ナリ、其口ハ狭ク内ハ奥深ク岡巒ニ接シテ広シ、樹林ノ鬱蒼タルヲ遠望ス、「チロチロナイ」尤広ク「ヒサンベツ」ニ至テハ出岬トナリタリ、「ヒサンベツ」川ヲ渡リ又海浜ニ出砂路ヲ行ク、「キンコシナイ」ヲ経テ「シリヤントマリ」ニ至ル、是ヨリ右ニ折レ山道ニ入りテ樹林ノ間ヲ行キ、山路曲折上下シテ「フウレベツ」ニ至ルヲ本道トナス、山本氏山路ニ隨ヒ行ク、余等ハ皆海浜ヲ行ク、此ハ間道ニテ捷徑也、然レトモ巉巖岨々トシテ

右ニ聳へ頭上ニ落ンスル勢アリ、海浪ハ近ク汀ヲ打テ足ヲ引ントシ、而大木路ニ横ハリ砂深クシテ間々石根ヲ見ハス、如此モノ拾余町「イナヲウシ」ト云岬ニ至ル、崩壊シタル大石路ヲ塞キテ壘々タルニ波浪当リ砕ケテ飛散スルコト雨ノ如シ、此危険ヲ経テ岬ヲ循行スルコト三町許ニシテ、「イシウシナイ」ヨリ左ニ折レ赤壁下ヲ行ク二三町、右折シテ「フウレベツ」川端ニ出、板橋ヲ渡リテ平地ニ出ツ、即「フウレベツ」番屋、「トマ、イ」ヨリ置処ナリ、此ニ止宿ス

境界 「フウレベツ」番屋ハ「トマ、イ」領也、漁場ハ一所モ見ス、官吏ハ「トマ、イ」ニ調役下役一人・同心一人詰合アリ

戸口 蝦夷二十五戸、人別百五十人許「トマ、イ」ニアリ、「ハボロ」ニ一軒「チクヘツ」ニ一軒ヲ見受タリ、「トマ、イ」ニ出稼スルモノ当年始テ二組来リシト云フ、然レトモ人数ハ二組ニテ廿四五人ナリト

物産 此節鮓ノ外「鱒」「ソイ」「カスベ」等ナリ、草木歟

冬「虎杖」「車前」「蕃草」「百合」「ゴシ」「ニヲ」「サク」「フレツブ」「ニヲ」「サク」「フレツブ」、右今日經過スル三品夷名皆夷人ノ食物ナリ、沢中原頭ニ多ク見タリ、「チユクベツ」ニテ幅三尺許ノ椶ノ皮ニ似タルモノニテ屋ヲ葺ヲ見ル、番人ニ問ヒシニ此辺ノ山ニアル大木トウ檜ノ木ノ皮ナリト云ヘリ

土質 「トマ、イ」ノ岡上ハ黒色粘土、「ニカリウシ」ノ原上其他ノ沢中、大抵淡黒色ニテ少シ白キモノ粘土ナリ、海浜砂地ヲ除ク外ハ皆開墾セハ良田畠トナルヘク思ハル、既ニ「トマ、イ」ノ詰合石井氏ハ畑五反程ヲ開墾サセタルニ、粟・御所芋・隠見豆・大根等能成熟シタリ、殊ニ天王寺カブト唱フルモノ輪切りニシテ平皿ニ溢ル程ノ太サアリタリ、当年ハ稗・黍・陸稻ノ類ヲ増シ作ル由、且ツ此地ニ松ヲ産セサル故去年種植ニシタルニ二三本生出タリト、未タ二三寸ナレトモ遂ニハ成木スヘシトノ話アリシ此畑ハ背後ノ岡上ニア

ニア 水性、井水風袋共百七十一匁
氣候 朝四十一度、夕四十一度、江都冬至ノ時候ナレトモ今日北風凜烈嚴冬ノ如シ、綿衣三領ヲ襲ヒ合羽ヲ覆ヒテモ、

途上二所ニテ火ヲ焚キ体ヲ煖メタリ

五月五日晴 「フーレベツ」出立「テシヲ」止宿、行
程八里十四町

ヤマカナイ ヲフィンナイ サリキナイ バラセナイ ヲタクシベツ
 モヲタクシベツ ヲヤチフツ フイタウシナイ ナケウシナイ ヤリキシナイ トマタウシナイ
 クマウシナイ ウエンベツ マサリマウツ ウツベツ マルマ
 イナヲサン マウツ キビトタンナイ キビウシ サルケシ
 フボケ
 地勢 「フーレベツ」番家ノ地ハ「イナヲウシ」岬陰ノ広
 沢ニシテ海ヲ北ニ受ケ、番屋ハ北差西ニ向ヘリ、背ニ平丘
 ヲ繞ラシ左ニ「フーレベツ」川ヲ帯ヒタリ、川幅三十余間
 橋ヲ架シテ之ヲ通ス、海浜絶テ灣巒ナシ、唯北ノ「ヲタク
 シベツ」岬遙カニ「イナヲウシ」岬ト相對シテ大浅曲ヲナ
 スノミ、此地漁獲ナシ、財力ニ官人宿憩ノ為メニ番屋ヲ置
 クナリ、番屋ヲ離レ行クコト二丁許、沢ノ尽头ヲ「ヤマカ
 ナイ」ト云フ、細流アリ、此所分岐ニシテ右ハ山遙左ハ海
 浜トナス、則チ海浜ヲ採リテ平沙上ヲ行ク、此辺ヨリ昨日

ト同様ノ赤壁堵牆ノ如ク割躡セル者ニ沿ヒテ行クコト一里
 半許ニシテ「ヲタクシベツ」岬ニ抵ル、大抵右ノ崖形断連
 長短齊シカラス、其間々得ル所ノ者、沢ニ非サレハ則溪若
 クハ流泉ナリ、之ヲ要スルニ崖ノ缺陷ニ過キス、噴々之ヲ
 詳カニスル者ハ啻煩碎ニ渉ル耳ニアラス、却テ覽者ヲシテ
 大形ニ眩セシム、故ニ一々之ヲ記セス、既ニシテ岬背ニ出
 ツ、大沢アリ、一川流出ス、是ヲ「ヲタクシベツ」トナス、
 以テ「都満々伊」「天志遠」ヲ界ス 「テシヲ」本「トママイ」ニ
 隸ス、故ニ区界ナシ、昨年官
 議シテ之ヲ、舟ニテ済ル、「フーレベツ」ヨリ一里廿九丁
 也、偕前ニ言フ所ノ赤崖此ニ至リテ尽キテ平岡ト變ス、其
 趾ニ循ヒ猶海浜ヲ行ク、此際ヨリ顧視スルニ「テウレ」島
 唯一点螺ノ如シ 「ヤンキシリ」ハ低平、
 ユヘカ寸碧毛見ヘズ、西北ニハ「リイシリ」
 島ヲ睨ス、真ニ蝦中ノ秀特ト云フ可シ 其細微ハ宗耶ノ、
 条下ニ係ク可シ、
 「ヲタクシベツ」ヲ過キ「ナケウシナイ」ニ至ル、此所ヨリ
 平岡陵夷シテ曠原トナル、原背一二里所ニハ丘壟連延シ其
 上ニ翠樾蒼蒼タリ、原ニ沿フテ行キ「ヤキウシナイ」ヲ經
 テ標撥木アリ、「トマタウシナイ」ト云フ、又行キ「クマ

ウシナイ」「イナヲサン」ノ二細流ヲ掲シ、一長岬ヲ得、之ヲ「ウエンベツ」トナス、岬ヲ遶レハ広沢一川ヲ注流ス、即チ「ウエンベツ」也、幅四十間許アリ、川側ニ傍ヒテ遡行スルコト四五町ニシテ向岸ニ航渡ス、此辺総テ楊樹茂密、日影ヲ漏洩セサル程ナリ、其稍打開ケタル所ニ憩所ヲ設ク、就テ午饜ス、夫ヨリ又林莽ヲ披ヒテ海浜ニ出ツ、小溪アリ、「マサリマウツ」ト称ス、「ウエンベツ」ノ支流流出ス、此所亦岐路アリ、猶海浜ニ由ル、半里許ニシテ「ウツベツ」ヲ舟渡リシ、「マルマウツ」「ヲボケマウツ」ノ細流ヲ踰ユ、皆「ウツベツ」ト同源ナリ 前ノ「マサリマウツ」、之ニ同シト云フ、已ニシテ「トビトタンナイ」ニ至リ、此ヨリ海ヲ離レテ原道ニ入ル、三丁許ニシテ憩所アリ、過テ「キビウシ」、道右ニ其形チ延長ナル沼アリ、夫ヨリ「ホロネナイ」ノ墩木ヲ経テ行クコト里余、右ニ鬱林ヲ得、其地ヲ「サルケシ」ト名ツク、夫ヨリ「テシヨ」川ノ匯入セル者ヲ得タリ、広サ大約百四五十間モアラン、聞ク、往年ハ其川口ナリシガ海沙ノ為メニ否塞セラレ川口此北ニ移リ開クト云フ、其右

ニ沿フテ行クコト五六町ニシテ「テシオ」運上屋ニ達ス境界「フリーレベツ」ハ昨記ニ誤挿ス故ニ又録セス、「ウエンベツ」「キビトタンナイ」ノ憩所ハ共ニ「テシヨ」ノ置ク所ナリ
戸口「フリーレベツ」番屋元ニ住夷六七煙アリ、其余渡口ニハ一二煙充アレトモ皆渡守ト云フ
物産「ヲタコシベツ」「ウエンベツ」「ウツベツ」ノ広沢ニハ欸冬長大ノ者多シ、「ウエンベツ」ニハ楊樹・芦葦尤多シ、又「フリーレベツ」ヨリ「ヲタコシベツ」ノ間海浜ニハ夥シク昆布ヲ打上ケタリ、暗礁ニモ叢生セリ、原野ハ熊笹十ノ八九ニ居レリ
土質 溪沢皆雜草豊生セリ、蓋シ肥沃ノユヘナラン「フリーレベツ」湧泉風袋共百七十二匁
氣候 朝三十三度、夕四十七度、是日寒威極烈、早晨霜ヲ降セリ、亦路次ノ崖壁間往々氷柱ヲ結フヲ見ル、蓋シ窮北ノ氣候固ヨリ然ルヘシト雖モ亦駭然ノ態不能無

五月六日晴 「テシヨ」出立「ワツカシヤクナイ」止
宿、行程六里廿五町

コエトイ シヤクリ オキシヤム オタバヒラ ホロノプテ
オトンルエ パンゲル サロ、ワツカシヤクベツ

地勢 「テシオ」運上屋元ノ形勢、平岡ヲ背ニシテ西面海
ニ臨ム、但シ海ト運上屋元地面トノ間ニ「テシオ」河北ヨ
リ来リ南ニ匯入スルコト昨日ノ記ノ如シ、此ノ匯入セル河
水ト海水トノ間、僅カニ幅五十間許ノ沙堤南北連走スルコ
ト長クシテ一長蛇ノ横ハル形状ナリ、運上屋前ニテ上船シ
匯入河水ヲ北ニ遡ルコト五六町ニシテ左顧スレハ、所謂長
蛇ノ如ク横ハル沙堤中断シテ河水ノ海ニ注入スルヲ見ル、
是レ「テシオ」川ノ川口ト唱ル者、其幅百間余モアルヘ
シ、猶北上スルコト半里許ニシテ西岸ニ就キ船ヲ棄ツ、此
レ「テシオ」川ノ渡場ナリ、此辺ニテ川幅ヲ見ルニ殆ント
二百間ナリ、夷地ノ大河第一ヲ「イシカリ」トシ、第二ヲ
「テシオ」トシ、第三第四ヲ「トカチ」「クスリ」ト称ス
ル説、イカニモ然ルヘキ者ト思ハル、但シ「テシオ」河甚

穩流ナリ、水源ハ「アカン」岳ヨリ来ルト云説、又「イシ
カリ」河ト源ヲ同スルト云説アリ、果シテ然リヤ否、何レ
ニモ十日程以上ノ遠処ナル由ナリ、偕渡場ノ西岸小休所
アリ、此処ヲ「コエトイ」ト云、其一町許南ニ烽火台ア
リ、所謂長蛇形ノ堤ノ北ニ至リ尽クシテ地面変シテ幅員広
寛トナル者ナリ、此際ニテ左右顧望スルニ「テシオ」河ハ
東北ヨリ来ル、故ニ海ニ循フ行路ハ此レヨリ河ニ遠サカル、
「テシオ」場所ノ海面ヲ見ルニ更ニ灣港ノ形ナシ、舟船ノ
繫泊ハ「テシオ」川口ノ内ニ入ル者ナルヘシ、偶番人ノ話
ニ、「テシオ」ニテハ弁才船ノ繫泊スヘキ地ナシ、漁獲荷
物ヲ積込等ハ「トマ、イ」ニ碇泊シテ小船ヲ以テ「テシ
オ」ヨリ運送ス、但シ昨年三月末雪消ニテ河水ノ漲甚シキ
時、三百石積ノ船一隻川口ニ引入タリ、平時ハ河浅キヲ以
テ大船ヲ納ルコトナシト云、偕「コエトイ」小休所ヨリシ
テ行路草原ニ向フト海浜ニ就クトノ二途アリ、草原ニ赴カ
ントスルニ郷導者悪路行得スト称シ禁止ス、止ムコトヲ得
ス海浜ヲ行ク、深沙ノ蹊ヲ没スル模様頃日ノ路ノ如シ、而

シテ方向ハ亥ノ位ヲ指シ直行シ、絶テ出入湾形ノ処ナシ、右脇ハ即チ草原平低茫茫際涯ヲ見サルノ曠地ナリ、今日ノ行路始終如此ニシテ一個ノ小沢流ヲ得ルコトモ無シ、地勢変化ナキノ極ト謂フベシ、回看スレハ「フウレベツ」ノ「イナオウシ」岬遙カニ海中ニ斗出シ、其東ニハ「ハボロ」山雪ヲ戴テ聳ユ、行路ノ前面ニ当ル者ハ「リイシリ」岳、前差左ニ在テ稍々ト近ツキ漸々ト高峻ヲ増シ、而シテ其又右遙ニ「レフンシリ」島隱然ト海煙中ニ現出ス、其他目ニ触ル、者ナシ、「オトシルエ」午餉所ナレトモ別ニ殊異ナル地形ニ非ス、此ヨリシテ沙礫ヲ厭ヒ強テ草原上ヲ行クニ、前ニ云如キ地勢ニシテ玫瑰・茅・茨及諸雜草繁殖セリ、但シ右脇ニ三町外僅カニ地面高ク岡陵ノ平低ナル者ニシテ椴林森々タリ、蓋シ「テシオ」以来終日沿途皆如此ナリ、「シヤクリ」「オタバヒラ」「ホロノプテ」「オトシルエ」「パンゲル」「サロ、」「ワツカシヤクベツ」皆椴木ノ在ル所ニシテ、通計里数前文ニ記スル如ニシテ、「ワツカシヤクナイ」ニ達ス

境界 「テシオ」領凡十五里、旧来「テシヨ」「トマ、イ」同一場所ニシテ運上屋「トマ、イ」ニ在リ、「テシオ」ハ番屋在ルノミニシテ総テ廿八里余一連ナリシヨ、昨年官裁トナリシヨリ裂テ二場所ト為セリ、而シテ「テウレ」「ヤンキシリ」ニ島「トマ、イ」前洋ニ在テ「トマ、イ」隸属スヘキ地勢ナレトモ、「テシオ」場所漁獲ナキヲ以テ二島「テシオ」ノ管轄トナル由、調役下役及同心「テシオ」ニ詰合アリ

戸口 「テシオ」領ノ夷総テ三百人許ニシテ、方今使役ニ供スル丁壯ノ者六十人許ノ由、内地人ノ出稼ハ絶テ無キナリ

物産 「テシオ」運上屋元ハ絶テ漁利ナク、僅カニ其前面ノ堤上ニ漁小家二三戸アリテ、鮭漁時アリテ利ヲ獲ル由、「テシオ」ヨリ「ヤンキシリ」ハ十二里、「テウレ」ハ十三里「トマ、イ」ヨリ「ヤンキシリ」ハ六里、「テウレ」ハ七里、「トマ、イ」領「ハボロ」ヨリ「ヤンキシリ」ハ五里、「テウレ」ハ六里、「テウレ」ハ「ヤンキシリ」ノ沖一里外ニ在ル由ナリ

ニシテ遠方ナレトモ此ヲ漁場ト為シ、「ヤンキシリ」ニハ番屋アリ、番人越年シテ詰居

ル由、「テシオ」ノ夷「ヤンキシリ」ニ五十軒許、運上屋元ニ八十五軒、其余「テシオ」川ノ上流十日程外ニ住スル者、春二月ニ「テシオ」ニ来リ秋漁畢リテ又帰住スル、由テ此等ノ夷皆「ヤンキシリ」「テウレ」ニ島「テウレ」ニニハ住夷無キ由ニテ鯉・鮑・鮭・昆布等ノ事ニ使用スル由、又「テシオ」川筋熊獺ヲ獲ルコト多キ由、蜆ヲ「テシオ」川ノ名産ト称スレトモ此レハ日用食用ニ供スルノミノ由、「テシオ」領陸地平原低岡渺茫タルノミ、然レトモ椴林頗ル多ク見ユ、且「テシオ」川筋ハ必大樹多カラシ

土質 経過セル原上ハ皆沿海ニテ沙地ナレトモ草木茂密ノ姿ヲ見ルニ墾開ノ益無シトスヘカラス、但シ今日「テシオ」川以後ハ一小川ヲ得ス、水利ノ乏キコト如何アルベキト思ハル、且ツ水性ハ甚悪シ、皆停蓄汚濁ノ者ト思ハル流水風袋共百七十二匁
 氣候 朝四十二度、夕五十四度

補遺 「ヤンキシリ」周廻二里廿六日町、「テウレ」周廻二里廿九町、又此島舟掛リ宜クシテ漁獲積出シノ船ハ

「テシオ」運上屋元ニ廻ラス、直ニ此島ヨリスル由ナリ

五月七日朝曇午後晴 「ワツカシヤクナイ」出立「バ

ツカイ」止宿、行程六里拾四町許

ヲフイニシヤ ビバカ エキコマナイ ヲネトマフ

ユクル ユウク ウーヂイ ベ、ナイ

地勢 海浜灣曲ナク広原茫々トシテ、堤防ノ依テ居ヲトシムヘキナシ、故ニ海浜ニ向ヒ西ニ面シ広原ヲ背ニシテ番屋ヲ置ク、是ヲ「ワツカシヤクナイ」トナス、全ク通行ノ旅人憩泊ノ為ニ設ルナリ、通行アル節ハ「テシオ」ヨリ来テ取扱ヒ、通行ナキ節ハ唯土人一人ヲ留テ屋ヲ守ラス耳ト云フ、早発海浜ニ沿フテ行ク半里許リ、「ヲフイニシヤ」小川ナリ、徒渉シ又半里、「ビバガ」ヲ經一里余ニシテ「エキコマナイ」ニ至ル、小川アリ、此レ迄「ワツカシヤクナイ」ヨリ二里十一丁ト云フ、川ヨリ西ヲ「テシオ」領トシ北ヲ「ソウヤ」領トナス喉木ヲ立タリ、夫ヨリ一里ニシテ「ヲネトマフ」、是マテ子ニ向テ来リ、是ヨリ差丑ニ

向テ行ク一里、「ユクル」ニ至ル、来路右ハ曠原昨日ノ如シ、此辺ヨリ形勢少シク変シ、丘陵トナリ次第ニ高岡トナリテ東南連綿ス、岡ニ循ヒ海浜ヲ行ク半里許、「ユウク」憩所アリ、此ニテ午餉ス、亦海浜ヲ行ク、然レトモ前ノ岡巒南ヨリ東ニ延ヒテ北ニ走り遂ニ海ニ逼ル、相距ル三町或ハ五町ニタラス、是ヨリ丑寅ヲ指シテ行ク、左方海中雲煙朦朧中「リイシリ」島ヲ亥ニ望ンテ行ク一里許、小川ヲ渉ル、「ウーヂイ」ト云フ、是ヨリ山漸々大ニシテ海畔ニ逼近シ、山上大木ハ見サレトモ椴木密鬱ス、行半里余「ベ、ナイ」、子ヲ指シテ行ク半里許、山趾斗出シ海濱劣ニ一條路ヲ通ス、海畔ヨリ海中礁石暗礁多ク、山背尽ル処一大盤石屋形ヲナシ、上ニ石ヲ戴ク物ヲ負フ如キヲ見ル、此石ヲ「バツカイ」ト云フ、土人祭リテ神ノ如クス、前ニ華表アリ華表ハ土人ノ作ナラ、蓋番人等ノ所為カ、「バツカイ」ノ義タル、土人背ニ物ヲ負フヲ「バツカイ」ト云フ、石ハ形似ヲ以テ名ヲ得、遂ニ地ノ名トナスト云フ、海濱礁石ノ上ヲ過キ「バツカイ」ノ番屋ニ達ス、按スルニ「テシオ」「ワツカシヤクナ

イ」辺ハ海浜直繩ノ如ク少シノ灣曲ナシ、今日過ル処「ヲネトマフ」辺ヨリ此ニ至ル一小灣ヲナスニ似タリ、而シテ「バツカイ」ハ海中ニ斗出スル処ニテ、是ヨリ以北海浜ノ一変ト云フベシ

境界 「エキコマナイ」ヲ以テ「テシオ」「ソウヤ」ノ領界トスルコト前文ノ如シ

土質 經過スル処海浜沙地ナレトモ、遙ニ原頭平岡ヲ望ムニ雑草茂生シ雑木モ鬱翳ス、溪流海ニ注スル処アレハ、此辺ニ至テハ又土性・水利共ニ墾闢ノ便ヲ得ルモ知ル可カラス 水性、山水風袋共百七十二匁

氣候 朝四十九度、暮五十五度

五月八日晡露午後細雨 「バツカイ」出立「ソーヤ」

止宿、行程九里十八町余

クトノベツ チタウキニウシ ルイラン峠カムイトウ

クサンル コイトイ ノスケヲマナイ ウエンナイ

カモイシヤハ メクマ シラリウツ マスポ、イ

イノスケヲマナイ ヲマクシマナイ リヤコタン
ノカンケシナイ

地勢 「バツカイ」ハ一山岬末ノ平地、三丁許海面エ斗出
セル者ニテ、山ニ近キ所ノ幅亦三四丁アリテ、漸ク末ニ抵
テ尖狭ノ砂嘴ヲナス、南ニ昨日過経セシ「ユーク」、北ニ
「ノツシヤブ」岬アリテ左右二大湾ヲナス、然レトモ南湾
ハ極メテ浅曲ナリ、北湾ハ頗ル深ケレトモ海又浅ク波勢モ
穏カナラサルユへ、是又港譽ト称スルコトヲ得ス「欄外
或云、北湾ハ安譽ナリト、然レトモ番人ノ云フ所亦見ル所
ハ本文ニ説カ如シ」、然レトモ「トマ、イ」以往砂灘繩直、
絶テ屈曲ナク、魚蝦臻ラサル如キ比ニ非ス、昨記ニ言フ如
ク実ニ岸勢ノ一大変化ト云フ可シ、番屋ハ東面ニテ前ハ山
ニ対シ、左右後ノ三面ハ海ヲ繞セリ、右斜一町所ニ「バツ
カイ」巖アリ 巖ノ形千名義等
ハ昨記ニ抄挙ス 故ニ此地ニ其名ヲ冒シム、
早ニ番屋ヲ離レ、平砂ヲ踏シテ東面行ス、右顧平沢衍闊ニ
テ山巒其外ヲ圍匝セリ、行一里「クトノベツ」川アリ、舟
渡シ此辺ヨリ東稍北嚮シテ行ク、楳木「チタウキニウシ」

ヲ過キ、又十四五丁ニシテ山麓ニ憩所アリ、「ルイラン」
ト云フ、此海浜ニ小浅湾アリ、右半里所ニ「ノツシヤブ」
岬迸出セリ、此所ニテ羅鍼ヲ検スルニ「バツカイ」末、
「リイシリ」申酉、「レブンシリ」戌ニ当レリ、偕憩所ヲ
出テ九折坂ヲ攀ルコト二三丁ニテ絶頂ニ至ル、東南望スル
ニ疊巒起伏潮頭ノ如其涯際ヲ知ラス、又行四五丁左峡間ニ
広袤四五十武ノ小沼アリ、水色沈碧動カス、浄潔拭フカ如
シ、土人之ヲ以テ「リイシリ」岳神ノ御手洗トナシ甚尊崇
スル由、故ニ「カムイトー」ト称ス、過テ行クコト六七丁、
是ヨリ柏林ヲ穿チ出沒シテ行キ竟ニ坂ヲ下ル、此ヲ「ルイ
ラン」峠ト名ツク、夫ヨリ平沢ニテ林樹陰翳境極テ幽邃ナ
リ、楳標アリ「クサンル」ト云フ、十余丁ニテ林ヲ出テ短
篠ヲ披キ行ク、七八丁ニテ海淑ニ出ツ、此所ニテ「ノツシ
ヤブ」岬背ヲ望ム、其岬遠ク「ソウヤ」ノ岬ト対シ大湾ヲ
ナシ、其中央ニ苜洲ノ如キ者ヲ見ル、之レ「コイトイ」岬
末ノ水沢ナリ、已ニシテ行キ「ノスケヲマナイ」ヲ経テ
「ウエンナイ」曠沢ニシテ川橋アリ、夫ヨリ「コイト

「岬ニ至ル、則チ前ニ言フ所ノ水沢ノ外面ヲ遶リテ岬背ニ出ツ、一川ヲ舟濟リシ番屋ニテ午餉ス、此ヨリ砂浜平直ニシテ右ハ茫渺タル曠野ナリ、「カモイシヤバ」「メクマ」「シラリウツ」等ノ喉木ヲ過キ舟一川ヲ渡ル、憩所アリ「マスポ、イ」ト名ツク、此辺ヨリ連山海ニ逼近セリ、「イノスケヲマナイ」ノ小沢ヲ過キ喉木アリ、「ヲエクシマナイ」ト云フ、此辺ヨリ山脚ニ沿ヒ北行シ「リヤコタン」ヲ過キ「ノカンケシナイ」岬ヲ廻リ、十余丁ニシテ「ソウヤ」運上屋ニ達ス

境界 「バツカイ」番屋「ソウヤ」ニ属ス、立物等モ多ク此辺ニハ珍ラシキ大漁場ナリ、「ノツシヤブ」岬ノ周圍ニモ漁場数ヶ所アル様子也、「ウエンナイ」厩番屋アリ、「コイトイ」ハ漁場也、「リヤコタン」ニハ火薬廠ニツアリ
戸口 「バツカイ」番屋許ニ夷屋十余軒、「コイトイ」ニ六七軒、「リヤコタン」ニ二軒アリ、聞ク、宗邪管内ハ婦俗ノ夷多キ由、「バツカイ」乙名ハ外套及ヒ袴ヲ着ケ昨日

余等ヲ出迎シカ、実ニ中土人ト異ハルコト無シ、又番屋内ニモ番人同様ニ袴ヲ穿テ周旋スル者モアリシ

物産 草木鳥魚等日々ノ記ニ同シ、故ニ煩録セス
土質 「バツカイ」溪流風袋共百七十二匁

氣候 測器朝五十一度、夜四十三度、是日午後東北風凜冽ニテ膚ヲ撃クガ如シ、中土ニテハ隆冬ト雖トモ多カラザル者ナリ、蓋シ雨ヲ雜ヘシユヘ寒威一層ヲ加ヘシナラン

五月九日「ソウヤ」滞留、晴天ナレトモ舟発セサル故也

氣候 朝四十二度、夕五十三度、数日前此地雪降りシ由、寒氣実ニ肌ニ透徹ス、但未牌以後大ニ暖和ヲ覺フ
水性、風袋共百七十二匁、但シ山澗ノ沸泉ナリ

五月十日「ソウヤ」滞留晴

氣候 未刻五十度、酉刻五十三度

五月十一日陰翳 「ソウヤ」出帆、至北蝦夷自「シラヌシ」沖落船、翌十二日「エンルモコマフ」着岸、海上五十二里

地勢 「ソウヤ」ハ本蝦夷地西北ノ極処ニシテ、大勢ヲ以テ云ハ、南ハ「ノツシヤフ」岬、北ハ「エンルム」岬、其距離直線五六里ノ海口ヲ為シテ、西面ノ一大灣アリテ、此大灣ノ北尽スル辺ニテ、「エンルム」岬ノ南十町許ニ小岬「ピルカ」ト称スル者ト、昨日経過シ来リタル「ノカンケシナイ」ノ小岬ト相对スル内ニ於テ一灣港ヲ為ス、此レ「ソウヤ」運上屋元ナリ、前ニ所云ノ「エンルム」岬、実ニ西北ヲ指シ大洋ニ斗出セル者ナル故ニ多ク「エンルム」ヲ以テ呼ハスシテ「ソウ」岬ト称ス「欄外 再檢スルニ、「エンルム」ノ北差東二十町許ニシテ「サンナイ」ノ右岬、或ハ「シルシ」岬トモ云者、最海中ニ突出シ本蝦夷地西北隅ノ極ナリ、此ト「ノツシヤフ」岬ト一大灣ヲ為スナリ、「サンナイ」海中ニ一大礁石アリ、呼テ「ソウヤ」岩ト云フナリ」、運上屋元ノ灣西南ニ面ス、遠浅ニシテ大舶

八十町外ノ海中ニ碇泊ス、運上屋元ヲ集匝セル山峻高ト云ヘキニ非レトモ甚平低ナル者ニ非ス、但シ樹木無ク盤延透進セル草山ナリ、北蝦夷ニ渡海スル津頭ナル故ニ人ノ通行輻湊多ク、人煙頗ル稠密ナリ、運上屋前ヨリ端船ニテ五町許沖ニ出テ、官人通行ノ為ニ設ル番船ナル者ニ乗組、巳午ヨリスル順風ニ乗シ針路ヲ亥子ニ指シ、程ナク洋中ニ帆出ツ、但シ天気晴朗ノ日ニ非スシテ、回顧スレハ本蝦夷地ノ山既ニ茫茫見失フ、而シテ北蝦夷ノ山見ヘサルハ勿論ニシテ、四方八面大海万里天水一色ノ光景ナリ、辰下刻「ソウヤ」ヲ発シ、順風ニテ既ニ未中刻ニモ及ヒシ故ニ、北蝦夷地ニ近キハ必定ト舟師頗ニ劳心スレトモ、煙霧深ク濛濛天氣ニシテ更ニ目ニ触ル者無シ、既ニシテ偶僅カニ天晴レシニ、「シラヌシ」ノ「ノトロ」岬ニ里許ノ前面ニ見ハル、舟中喜ヒ限り無シ「欄外 再檢スルニ舟首ニ見得タル者、「ノトロ」岬ト思ヒシハ全ク霧晴レサル故ニ舟子ノ看誤リタルナラン、「シラヌシ」ノ西北五里ニシテ「シヨウニ」ノ大岬ナル者アリ、実ハ舟此沖ニ来居テ霧中ニ此ヲ見

テ「ノトロ」岬ト誤認シテ、暗礁ヲ避等ノ事モアリテ益々舟ヲ西北ニ帆走セシメタル故ニ、愈以テ西浦深ク落船セシモノト思ハル、ナリ」、然ルニ午前ヨリ風烈シク波濤ノ高キコト言語ニ絶シ只故障無く着船ヲ祈シニ、風益猛暴ニシテ「シラヌシ」ノ沖暗礁多キヲ避ケントセシ内ニ遂ニ風浪ニ吹流サレ、「シラヌシ」ヲ背後トナシ瞬間ニ北蝦夷ノ西浦ニ漂流ス、大洋面ニ非ルヲ幸ト岸ニ近ツキ上陸セント欲スレトモ波高クシテ平磯ニ近ツクベカラス、又舟師此辺ニ於テ碇泊スヘキ灣港ノ有無ヲ弁セス、彼此スル内ニ夜ニ入タリ、然ル上ハ只西浦ノ岸ヲ遠ク離レス、風ニ任セテ北行セハ、「スメレンクル」地方ニ至ルノ外ナシ、其内ニ天明ニ及ハ、繫泊スヘキ地ヲ得ヘシト決定シ、暗礁ニ行当ラサル様勞苦スルト、風ノ変シテ再ヒ大洋ニ出シコトヲ畏ルノミ、既ニシテ天明渡レハ、北蝦夷西浦「エンルモコマフ」ノ南三里許ノ処ナリ、風稍静穩ニシテ舟中大ニ意氣ヲ生ス、此辺別ニ碇泊ノ地ナク「シラヌシ」ニ引返ス事勿論難ク、因テ「エンルモコマフ」ヲ指シ、風微舟遅ク漸ク已上刻ニ

着船上陸ス、「エンルモコマフ」ハ北蝦夷地西浦ヲ総括セル大番屋アル処ニシテ、「シラヌシ」ヨリ北奥三十四里ト云、舟中ヨリ目撃スル地勢ハ僅カニ朝来経過スル三里許ノミ、何レ再過スル地ナル故ニ其節審視スヘシトテ疲倦困臥シテ打過キタリ

境界 「ソウヤ」領西海岸「テシオ」境「エキコマナイ」迄十三里三町余、北海岸「シヤリ」境「モイワ」迄六十六里十三町ノ由ナレハ、通計七十九里半許ナリ、又「リイシリ」^{レフンシリ}ニ島並ニ「ソウヤ」領トス、「リイシリ」^{レフンシリ}周廻十八里^{或ハ云、十三里}、「レフンシリ」周廻二十一里^{或ハ云、十四里}、何レモ「ソウヤ」ノ西南十五六里外ニ在リ、但シ「レフンシリ」ハ「リイシリ」ノ西北ニ在テ一里余遠キ由、本蝦夷地ノ海岸ヨリ距離最モ近キハ「バツカイ」ト称ス、「バツカイ」ヨリ通航スレハ「リイシリ」ヘ七里、「バツカイ」ノ申位ニ在リ、「レフンシリ」ヘ八里、「バツカイ」ノ成位ニ在リ、「ソウヤ」運上屋元ノ家作ハ官廨一棟^{調役下役元締一人・下役一人及同心・足輕ナリ、此余同心・足輕北海、}岸「モンベツ」詰・「エサシ」詰アル由ナリ、医者一人此内ニ附

住ス、秋田藩人屯營一構 人数大抵七八十人來詰ル、由、今年ハ未夕着セス 通行家二

五月十三日晴晚二靄霧四塞咫尺不弁 同所滞行

棟・運上屋一棟・板倉十棟アル也、砲台一ヶ所、大砲六座、而シテ火薬倉一棟、「ソウヤ」背後ノ山間ニ在リ

氣候 朝四十七度、夕四十六度

戸口 住夷運上屋元凡ソ二十一戸、「リイシリ」漁場十ヶ

五月十四日晴 「モコマフ」出帆「トコンホ」止宿、

所、住夷七八戸、「レフンシリ」漁場四ヶ所、住夷四戸

海路十一里余

風俗 「ソウヤ」運上屋元、婦俗ノ夷多キ由、比々目ニ触

氣候 朝四十九度、夕四十七度、晚東風起雨暴至

ルナリ

五月十五日陰東風猛烈 同所滞留

唐太島ノ事ハ別ニ録ス、今落船ニテ「エンルモコマフ」

氣候 朝四十八度、夕四十六度 水性、流水風袋共百七十

へ漂着ノ事故、従是白主ニ至リ、白主ヨリ東西海岸巡検

一匁五分

ノ事ヲ記スルナレハ、此ヨリ白主へ至ルノ間、唯月日・

氣候・休泊ノ処ヲ記スル也

五月十六日晴 「トコンホ」出帆昼夜舟行、翌早白主

ニ達ス

五月十二日晴夜月色朗澄 如前記「モコマフ」へ着船

氣候 朝四十三度、是日海路凡ソ廿二里余

止宿

氣候 未刻五十九度 水性、流水風袋共百七十一匁

観国録 (三)

地勢 記、山海形勢・川原湖沼・道路灣港等

境界 記、税舖所轄疆界・漁場并所謂運上屋・番屋・通行家及官廨吏員・藩衛炮台等

戸口 記、夷人戸口、附録、内地人別開漁場所謂出稼者

風俗 記、夷人習俗情状及其衣食居宅倉庫等

物産 記、草木・鳥獸・虫魚・金石・海草等

土質 記、壤塊砂磧燥湿肥瘠及水利通塞可施開墾与否

附録、水性清濁輕重

氣候 別、有測器就以知寒暖度数乃記之

五月十七日 朝「シラヌシ」着船、是日同所滞留

地勢 白奴志会所元ノ形勢、西南面ニシテ海ニ臨ミ、右ニ

僅カナル一岬 地名「オシフトチンネ」ト云由ニモ聞ケトモイマタ慥ナラス、再過ヲ期ス 左ニ「ノト

ロ」岬洋面ニ甚斗出セルヲ以テ一灣港ヲ為セリ、サレトモ

実ハ港譽ト為スヘキ程ノ佳地ニ非ス、「ソウヤ」ヨリシテ

北蝦夷地ニ渡海スルニ此地ヨリ近キ者ナキ故ニ旧来此ヲ航
船ノ馬頭ト定メアルノミ、灣中暗礁多ク、且前面少シク左
ニ於テ危礁乱横シテ海中ニ一長堤ヲ築タル如ク、是故ニ渡
来ノ船着入ノ時、舟路精熟ノ者ニ非レハ過誤無キ事ヲ免レ
サル由、又甚シキ遠浅ニハ非レトモ、弁才船ハ遠沖ニ碇泊
スル地ナリ、会所及ヒ夷家等ハ浜磯ニ在テ其地狹隘ナレト
モ、背後平低ノ岡陵ニシテ地面曠豁村落ヲ為スヘキ形勢ナ
リ、此岡陵盤亘セル外ハ連山周匝繚繞セリ、但皆草山ナリ
境界 北蝦夷地ハ一円ニ伊達林右衛門・栖原六右衛門ノ請
負ニテ東西兩岸一場所ナレハ、別ニ税舖ハ領界ト云者無シ、
サレトモ其内ニ自ラ部分アルハ、「クシユンコタン」「シラ
ヌシ」「エンルモコマフ」「エンルモコマフ」ノ番屋ハ「トシナ
イ」ヨリ移セシ者故ニ旧地名ヲ唱テ
「トシナイ」
トモ云ナリ 三地ヲ三場所ト称シ、東海岸ハ「クシユンコタ
ン」ニテ支配シ、西海岸ハ「エンルモコマフ」ニテ支配ス、
而シテ「シラヌシ」ハ専ラ渡海官務ノ事ヲ職掌トシ、漁場
ヲ管轄スル事無シ、而シテ「クシユンコタン」ヲ運上屋ト
唱へ、「シラヌシ」ヲ会所ト唱へ、「エンルモコマフ」ハ

大番屋ト称シ、又「シラヌシ」ノ出張会所トモ云西海岸漁場ノ事ハ、「エンルモコマフ」ニテ総括スレトモ、官務ニ関係、其詰リハ「クシユンコタン」ヲ以テ三場所ノ首府トス、故ニ税舗ノ支配人ト称スル者ハ「クシユンコタン」ニ居テ、「シラヌシ」「エンルモコマフ」ニ居ル者ハ支配人代ト称ス、偕又官吏詰合ハ調役並ノ者二人此全島ヲ統治シ、一人ハ「クシユンコタン」ニ居リ、一人ハ「シラヌシ」ニ居ル、調役下役三人アリテ三場所ニ一人宛居ル、其他同心・足輕等ソレ々ノ附屬ス、藩衛ハ秋田藩士来リテ警衛ス、但シ元地「マシケ」ヲ以テ元陣屋トシ、「クシユンコタン」「シラヌシ」ヘハ夏中来居ルノミ、今年ハ未タ渡海ナシ、其陣屋会所背後ノ岡上ニ在リ、砲台ハイマタ備ハラス

戸口 会所左右ニ在ル夷家都テ十戸許アリ、北蝦夷地ノ夷人、旧来由緒アリテ五人衆ト唱ル者アリ、其家ハ第一「シラヌシ」ノ「オケラ」、「クシユンコタン」ノ「ベンクロウ」、「エンルモコマフ」ノ「テツポウ」、「シラヌシ」ノ「サトルキ」、「ナヨロ」ノ「シトクラレ」ナリ今日会所ヘ「オケラ」ヲ

呼テ一面セシニ、年齢四十五六歳ト見ユ、煙草針糸等ヲ与テ返ス

風俗 夷人習俗元地ニ同シト雖モ亦少シ異様ノ事モアル也、人氣元地ニ比スレハ稍々豪強凜然タル処アル由、衣服元地ノ如ク「アツシ」ヲ着スレトモ、「ヨタラツペ」ト称スル草ヲ以テ織リ衣トナシ服スル者亦多シ、「ヨタラツペ」ノ地合「アツシ」ニ比スレハ工緻ニシテ頗ル上品ナリ、又犬皮ヲ着服スル者多シ、履ハ水豹皮ヲ以テ作ル、「ケリ」ト称ス水豹ノ「ケリ」ハ元地、ニモ用ユル処アルナリ、煙草ヲ納ル器山丹製ノ皮ニ作リタルヲ腰ニ提ル者多シ、女夷モ耳環ノ外ニ山丹渡来ノ青玉等ヲ數個連ネ數珠ノ如クシ、頸ヨリ胸前ニ垂下セル者多ク、且所謂「マギリ」ト云フ小刀二個ヲ右刃尻臀ニ垂下ス、而シテ口吻ニハ黥スレトモ手腕ニハ其事無ニ似タリ元地ノ女夷ハ既ニ嫁スル者ハ、必手腕ニモ黥ス、且又婦俗ノ夷モ往々アリ、聞クニ近来役夷人ノ役名改マリ、総乙名ヲ庄屋、脇乙名ヲ総名主、総小使ヲ総年寄トシ、上下着用ノ免許アリ、乙名ヲ名主、小使ヲ年寄、土産取ヲ百姓代ト改メニナリ、此等ハ袴羽織ヲ着用ノ免許アリシ由、此余種々ノ事追々檢索センコトヲ期ス

物産 「シラヌシ」漁利ナキコトハ上文ニ云フ如シ、昆布・海苔等アレトモ旧来未タ手ヲ下サス

土質 会所元ハ沙地ナレトモ、山腹ニ升ラハ好佳ノ土質ニモアランカ、畦蔬等モ僅カニアレトモ煙霧深キ地故ニ、ソレカ為ニ損害スル者亦多キ由

氣候 午時五十度、此地煙霧深ク咫尺ヲ弁セ又事平常然ル由、今日天氣晴朗ナリシニ、聞ク、如此ノ牢晴ハ一月ニ二三日モアルヘキカ、其他濛々暗黒ノ日ノミナル由、又聞ク、後山ニ桜樹アレトモ花未タ満開ニ至ラス、本月二日ハ積雪二三寸ニ及タル由、又聞、嚴冬ニハ海水凍合スレトモ沖合二三里マテノ間ノミ、他ノ氷ノ海面ニ流ル、者尤人眼ヲ驚ス由此氷洋中ヲ流ルヲ見レハ、山島ノ洋中ニ沸出セル如シ、其巨大ノ氷ハ二三里モ連続スル故ニ、寒中渡海ノ絶スル所以ハ止ムコトヲ得サル由ナリ

五月十八日晴 「シラヌシ」出帆「リヤトマリ」投宿、行程十里

地勢 会所前ヨリ登船、針路東南ヲ指シ一里余ニシテ「ノトロ」岬ニ至ル、此岬北蝦夷南端ノ極ニシテ海面ニ斗出ス

ルコト最甚シキ者ナリ、既ニ「ノトロ」ヲ廻レハ針路東北ニ指ス、行殆四里ニシテ「ヒシヤサン」岬ニ至ル、又一里半許ニシテ小岬ヲ得ル、地名ヲ「ノブル」ト云 「シラヌシ」「クシユンコタン」ニ赴ク者、海浜ヲ歩シ此岬ニ至、ヨリ陸行シテ 「シラヌシ」リ、海浜通行スヘカラス、岬背ヲ山越スル由ナリ、又一里半許ニシテ一溪沢ヲ得ル「コンフイ」ト云、鱒魚ノ漁場ナリ、

ソレヨリ一里ニシテ「リヤトマリ」ニ至リ上陸シテ番屋ニ止宿ス、今日天氣不可ナルニ非レトモ「シラヌシ」ノ辺ハ陰霧濛塞スルコト平常ノ由ニテ、「ノトロ」岬ヲ廻リ過クルマテハ冥然トシテ咫尺ヲ弁セス、沖ニ一小岩礁ノ海馬島ト称スル者アル由ナレトモ、勿論陰翳ノ為メニ目撃スルコトヲ得ス、「ノトロ」以北稍々霧開ケ重疊セル連山ヲ看過ス、皆椴木立ノ山ナリ、往々密樹森々タル者ヲ見ル、然レトモ高峯峻嶺ハ更ニ目ニ触レス

戸口 「シラヌシ」以後無人ノ境ニシテ、「コンフイ」ニ至リ始テ漁場二三家ヲ得タリ

風俗 前日記スル所ノ遺漏ヲ補フ、「シラヌシ」女夷耳環ニ青玉ヲ懸クル、勿論山丹渡来ノ品ナルニ、又腰帶二皮ヲ

用ヒ皮ニ真鍮ナトヲ以テ模様ヲ縫付タルヲ着スル者比々トアリシ由 召連シ僕従目撃シテ、如此二話スルナリ 此亦山丹ノ品ナル由ナリ

物産 北蝦夷地ノ夷人、犬ヲ畜フコト元蝦夷地ヨリ甚シ、且ツ犬元地ニ比スレハ一等巨大ナリ、偕又近来「ソウヤ」ヨリ馬五匹ヲ渡シ、白奴志ニ二匹、久春古丹ニ三匹分チ飼ヒアル由トカ、「シラヌシ」ニテ此二匹ヲ目撃セリ、今日船中ニテ水鳥「シカンベ」「ピーロ」ヲ見ル、「シカンベ」ハ白鳥ニシテ黄喙大サ鶯ニ勝レリ、「ピーロ」ハ鼠色ニシテ喙足赤ク大サ鳩ノ如シ

氣候 「シラヌシ」会所ニテ平常飲料トスル水ハ溪間ヨリ流レヲ笕ニテ引ク者ナリ、然ルニ寒中トイヘトモ此水ノミハ凍合セサル由、此ヲ以テ視レハ寒甚シトイヘトモ亦其程ノ知ルヘキ所モアル也、然レトモ旧来内地人ノ来テ越年スル事ナキニ、昨年始テ此事アリテ、「クシユンコタン」「シラヌシ」両場所ニテ官吏 調役下役内藤滿太郎・府馬平兵衛・同心龍崎某妻・細田某厄介・小林某兒・倉内某妻及兒・足輕何レモ冬中寒氣ヲ受ケ春暖ヲ得テ発病、腫氣ヲ生スル者 江沢門四郎兒 及ヒ番人等ノ死亡 十五人許ノ由、土庶総テ百人以下ノ越年二十五人同病ニ亡

失スルハ亦少シトスベカラス、但シ秋田藩士「マシケ」ニ越年、上下二百人許ノ内ニテ八十人ノ死亡アルニ比スレハ僅ナリト云ヘシ、然レトモ解スヘカラサルハ、「マシケ」元地ニ在テ秋田藩人如此ニ死亡スレトモ、此外ニ於テ官吏及番人ノ比々死亡アルコトイマタ聞及ハサル也、是夜亥刻四十九度

雑事 前卷ニ記セシ「ソウヤ」乗船渡海ノ節ハ、今般官命アリテ「タライカ」地方ニ遣ハサル、栗山太平 御雇同心ナト云フ身分カト思 及ヒ越前大野ノ藩士早川弥五左衛門ト云者ト同船シ、「エンルモコマフ」に落船ノ後、弥五左衛門ハ西海岸奥地ニ赴ク、我力連中ハ太平ト同船シテ「シラヌシ」ニ着シ、見レハ佐倉侯ノ衆去ル十四日「ソウヤ」ヨリ「シラヌシ」ニ渡海シ滞留セリ、又此節「シラヌシ」詰ノ調役下役鹿兒島立三ト云者「クシユンコタン」ニ移住ノ為メ登行アル由ニテ、今日「シラヌシ」出立ハ右ノ鹿兒島立三及ヒ栗山太平并ニ足輕石島清助ト云者、且ツ佐倉侯ノ衆ト皆同船也

五月十九日晴 「リヤトマリ」出帆「クシユンコタン」

投宿、海路十六里

地勢 「リヤトマリ」番屋元ノ形勢、平岡脊稍平地トナル
 処ニ有リテ左右ニ谷間アリ、右ノ方稍広ク中三四十間奥へ
 折曲リテ一二町モ入ルヘシ、其ヲ隔テ山岡ノ端平地トナル、
 左ハ小山近ク逼リ小溪一条ヲ隔テ小高キ山アリ、右ノ岡端
 ト相對シテ中間數町ノ平地ヲナセリ、而シテ海浜ハ平磯ニ
 シテ砂地ナリ、右ノ方岡ヲ背ニシテ海浜ニ夷數戸アリ、左
 ノ山麓ニ漁場アリテ灣ハ辰巳ニ向ナリ、灣形ハ海濱ノ礁石
 平布シテ左右海中ニ走出スルコト一丁余、而シテ中間一條
 ノ潮路船ヲ入ルヘキ間アリテ海水深ク碇船ニ可ナル処ナリ、
 此灣ヲ出船シ岩岬ヲ廻リ 此岬ハ「リヤトマリ」ノ岬ナリ 鍼路ヲ子丑ニ取テ
 帆スルコト一里許、「ホンベソウ」ト云沢アリ漁場也、此
 海浜ヲ望ムニ山皆平低ニシテ楸林鬱々トシテ、海ニ臨ム処
 ハ平岡堤ノ如ク青草萋々タリ、二里許岡尽テ大沢ヲ得タリ、
 「フルエ」ト云漁場アリ、又岡トナル、是ヨリ断岸赤壁ノ
 浜一里余、岡尽キ山遠ク打開ケタル一大平地アリ、楸林森

列ス、「トマリヲンナイ」ト云、番屋・漁屋・夷家モ見ヘ
 タリ、鍼ヲ丑寅ニ指シテ行一里許、海岸又赤壁連亘シテ五
 里許ニテ稍平坦ナル大沢アリ、番屋・漁廠・夷家モアリ、
 「ウルウ」ト云、船此洋中ニ至ル此風止ム、故ニ此処ニ泊
 セント欲ス、然ルニ俄ニ未申ノ風起リタレハ、又帆ヲ揚ケ
 再ヒ洋中ニ出テ鍼ヲ丑寅ニ指シ「クシユンコタン」ニ向テ
 帆ス、船疾キコト箭ノ如シ、洋中羅針ヲ以テ方位ヲ見ルニ
 「ウルウ」ハ亥ニアタリ、夫ヨリ三四里ノ処ノ出岬「ホロ
 ナイ」ト云フハ子ニ当リ、其次六七里所ノ出岬「ルウタ
 カ」ト云フ、子丑ニ当ル、其岬ヨリ先ハ靄霧ニ隠レテ見ル
 コトヲ得ス、舟人云フ、此ヨリ「ノトロ」岬ハ未申ニ、「シ
 レトコ」ハ辰巳ニ、「クシユンコタン」ハ丑寅ニ、「ルウ
 タカ」ハ子ニ当ル、扱灣底ニ付キ廻リ陸行スレハ「クシユ
 ンコタン」迄拾六里許、直行スルトキハ海上纔ニ七里許ニ
 不過ト、而シテ海霧次第ニ深ク船冥濛ノ中ヲ行ク、咫尺ヲ
 弁セス、晚ニ「クシユンコタン」ニ達シ運上屋ニ止宿ス
 戸口 「リヤトマリ」夷家十一軒アリ、「トマリヲンナ

イ「ルウタカ」ニテ一二戸ヲ見掛タリ、「ホンヘソウ」
 「フルエ」「トマリヲナイ」「ウルウ」等皆漁場ニテ漁
 小屋ヲ見受ケタレトモ、都テ洋中遠望ノコト故詳カニスル
 コトヲ不得

物産 「リヤトマリ」ヨリ「クシユンコタン」ニ至ル海浜、
 処々漁事小異同アリト雖モ慨スルニ当時皆鯉盛ニシテ、
 其外「カスベ」「ホツケ」「油子」「比目魚」ノ類追々鱒鱒
 漁多シト云フ、草木、楸・夷松多ク見ヘタリ、草「リヤ
 トマリ」ニテ「ヨタラツペ」ト云モノヲ見ル 関東ニテ蜂草
ト云フモノニ
似タリ、即蕁麻ト云フ、所謂カラムシナリト云へ、
リ、夷人製シテ糸トナシ布ヲ織リ服トナス由ナリ 「白芷」「羌
 活」「サク」「コシヤク」・玫瑰・木賊・款冬多シ

土質 「リヤトマリ」白黄色ノ粘土ニテ雑草茂生スレハ、
 開墾シテ雑穀ヲ種植スルニハ良土ト思ハル、水性ハ山間ノ
 谿水ヲ筧ニテ引テ用ユ、清冽ニシテ稍甘シ、「シラヌシ」
 「クシユンコタン」ヨリ一等佳ナリト云ヘリ

氣候 未刻五十二度、「リヤトマリ」ハ「ノトロ」岬ト
 「シレトコ」岬トノ大湾中ノ西海浜ニアリテ、「ノフル」

岬「リヤトマリ」岬ノ小湾ヲナシテ、此「リヤトマリ」岬
 ハ辰巳ニ斗出シタル故湾口ハ南差西ニ向キタル故、「シラ
 ヌシ」「クシユンコタン」ヨリ較温暖ノ土地ニシテ、「シラ
 ヌシ」越年ノ番人等ハ皆此ニ至テ越年スル由、夷人モ
 往々爰に移住スルモノアリト云ヘリ

五月廿日晴夜雨 クシユンコタン滞留

地勢 運上屋元ノ形勢、湾港申ニ正面シ左右平岡ヲ帯ヒ、
 中間平地東西ニ長ク南北ニ短ク、丘陵三面ヲ繚繞シテ数里
 ノ間平々山ヲ見ス、豁然タル地ニシテ好港ト云ヘシ、運上
 屋ハ右ノ小岡腹ニ就テト居シ巳午ニ面ス、其岡脊ヲ越テ三
 町許所ヲ「ハツコトマリ」ト云、其北ノ岡ノ出岬ト「クシ
 ユンコタン」ノ南岡ノ出岬ト相對シテ一小湾ヲナシ、兩所
 ノマカ、リト為ス、海岸平磯ノ小砂利ニシテ海底ハ泥土ナ
 リ、遠浅ニテ汐干ル時ハ半町余モ干潟トナル、然レトモ運
 上屋前ハ番船ナレハ浜汀マテ着キ、弁才船ハ一町余ノ沖ニ
 繋ル也、故ニ此所計ニテハ左マテノ好港トモ云カタシ、大

形勢ヲ以テ見レハ西ノ方「ノトロ」岬、東の方「シレトコ」岬ト相對峙シ、而シテ北ノ方灣底ヲ「シユクヤ」トナス「クシユンコタン」、西三四里処ニアリ、「ノトロ」ヨリ「シユクヤ」迄二十里余、「シユクヤ」ヨリ東「シレトコ」迄三十里余「シレトコ」ハ南方へ、両岬相距ル二十里許ニシテ灣底ニ至斗出シタル大岬ナリ、西「ノトロ」岬ハ短ク東「シレトコ」岬ハ長ク指シ出タレハ、灣形鰐魚ノ口ヲ張タルカ如シ、奥深ケレトモ又出入ニ便ナリ、灣中東西沿海洋人アニハ灣ト稱シテ垂涎スルモ亦所以アリト云、灣中東西沿海丘陵岬灣相連接シ、漁業繁盛ナルカ故ニ好港ト稱スルナリ、
 「ハツコトマリ」ハ北ノ方小岡ヲ隔テ灣ヲ同フシタル漁場ニテ、平地甚広カラス、岡丘三面ヲ擁シテ未申ニ面スル地ナリ、畢竟ハ「クシユンコタン」ト押並テ一様ノ形勢ナルニ、中間小岡脊障隔ヲナス故ニ別地トナスニ似タリ
 境界 「シラヌシ」ノ条下ニ詳記ス、漁場ハ此灣中西方「リヤトマリ」「ウルウ」「ルウタカ」「ヒラロンナイ」「シユクヤ」「ウシユンナイ」「ウンラ」等アリ、東方ハ「ホロアントマリ」「ヲフィットマリ」「チベシヤニ」等數十

ヶ所アリ、各番屋ヲ置ト云、「クシユンコタン」運上屋元ヨリ北差東岡ニ傍テ入ルコト一町余ニ、私領ノ時ノ勤番所一棟アリ、今ハ官吏ノ役宅トナス、詰合ハ調役一人・下役一人・同心一人・足輕二人附属ス、藩衛ハ秋田藩士来テ守衛スルコト前日記スル如シ、營所ハ南岡ノ谷間方一町許ノ所、新ニ鑿開シテ營柵ヲ立タリ、砲台ハ運上屋ノ背後岡上海ニ臨ム所ニ在リテ、砲煩器械ハ未タ備ハラズ
 戸口 蝦夷屋廿余戸、運上屋ノ左右ニ散在住居ス、此地内地人ノ出稼ナク、漁場トイヘハ皆土人ノ遠方ヨリ来テ稼スル者ノミ、此「クシユンコタン」ニ来ルモノ三百人許ト云、
 前文記スル処ノ漁場ニ出稼スルモノ千余人アリト云ヘリ
 風俗 既ニ前日記スル処ノ如シ、唯魚皮ヲ縫合シテ服スルモノヲ見ル、女夷ニ多シ、魚ハ「イトウ」「サケ」魚ノ皮ヲ多分ニ用フ、外何魚ノ皮ニテモ用フル由、運上屋背後ノ岡上一町所ニ土室アリ、嚴冬ノ寒氣ヲ避ル為ノ者、其製作林蔵ノ北蝦夷図說中載スル処ノ如シ、只土人ノミナラス
 「欄外 「クシユンコタン」ノ役夷人卅一人等ト帰俗シ、

外平土人三人同断、皆日本ノ名ニ改メタル由、此地越年ノ番人モ亦穴居スル由ニテ同所ニテ見受ケタリ、昼ハ運上屋ニ出テ仕事ニカ、リ、夕方ヨリ此室ニ入テ夜寒ヲ陵キ睡ルコトヲ得、常ノ家ニテハ火ヲ焚詰ルトイヘトモ終夜寝ルコトヲ得サルコト多シト云ヘリ

物産 鯡・鱈・比目魚・鱒・其他雑魚、秋ニ至リテハ鰯アリト云フ、昆布ノ浜ニ打上ケタルヲ見ル、椴木・蝦夷松・フンコ・楊柳等岡原上ニ密林ヲナス、奇鳥アリ「キトチリフ」ト云、形雀ヨリ小シ大細長ク、腹翼赤色、尾薄赤、背黒キ様ニ見受タリ、鶯ト杜鵑ノ啼声ヲ合セテ囀スル如キ鳴声昼夜不絶

土質 小石交ノ白色、薄赤キ様ナル土ナレトモ少シ粘リアルモノニテ、雑穀・野菜ノ畑地ニハ良土ト思ハル、運上屋ノ東ノ岡ニ纒ナル畑地ヲ作りタルヲ見タリ、水性、平地ノ沸水清冽ナレトモ一升ノ重サ五百九匁 此水東ノ岡下平地ニ湧出スル泉ニテ、嚴冬水雪ノ中トイヘトモ凍ルコト更ニナク、土人・番人穴居ノ節トイヘ共之レヲ汲ンテ差支ナク、渴ニ及ハスト云フ、行テ見シニ二三尺四方ノ溜池、深サ一尺余アルヘシ、清澈鏡ノ如ク、嘗ルニ味甘シ、汲テ不尽、酷寒凍ラス、実ニ靈水ト云フヘシ、覆屋アリ

氣候 未刻五十五度、此地未夕桜花ヲ開カス

五月廿一日曇午後微雨 同所滞留

氣候 未刻五十三度

五月廿二日曇夕雨入梅 同所逗留

氣候 未刻五十五度

五月廿三日陰夜大雨 同所滞行、西方ウンラヲ一見ス当所西ノ方海浜ヲ蛇行スルコト一里許ニシテ「ウンラ」ト云所ニ至ル、岡陵開ケ奥深キ大沢ニシテ左右ノ岡海ニ張出シ一湾ヲナス、大漁場也、番屋一軒夷家四五軒アリ、漁廠并土人出稼小屋等見タリ、鯡魚既ニ畢リテ漁場寂寞タリ、北ノ方ニ入二町許小高キ処雑草茂生ス、土質赤黒色、粘土肥沃ノ地ナラント思ハル、此処先年魯夷人開墾シ、菜蕪・胡蘿蔔等植シ処ナリト云フ、夫ヨリ浜辺ニ出山根ヲ廻リテ四五町行、又一湾ヲナシタル沢ニ出、平磯ニテ遠浅ナリ、

「ウンラ」ニ比スレハ小狭ナリ、三面丘陵周匝シテ椴木林ヲナシ、北ノ山際小高キ処ニ番屋ヲ置ク、漁事既ニ畢リ出稼モ居ラス、唯夷家二三戸住居スルノミ、此ヨリ北ニ灣入スルコト二里許ニシテ此大灣ノ灣底ナル「シユノ、ヤ」ニ至ルベシ、行テ不見、聞ク、其処潮水停滞、流波静緩ナルカ故ニ海邊一里許泥海ニシテ干潟多シト、前面樹林鬱々タルヲ見、「ルウタカ」ナリト云フ

氣候五十五度

五月廿四日快晴 同所滞行、南方巡視纒安泊

運上屋ヨリ南ノ方海浜ニ循ヒ蛇行シ、小岬ヲ三個打過キ廿余町ニシテ大沢ニ出ツ、即「ホロアントマリ」ト云漁場ニシテ漁業ノ繁盛当島第一ト云ヘリ、左右ノ岡端海ニ斗出シ両袖ノ如ク一大灣ヲシ、左右ノ岡東ニ延ヒテ漸々平低シ、相逢フ処ノ中間一岡アリテ弥縫ス、皆椴林鬱々タリ、其中間ノ平地長短断補セハ凡十町余ト思ハル、灣ハ正西ニ向ヒ番屋ハ南岡ノ中腹ニ在テ戌亥ニ面ス、眺望甚佳、「ルウタ

カ」ヨリ「ノトロ」ノ岬ニ至ル西方対面一望ノ中ニ瞭然タリ、「ルウタカ」ハ亥ニ当リ、「ノトロ」ハ未ニアタル、二十余里ノ間一帯長堤ノ如ク、山巒トオボシク目ニ遮ル者ナシ、番屋ノ近傍夷家八九戸見ヘタリ、漁廠及夷人ノ出稼小屋アレトモ春漁事既ニ済タレハ土人モ少ナク漁場寂寞ニタヘス、郷道ノ番人ニ土人ヲ呼セタルニ男女老少四五人モ来レリ、番人通詞シテ一二事ヲ尋ネ、煙草・糸針ヲ与ヘテ帰ス、旅況ヲ慰メタリ、叔昨「ウンラ」ニ行キ今日此ニ来リ、地形ヲ察スルニ、共ニ大漁場ニシテ元蝦西地ノ盛場ニ劣ラサル者ナレトモ、平地ハ沮洳陰湿ニシテ高キ処ハ岡陵崛起ス、平坦地ハ少ナシ、唯「クシユンコタン」ハ高陽ノ地ニシテ豁然タル形勢ナリ、宜ナルカナ「クシユンコタン」ヲ以首府トナスコトヲ、若此地モ溝洫ヲ鑿開シ水道ヲ通利シ、草莽ヲ刈除シ材木ヲ斬伐シ新道ヲ陸地ニ開キ、以テ開墾ヲナサハ必好村落ヲナスヘキ処ナリ

氣候 未刻五十七度

五月廿五日晴 同所逗留

氣候 未刻五十六度 但滞留中寒暖測、時刻未刻ニ限ル者
八日中最暖ナル時ニシテ測レハ也

五月廿六日晴午後曇晚際疎雨 「クシユンコタン」出

立キムンナイ野宿、行程八里許

ベケレ モアンナイ ホンキヲトルシナイ ケニウシナイ
地形 早ニ運上屋ヲ出テ東行シ、二三丁ニシテ其背後ノ岡
ニ上ル、漸ク爪先上リニシテ高丘密林中ヲ行クコト一里許
ニテ忽チ開朗ノ高原ニ出ツ、「ベケレ」ト称ス、南ハ「シ
レトコ」岬ヨリ西十里所ニ在ル「ヤワンベツ」山遠樹ノ杪
ニ表見シ、西北ニハ海湾ヲ隔テ「シユクヤ」辺ヨリ「ノ
トロ」岬ニ至ルノ諸山ヲ望ム、此山中ハ目ノ際リ平巒鬱林
等ニテ山ト称ス可キ者ナシ、唯東方四里外ニ「ヲテ、ネ」
山アリ、僅カニ採録ニ堪ユ可キ耳、之ヲ以テモ此山越ノ道
路平易ナルヲ知ルヘシ、十余丁ニテ原尽キ亦密林ニ入ル、
是ヨリ以往道途ノ高低林樹ノ疎密各齊シカラサレトモ、概

スルニ一円ノ木立原ナリ、又二小岡ヲ踰ヘ一小沢小川アリ、
「モアンナイ」ト名ツク、「モアン」ハ支流ノ夷語、此流
ハ「ホロアントマリ」河源ノ支脈ナル由、此所ニテ午餉シ、
又坂ニ上リ林樾ヲ穿チ二三岡ヲ度リ小溪細流アリ、「ホン
キヲルシナイ」ト名ツク、此辺迄ハ五六日以前ヨリ沿路ノ
林樹ヲ誅夷シ、道途新開ニ取掛レリ、此先キハ土人往来ノ
便ナルユヘ、其林莽ヲ穿ツニ当リ横枝戻根衣ヲ鉤シ趾ヲ障
ヘテ行歩頗ル艱難ナリ、夫ヨリ阪ヲ下リ「ケニウシナイ」
細流ナリ、又一岡ニ登ル、左ニ「シユクヤ」山中ノ「ホ
ロノホリ」、右ニ先刻見シ所ノ「ヲテ、ネ」山ヲ揖ス、夫
ヨリ上下シテ最高所ニ至ル、東南ニ「トンナイチャ」ノ小
沼ヲ望ム、其末連山ヲ隔テ、東浦ノ海水茫茫タリ、背ニモ
「クシユンコタン」ノ海湾ヲ見ル、蓋シ此辺ノ高巒ナリ、
夫ヨリ或ハ開豁ノ原上或ハ陰鬱ノ林莽ヲ披イテ行クコト一
里半許ニテ峻阪ヲ下ル、一川アリ幅五六間、此川「ホロノ
ホリ」ニ発シテ「トンナイチャ」湖ニ委スト云フ、此所幅
員広豁ノ平沢ナリ、川側ニ沿フテ行クコト五六町、揚樹ノ

水西ニ偃臥シ自然ニ橋ヲナシタルモノヲ踰へ、岸上ノ差高キ所ニ仮小屋ヲ營シテ宿ス

物産 今日ノ山中楸・蝦夷松・落葉松・樺最多シ、又往々五葉松ヲ見ル、林下ニハ岩松ノ如キ苔多シ

氣候 夕五十四度

拾遺 此山道ヲ「オチヨボカ」越ト云フ、此道是迄ハ土人ノ往還ノミナリシカ、公裁以後官人兩三輩通行シ追々其便捷ナルヲ知り此次新開ヲ催セシト云フ、余輩ハ元ト「トンナイチャ」越ニテ東浦へ出ント欲セシカ、風波又ハ雨天等ニテ兎角滯留勝ユへ此山道ヲ取りシナリ、此外ニモ「シユくヤ」越トテ東浦へ出ル道アレトモ其便近ナラサルナリ

五月廿七日雨 キムンナイ滯留

地勢 「キムンナイ」ノ形勢ハ昨日記セシ如ク、西北隅ヨリ来リ「トンナイチャ」湖ニ落ル川筋ニテ、昨夜仮廠ヲ作り一宿セシ所ノ川ノ東北ニ町許ニシテ、僅カナル平地ニシテ四面ハ皆山ニテ周匝セリ、独リ西北隅ノ「キムンナイ」

川上流ノ方ノミ聊山ノ逼ラサルノミ

氣候 午時五十五度

附録 昨日記スル如ク「オチヨボカ」越ノ山道ハ「クシユンコタン」ヨリ東浦ニ出ル一要道路ナリ、但シ是迄平常通行スル者稀ナル故二十四五里間一点ノ人煙ナシ、何レ其間ニ休泊所ヲ取立ツヘキニ、幸ニ宛モ半分半途ノ処ニ於テ此地僅カナカラ平地ニシテ山陵ニ依リ清潔ノ澗水モアリ、行人ノ休憩ニ供スル最上ノ地ナリ、昨日晡前此処ニ着スルニ、荷物ヲ負荷運送シ来ル夷人等打寄り、此処ニ有合フ林木ヲ伐リ仮小屋ヲ即時ニ營作ス、其製ハ三四寸廻リノ木此処ノ林木大抵皆樺ヲ兩端ニ建テ此ヲ主トスル大柱トシ、此兩柱ニ架スル木即チ棟ニシテ、棟ヨリ左右両面へ椽木ヲ並へ、下低シテ地上ニ及フ、此ヲ葺クニ楸皮ヲ用フ、但シ今般ハ運上屋ヨリ持来リシ蓆席ナトヲ覆フテ済マシタリ、此内ニ薪ヲ燒テ暖ヲ取ル、誠ニ山中露宿ノ情態、同行生来始テノ事、奇談雅興ナリトテ毫モ不自由ヲ厭ハス、然ルニ今曉ヨリシテ雨天トナリ、仮廠中雨漏リ衣類等皆沾湿ス、驚起シテ種々

ト工夫シ僅カニ雨ヲ避得タリ、天明レハ速ニ出立「オチヨボカ」ニ赴カント思ヒシニ、此ノ雨ニテハ迎モ山中難路通行ナリ難シトテ番人郷導セス、夷人等モ荷物運送ノ情ナキ趣ナレハ止ムコトヲ得ス一日滞留ス、午後ハ天晴タレトモ「オチヨボカ」ニ赴ニハ既ニ時刻遅キ由ニテ出立ノ事終ニ果シ得ス

五月廿八日晴 「キムンナイ」出立「ウエンコタン」

止宿、行程十里許

地勢 「キムンナイ」仮小屋ヨリ背後ノ山ニ登リ北面シテ発行ス、一嶺ヲ踰下リテ一小流ヲ渡ル、「ニエセナイ」ト云元地ニテハ川ヲ「ベツ」ト云、沢ヲ「ナイ」ト云ヒシニ、「カラ、又フト」ニ来レハ川ヲ「ベツ」トモ云ヘトモ、亦多ク「ナイ」ト云一岡嶺上ニ登リ行ク、岡上ノ路一里余ニテ夷人木幣ヲ作り祭ル山頂ノ処アリ、地名「フンテエリ」ト云、又半里近ク行テ岡阪ヲ直下ス、下レハ一深谷ナリ、地名「モンヌカチエイウンナイ」ト云、又「メナケシモアン」トモ云、「モアン」ハ支川ト云フコトニシテ「メナケシ」川上流ノ支川

ト云義ナル由、此谷川深奥狭隘寒氣凜然トシテ氷ノ未タ解ケサルヲモ見タリ、既ニシテ溪流ヲ左ニシテ水ニ循ヒ、山ノ趾麓或ハ腹腰ナトヲ登降上下シテ北行ス、凡二里以上ニシテ「メナケシ」川ノ渡ニ至ル、川ハ左ヨリ来リ右ハ「トンナイ」湖ニ注ク者ノ由、川幅三間許川側ニテ午飯シ、ヤハリ北行一嶺ヲ攀チ又下リ、一澗流ヲ越テ又山嶺上ヲ行ク、屈曲上下数回変化詰リ密林山中ヲ過キ「フンキ」ト云ニ至ル、「フンキ」ハ地名ニアラス、草山ノ聊高聳セルヲ云フ由ナリ、此処ニテ右顧スレハ「トンナイチャ」湖「ラムトウ」湖眼下ニ在リテ風景言フヘキ様ナシ、羅針ヲ見ルニ「トンナイチャ」湖ヲ隔テ遙ニ高峻ノ山午位ニ在リ、此ヲ「ヤマンベツ」山トス、又卯位ニ当リテ「アイロツプ」岬アリ、「アイロツプ」「ヤマンベツ」南北相去ル二三十里許ナルベキカ、連綿諸山寂然波濤ノ如キナリ、サテ「フンキ」ヨリ北面シテ峻坂ヲ下リ、右折シテ一川ノ渡頭ニ至ル、此ヲ「オチヨボカ」川トス、川幅二十間許徒渉スルニ水殆ント股ニ及ヘリ、既ニ渡リ川ヲ右ニシ循テ四五町ニシテ海

浜ニ出ツ、即チ「オチヨボカ」ナリ、夷人「サツチエレーグ」ノ宅ニ小憩シ、此ヨリ左折西北面シテ海浜沙石ノ平磯ヲ行ク、回顧スレハ近キハ「トンナイチャ」岬、遠キハ「アイロツプ」岬ナリ、而シテ前面ニ見得ル長岬「シユマオコタン」ナル由ナリ、左平低ナル山崖ニ循ヒ行クニ、「イタ、クシナイ」「ホエイシヤルシナイ」ト云川ヲ経テ「ウエンエンルム」岬ヲ得ル、此岬稍海面ニ斗出セル様ナレハ羅針ヲ檢セシニ、前岬「シユマオコタン」亥ニ当リ後岬「トンナイチャ」寅ニ当リ、此岬ヲ廻レハ一小湾形ヲ成セル平沢ヲ得ル、此処沙川アリテ川幅四間許モアルヘク、此ヲ度リテ通行家ヲ得タリ、宿ヲ此ニ投ス、此処全体「コロニウシナイ」ト云由、定メテ川ノ名ナルヘシ、然レトモ其名ハ著レス、今皆稱シテ「ウエンコタン」ト云ナリ

附録 「クシユンコタン」出立路筋、佐倉侯ノ衆ト余等ト同様ナル故ニ、同日出立セハ宿所ニ不都合ナル事多キ由ナレハ、二日ヲ隔テ後レテ出立スル事ニ一旦決着シタレトモ、「チヘシヤニ」「トンナイチャ」湖ノ路筋ヲ梅天二二日モ

後レテ発行スルハイカニモ東西岸奥地ニ赴ク為メニ不便利ナルヘク、且ツ佐倉侯ノ衆既ニ「チヘシヤニ」「トンナイチャ」ニ路ヲ取レリ、余等ハ「オチヨボカ」越ヲスル事互ニ変化アリテ、地勢ニ於テ各見置クヘキ要路ナレハ終ニ如此ニ策ヲ改メ、「クシユンコタン」ヨリ郷導附添フ者、番人名ヲ永治・役夷人乙名「レイコロ」ト云者近来帰俗シテ役名、ト云フヲ名主ト云、名ヲ礼五郎ト改メラル、者ナリ

此二人ノ外ニ荷物・食料持運ノ夷人十一人附来ル、又役夷人「コロレ」ト云者、コレハ東浦ニ出テ舟ヲ得ル迄ノ荷才領トシテ附来ル、今日「オチヨボカ」ニ着シ早速ニ舟ノ有無ヲ糺シ、舟ヲ得ハ「コロレ」ヲ初メ食料・荷物運ヒノ者ヲ減シ「クシユンコタン」ニ還サント思ヒシニ、折節「ロレイ」地夷人「ランコロアイノ」人・「シユクシナイ」地夷人「キモソク」人・「ウエンコタン」地夷人「ツコニコチャセ」人、「ルウクシ」地ニ食料ノ魚ヲ積ミ込ミノ為メトテ打寄テ舟四艘ヲ以テ来リ、「オチヨボカ」ニ立寄居シニ逢フ、番人運上屋ノ命ヲ伝ヘ舟ヲ其俣出サシムル由ナル故ニ、強テ命セヌ様ニ指揮シ穩和ニ熟話セシム、終ニ

「ランコロアイノ」舟一隻ヲ以テ食料積込ニ往キ、「キモソク」「ツコニコチャセ」ハ運上屋ノ命ヲ奉シ舟三隻ヲ番人ニ渡ス、是ニ於テ荷物・食料・米等ヲ此舟ニ積ミ「ウエンコタン」ニ運送セシメ、余等・番人等ハ陸行シテ「ウエンコタン」ニ着ス

戸口 「オチヨホカ」ニ夷人ノ宅ニ軒アリテ、其一ハ午飯セシ「アツチエレグ」宅ナリ

風俗 夷人甚タ不器用ラシキ者ナレトモ、無造作ナル器械等ヲ作ル、案外巧者ナリ、今朝「キムンナイ」出立ノ時見レハ、昨日同所逗留中夷人樺皮ヲ以テ笠ヲ作り、又ハ巨大ノ杓等ヲ作ル、僅カ一張ノ小刀ヲ以テ異様ノ物ヲ細工スルコト殆ント内地人ノ及フ所ニ非ス、又「サツチエレク」宅ニテ見ルニ長サ四尺許ナル五弦ノ琴アリ、糸ハ鯨ノ筋ナル由、閑暇無聊ノ時ニ於テ是ヲ奏スル由ナリ

物産 今日経過スル山道ノ樹木落葉松最夥シ、又五葉ニシテ内地ノ松ニ異ナル松多シ夷名、而シテ楸・樺ノ多キ亦勿論ナリ、キトチリフト云鳥大サ雀ニ似テ赤羽ナリ、此鳥昼

間ニ鳴クハ元ヨリナリ、「キムンナイ」逗留ノ節、夜トイヘトモ其鳴声止マサル也
氣候 朝五十度、夕五十三度

五月廿九日曇 「ウエンコタン」出立「ロレイ」止宿、

海陸十六里

チエイカナイ コヌシベツ ヲフツサキ ヤナラホンナイ
インカンノツポ シユマヲコタン イチヤウレワキ
イヌ、シナイ ノツシヤン シヨウンナイ
ヲソエコニノツ ヲソエコニトマリ

地勢 「ウエンコタン」海浜屈曲シタル平岡自ラ湾ヲナシ、平磯東ニ向ヒタル砂浜背後左右小山周匝、楸木森々タル中間一小平地ニシテ川有、「コロニウシナイ」ト云是此処ノ本名ナレトモ今ノ名ニ改メ「ウエンコタン」ト云フトイヘリ、海岬ニ仮小屋有正東面ス、湾ハ卯差寅ニ向テ開ク、大船ノ入ルヘキ湾ニアラス、僅蝦艇ヲ繫クベキナリ、而シテ左右ヲ遠望スレハ「トシナイチヤ」岬ト右「ヲフツサキ」岬左

ト左右相對シテ一大灣ヲナスナリ、扱浜ニ循ヒ小岬ヲ廻リテ直行ス、此辺沙地ノ平磯ニテ内ハ小岡連亘林木鬱鬱ス、一里許ニシテ小沢アリ、「チヨリヤナイ」ト云、川ヲ渡リ「チユエイカナイ」林木周匝シタル小沢夷屋アリ、暫ク行ク、岡巒開ケ一川海ニ注ク、地名「コヌシベツ」ト云フ、夷家アリ、「モコヌシベツ」ヲ歴テ「ヲフツサキ」ニイタル平地幅員數百歩、平岡ノ上ニ夷屋一戸アリ、又先年官吏廻浦ノ時憩休ノ為ニ設ケタル破屋アリ、入テ憩ス、「コトロール」川ヲ徒涉シ「ヲチシナイボ」ヲ経テ「ヤナラホンナイ」ニ抵ル、此間一里許海畔岩石散乱シ路甚險惡ナリ、左右ニ踊躍シ岩角ヲ踏テ過ク、此辺ヨリ山漸々大二樹木鬱蒼タリ、山ニ循ヒ内ニ折レ子差丑ニ向ヒ次第ニ屈曲シテ遂ニ卯ニ向テ行此レ「シマヲコタン」岬ノ南側ノ海浜也、「タラトマリ」「ナウセ
ンルン」等ノ小灣ヲ過テ「インカンノツポ」ニ至ル、此辺都テ「シユマヲコタン」ノ岬陰ナリ、一小岬アレハ必一小灣ヲナス、行歩スル処ハ巉巖削壁ノ根柢、犖角タル累石ヲ踏テ過ルナリ、直行スレハ「シユマヲコタン」ノ岬ニ出ル

ヲ數百歩前ヨリ左轉シ、一小坂路ニ入岬脊ヲ横截シテ北辺ニ下ル、山岡遠ク開ケ豁然タル平地ニ出、即チ「シユマヲコタン」ナリ、此処ノ灣形ハ右ノ大岬ニ對シテ岩礁左ニ斗出シ形翼ヲ張タル如ク、灣甚タ広カラストイヘトモ右大岬ノ陰ニシテ波浪穩靜ニシテ平砂ノ浜也、一川中ニ注ク、水利モ便ナリ、佳港ト云フヘシ、岬上羅盤ヲ檢スルニ、南ニ「アイロツフ」ノ岬ハ辰ニ「トンナイチャ」ノ岬ハ巳ニアタリ、北「シラ、フロ」ノ辺ヲ杳靄ノ間ニ指ス、土人「イライノ」ノ家ニ入テ午餉シ、是ヨリ舟行ヲ議定シ、蝦船三艘ヲ以テ荷物ヲ運送シ、一隻ニ余等ヲ載ス、所謂円木艇細長クシテ幅狭シ、數人ヲ容ルベキニアラス、然ルニ水主三人楫取一人、而シテ余等四人膝ヲ屈シ軀ヲ曲ケ蹲踞シ以テ漸ク乗ルコトヲ得タリ、一人体ヲ動カセハ舟隨テ欹側ス、危殆ノ甚シキナレトモ勇進ノ時ナレハ船ヲ発シテ前進ス、然ルニ浪穩ニ舟輕クシテ飛カ如シ、一瞬數里海ノ形勢ヲ記スルコト能ハス、一岬アリテ一灣アリ、岡巒絶ツ処必ス沢アリ川アリ、浜汀ハ礁石或ハ赤壁崖ニアラサレハ平砂深樹

或ハ草生、其背後ハ大小ノ山陵樹林鬱蒼タルヲ見ル、随テ去リ随テ来、皆一樣ノ形状ナリ、凡ソ四里許ニシテ「イチヤウレワキ」ノ小岬ヲ過テ「イヌ、シナイ」ニ低ル、^(マ)一大沢小湾形ヲナシ夷屋一戸アリ、今日爰ニ宿セント定議ナル故船ヲ寄セタレトモ海路静カニ日猶未牌ニ至ラス、依テ「ロレイ」迄至ラント議決シ又発船ス、海岸ノ形勢又記スヘキナシ、只「ノツシヤン」ノ岬ハ「イヌ、シナイ」ノ北ニアリテ、大山ノ背平低ノ岡トナリテ遠ク海ニ斗出ス、岬端卯ニ向フ、都テ此海岸東ニ面シ、舟ハ岸ニ沿フテ北ニ向フ、故ニ冲合ヨリ望メハ岬ノ出ル、湾ノ曲ル、其凸凹ヲ見ス、唯一様ノ形状ヲ見ル、然ルニ此ノ「ノツシヤン」ハ南「シユマヨコタン」ト対峙シテ一大湾ヲナシ、南北ヲ限ルノ大岬トス、岬ヲ廻リテ「モエリトマリ」ノ岸ヲ亥ニ向テ行ク、然ルニ風微シク起リ波浪高ク舟小ニシテ動揺甚シ、「シヨウンナイ」ニ至テ上陸シ陸行海浜ニ循フ、一岬一湾迂廻曲折シテ「エンルモコマナイ」ニ抵ル、岩石累々路ニ横ハル、仰テ岩角ヲ攀テ伏テ石竇ヲ潜リ登降辛苦手足甚勞

ス、而シテ湾岬ノ形状変化奇観トナスヘシ、又子ニ向テ行ク、「ヲソエコニノツ」ノ岬 此辺ノ岬也、岬ハ子ニ向フ、岬ヲ廻リテ路転シ西ニ向テ行ク、「ヲソエコニトマリ」「キヌフウシ」等ノ小岬湾ヲ経テ「ロレイ」ニ抵リ、役夷人士産取「ゴンタ」ノ家ニ宿ス
境界 「シユマヨコタン」ヨリ一里許北「アンナノナイ」ニ川アリ、マスノ漁場アリ、魚廠アリ、土人ノ来テ漁業ヲナス処ト云フ
戸口 今日経過スル処都テ夷家十戸許ヲ見ル、「アンナノナイ」ニ土人出稼小屋甘軒許リ在リト云フ
物産 楸・樺・蝦夷松・楊柳ヲ多ク見ル、又浜辺ニ昆布ノ多ク打上ケタルアリ、又石炭ノシヤレテ小石トナリタル頗ル光沢アルモノヲ多ク見ル、土人「アンチ」ト云
氣候 朝四十七度、夕四十三度

五月晦日 「ロレイ」出立「シユ／＼シナイ」投宿、
舟行二里半許、小雨

地勢 「ロレイ」ノ地ハ浅湾ニシテ北差東ニ面セリ、右ニ
 「モーシ」左ニ「ノツホイト」ノ二小岬アリテ湾口ヲナシ、
 岬末ハ共ニ岩礁陥突出没セリ、夷家ノ地ハ平岡寛闊ニシテ
 其背ハ林樾立周シタリ、岡下ニ小川アリ、辰牌出立、例ノ
 円木艇ヲ蕩シテ行ク、「モーシ」ノ岩礁ヲ過ク、其陰ニ小
 沢アリ同名ナリ、「チャヤサン」「ホンナイホ」此辺総テ岩
 磯ナリ、然レトモ山ナドモ皆低平ニシテ形勢昨日ノ危険ノ
 如キニ非ス、此ヲ過キテ浜容益平穩ニ大湾ヲナシタル素浜
 ナリ、小沢「ヲプツサキ」「チヨマナイ」・小湾「フンベ
 フトマリ」・小沢「シユくシ」等ヲ經過ス、一長岬ヲ得
 タリ、「ホロエンルモ」ト云フ、海面二里許リモ突出シ南
 「ノツシヤム」ト遙揖セリ、此辺岩礁夥シク駭浪噴迫シテ
 艇掀翻甚シ、舟子力ヲ戮セ此ヲ蕩シ過クレバ波濤稍穩カナ
 リ、已ニシテ岬陰ニ入ル、礁石羅陳シ数箇ノ小湾ヲナセリ、
 其稍寛キ者ニ入り遂ニ上岸ス、即チ「シユくシナイ」ナ
 リ、是日風波アリ、且雨天ユヘ已ムコトヲ得ス此ニテ止レ
 リ

氣候 朝五十一度

附録 「ロレイ」投宿ノ夷家ハ一昨日「ヲチヨツホカ」ニ
 テ遭ヒシ「ランコロアイノ」ノ家ナリ、右ノ「ランコロア
 イノ」ハ此辺ニテ才幹二名アル者ナリ、家ニ其甥土産取当
 時改名百姓代「ゴンタ」及ヒ女ノ子一人・兒子一人アリ、
 銘々土産ヲ与フ、固ト余等ハ「レイコロ」ノ家アレハ其レ
 二宿ント欲セシカ、会其父「チエアンク」此者已前乙名役タ
 リシ者、頗ル豪英
ニテ土人之ヲ
 敬畏スル由 大病ナレハ抛ナク隣家ナル此レニ宿ス、然レ
 トモ「レイコロ」ノ家ナレバ父并夷婦三人・兒一人又土
 産ヲ与フ、「イヌ、シナイ」ノ「ヌマフレ」ノ兄モ舟ニ付
 テ来リシユヘ、「ヌマフレ」召連ノ礼旁物ヲ与ヘ之ヲ勞シ
 タリ
 物産 番人、異人ノ贈リシトテ「トマ」ヲ煮テ余等ヲ饗セ
 リ、「トマ」ハ延胡索ノ夷名ナリ、味甘ク水氣アルモノナ
 リ、砂糖ヲ和シテ食フ、頗ル奇ナリ、夷人ハ之レヲ飯料ト
 ナス由

閏五月朔日 「シユクウシナイ」出立「アイ」止宿、

行程四里、是日曇陰

シユマヤ リイマサラ ウヌンライ ノソライ ナイフツ
トマンカナイ サヌンシユツカロ ヲノプロトイ

ニイグロエトイ クマナイポツポ ワツカヲポツポ

地勢 「シユクウシナイ」ハ「ホロエンルモ」岬ノ西陰

ニ在テ北面シテ海ニ臨ミ、東ニ「エンルモ」岬アルヲ以テ

風波穩静ナリ、乱礁多ク大舶ハ寄泊スヘカス、^{ヲ脱セ}蝦夷舟ノ如

キハ岩礁間ヲ穿入スル故、却テ寄泊スルニ便ナリ、背後ハ

平地椴・蝦夷松等の木立ナリ、「シユマオコタン」ヨリシ

テ海岸諸山一等高峻ナリシニ、此処ヨリシテ海岸渺茫タル

平地トナリ、而シテ椴ノ木立鬱葱深密ナリ、サテ止宿所ヲ

出テ西面シテ海浜ヲ歩シ行クニ数町ニシテ「シユマヤ」、

繼テ「リイマサラ」ヲ経ル、此辺ヨリシテ西面行セシ者

漸々ト西差北ニ向フ、「ウヌンライ」「ノソライ」ヲ経テ

「ナイフツ」ニ至ル、「シユクウシナイ」ヨリ「ナイフ

ツ」ニ至ルニ里間形勢変化ナシ、只「リイマサラ」辺ヨリ

シテ乱礁ナク平沙ノ浜ト為リタルノミ、「ナイフツ」ハ川

口ト云義ニシテ、此処ニ巨大ノ一川アリテ海ニ注入スル故

ニ此地名ヲ得ル由、但シ「ナイフツ」ノ村落ハ川口ヨリ一

里許東ニ在リ、先ツ此ニ至リ浜路ヨリ左折シ夷ノ村落ニ入

リ、村後ニ出レハ即チ大川ニシテ川幅五十間許、村夷ニ命

シ此処ヨリ渡舟ヲ出サシメ西北ヲ指シ川流ヲ下ル、数町ニ

シテ左側ニ「ナイフツ」湖アリ、其幅員周廻二里モアル由、

其形勢ノ一斑ヲ見ル為メ湖口マテ棹シ至リ、引返し元ノ如

ク流ヲ下ル、左右兩岸皆平地ナル内、右ハ草原ニシテ左ハ

椴林ナリ、又五葉松頗ル多ク、其地名「トマンカナイ」

「サヌンシユツカロ」「オノプロトイ」ヲ経歴シ、凡ソ舟

行一里許ニシテ川口ニ達ス、此ヨリ左岸ニ登リ又海浜ヲ行

ク、回顧スレハ「ホロエンルモ」岬辰巳ノ間ニ当リ、海浜

ハ亥子ニ面シ行ク、是ニ於テ知ル、「ヲソエコニノツ」以

来西面シテ来ル者、「ナイフツ」ヨリ以後漸々転シテ北面

シテ行ク、此処大灣曲ヲナス者ナリ、川口以後「ニイクロ

エトキ」「クマナイポツポ」「ワツカヲポツポ」ヲ経テ

「アイ」ニ至リ、土夷「タシトリ」ノ家ニ宿ヲ投ス、前文ニ云フ如ク「シユクウシナイ」以来ハ海岸平原櫛林ノミニテ一個ノ山阜無シ、晴天ニ在ラハ西海岸ノ遠山見ユル歟ノ由ナレトモ、今日曇陰濛朧タル天氣ニシテ煙霧ノ外目ニ触ル者無シ

附録 今日「シユクウシナイ」ノ出立、舟ニ登ルヘキ筈ナルニ郷導ノ番人云、此天氣ニテハ今日ハ逆モ舟ヲ出シ得ヘカラス、此ヨリ舟ヲ棄テ陸行シテ今夕「アイ」ニ宿シ、明日「ヲタサン」ニ至ラハ必ソレマテニハ風波モ穩ニナルヘク、且ツ「オタサン」ニハ亦得ヘキ舟モアルヘシ、前路ニ進ム良策ナラント、乃チ其意ニ任シ陸行ス、荷物ハ夷人負担シ行ク、「ナイフツ」ニ至リ番人又云、荷物ヲ担フ者ハ海浜ヲ直行シ、川口ニテ川ヲ渡リテ可ナルヘシ、諸君ニハ夷村ノ背後ニ路ヲ取り給ヒ、ソレヨリ渡舟ヲ出サシメ流レヲ下リ、旁ラ「ナイフツ」湖ヲ見給ハ、可ナラント、此亦番人ノ懇切実ニ我等ノ望ム所ナル故ニ喜ンテ許諾セシナリ、又番人及ヒ召連シ役夷人礼五郎ノ話ヲ聞クニ、「ナイ

フツ」川ノ上流ニ遡ルコト三町許ニシテ「フクイカタ」ト云処アリ、住夷一戸アリ、半里許ニシテ「ルイカイ」ト云地ニ住夷三戸、三里許ニシテ「フロウフ」ト云地ニ住夷一戸、五里許ニシテ「タコイ」ト云地ニ住夷五戸、六里許ニシテ「トウヌシチヤン」ト云地ニ住夷一戸アル由、且六里許ノ上流マテ舟通スル由ナリ、イカニモ此川ハ近地ニ於テノ大川ナルヘク、「ナイフツ」前後二三里間ハ浜辺ニ流レ木ノ打寄アル形状、元地ノ「イシカリ」「テシオ」ノ類ニ準スルナリ

戸口 「シユクウシナイ」住夷四戸、「シユマヤ」ニ四戸、「ナイフツ」ニ六戸アリ

物産 前文云如ク海岸ハ平原或ハ櫛木密鬱タルノミ、「シユクウシナイ」近辺乱礁多キ浜ハ昆布ノ流レ寄タルコト夥シ、惜ムヘキハ東海岸ハ昆布類ハ勿論、一個ノ漁場モ設ケス、天物ヲ空シクセリ、「シユクウシナイ」「シユマヤ」ノ海浜琥珀ノ如キモノ点々波ニ打揚ケラレ捨リ居ルヲ見ル、果シテ琥珀ナリヤ、或ハ薰陸ニ非スヤト思ハル所モ

アリ、聊拾取り帰府後ノ検定ヲ期ス、「ナイフツ」ノ川ハ
鱒鮭ノ升コト多キ由、上流ノ夷人食料モ元ヨリ此川ヲ以テ
命トスル也

氣候 朝四七度、夕五十一度、今日夏至後一日也

閏五月二日 「アイ」出立「ヲタサン」止宿、行程四

里余、是日曇

アイ川 ヲソシロキナイ シルトロ チシタウシナイ

エタ、グシナイ

地勢 「アイ」ハ海浜平磯ニテ丑寅ニ向ヒタル広原中ニシ
テ、左ニ「アイ」川ヲ帯ヒ以テ水利ノ便ヲ取り、川ヲ距ル
コト三十歩許東ニ楸ノ木立ヲ背ニシタル一小村ナリ、村ヲ
出一町許行キ海浜ニ出ツ、浜ニ沿ヒ戌亥ニ向テ行二町許、
川アリ即チ「アイ」川ノ海ニ注クモノ也、幅六七間水深ク
船度ナリ、一里許ニテ小川「ヲソシロキナイ」ト云フ、徒
渉ス、又「ナエホヲロ」「ヲブツサキ」等ノ小溪流ヲ渉リ
一里余ニシテ大沢ヲ得タリ、「シルトロ」ト云フ、是迄ノ

海浜平原ニテ楸・蝦夷松ノ木立鬱密シ、川アル処ハ打開ケ
タル草原ナリ、而シテ此「シルトロ」ノ沢ハ尤大ニシテ元
ト土人住居シタル処ナレトモ今ハ影モナシ、官吏通行休憩
ノ為ニ設ケタル仮屋アルモ此亦荒廢シテ境地寂寞タリ、川
有リ水深シ、而シテ渡スヘキ舟ナシ、人夫ノ負担ニ依テ渡
ルコトヲ得テ、「フンヘヲマナイ」「ホロシナイ」ヲ經
テ「チシタウシナイ」ニ至ル、此辺ヨリ背後連岡崛起シ、
楸・蝦夷松鬱茂ス、此処ハ三方山ヲ帯ヒ海浜寅差卯ニ面シ
タル大沢也、「アイ」ヲ出シヨリ戌亥ニ向ヒ漸々亥ニ向ヒ
シカ此ニ至テ差子ニ向フ、海浜ハ平沙左畔ハ連岡密樹、此
ヨリ先数里一様ノ形状也、「トヲブシナイ」ノ小沢ニ至リ
小流ヲ徒渉ス、時ニ海霧微シ開ケ前面子ニ当リテ遙カニ出
崎アリ、番人ニ問ヒシニ「シラ、ヲロ」ノ岬ナリト云フ、
顧望スルニ東南ハ猶靄霧濛々タレトモ、「ナイフツ」ノ辺
岬ノ如ク巳ノ方ニ当リテ海ニ走ルヲ見ル、思フニ地勢ノ灣
ヲナスニアラス、遠望スル眼力ノ物ヲ灣縮メ視ルニアルナ
ルヘシ、此ヨリ子ニ向ヒ樹林ニ傍フテ行ク、「カムイシナ

ムヲマナイ」「ツ、ニウシナイ」「ハホマナイ」「エタ、
グシナイ」ノ小沢、殊ニ小溪細流海ニ注クモノヲ徒渉シテ
林岡尽テ一ノ大沢ヲ得、「ヲタサン」ト云フ、川アリ幅
七八間許、水深クシテ渡ルヘカラス、又舟ナシ、番人前岸
ノ林中ニ向ヒ大呼数声、稍久クシテ一老夷女兒ヲ連れ来リ、
前岸ノ船ヲ下シ来テ余等ヲ迎フ、則渡テ役夷「ヲマンネ」
ノ家ニ宿ス

戸口 「アイ」住夷ニ軒アリ、「ヲタサン」ニ至ル間一戸
ノアルナシ

物産 大抵前日ノ記ノ如シ、而シテ「シルトロ」辺ノ海浜
砂中琥珀ノ稍大ナルヲ得タリ、昨日薰陸カト疑評シタレト
モ、今日得ルモノヲ以テ考レハ全ク琥珀ナラント衆評一決
玩弄、稍前日ニ倍スルモ亦旅中ノ一興ナリ、昨夜宿セシ処
ニテ「イトウ」ト云魚ヲ晩食ニ出シタリ 内地ノ「ブリ」ニ
似タリ、大サモ大
抵同、今日又芝海老ヲ浜辺ニ打揚ケテアルヲ見タリ
様也

氣候 朝四十九度、夕五十度、東府ニテハ此節水練稽古ノ
時ナルニ、今日徒渉シタル処ノ流水冷氣凜冽嚴冬ニ異ナラ

ス、北夷ノ寒氣前人ノ言ノ妄ナラサルヲ知ル

附録 此島ノ夷人円木艇ヲ自由ニ使用シ、地方ヲ離レスト
雖トモ大海ノ波濤ヲ乗コナス故、定テ水練ニ熟シタルモノ
アラント番人ニ問ヒシニ曰ク、土人水ニ熟シタルモノ更ニ
ナシ、只船ヲ使ヒ馴タルノミ、其所以ハ夏モ寒ク水泳ヲ習
フ時節ナシト云フ、○「シユクウシナイ」ヨリ人足ノ才
領トナリ来リシ「キモソク」ト云フ者、昨日帰ヘスヘキ筈
ナルニ是迄来リシ故、猶今一日送り申ス可シトテ此迄来ル、
老夷別レヲ惜ムノ情愛スヘシ、且「シユマヤ」ヨリ二人「ナ
イフツ」ヨリ二人人足ニ取り来リシ夷人共、今日帰ヘルニ
付、「キモソク」モ同様帰ヘル由ニ付各物ヲ与ヘテ帰シケリ
番人云フ、附添ノ土人ハ日数ヲ重ネ遠方迄行コトナレハ其勞ヲ厭ヒ、
折節肩ヲ休メ或ハ勞シ或ハ逸シ、気分ヲ引立テ働カセ行クニハ増人足
ヲ所々ニテ取り、始終惰氣ヲ生セサル様ニセサレハ遠路ヲ行クコトナ
ラス、一度惰情ヲ発シ病ニ托シテ働ラカス、一人如此数人ノ氣合ニ
カ、リ甚々困ルコト
アル故ニ如此ト云フ

閏五月三日翳風晡時疎雨 「ヲタシヤン」出立「シラ、

オロ」止宿、行程八里 実ハ七
里許

チエポプナイ マトマナイ ポロナイ ベケレ

地勢 「ヲタシヤン」ノ浜容正東二面シ、巳位「ロレイ」

子丑位「シラ、オロ」対峙、其東北ヲ扼シテ一大湾ヲナス、

其間十七八里平沙一様ノ素浜ニシテ海波衝撞シ鞆ノ響暫

クモ歇時ナシ、「ロレイ」ノ北二里所「シユくウシナ

イ」ノ岩礁小澗ヲナシタル在リテ、僅カニ小艇ヲ容ルベキ

而已、其外ハ前ニ言フ如キ荒磯ユヘ小艇ハ勿論寄セ難ク、

大舶トテモ浅沙ユヘ是又繫泊スベキ所無ク、実ニ東浦ノ天

難所ト称ス可シ、唯其落潮ノ節ハ繊細堅固ニテ行歩極テ容

易ナリ、偕又夷落ノ在ル地ハ椴・蝦夷松木立ノ前ノ草原ニ

テ、右五六歩所ニ「ヲタシヤンベツ」アリ、背後ニハ連

山堵墻ノ如ク駢立セリ、早間夷家ヲ出テ平砂上ヲ北面シ行

ク、是日北風勁烈ニテ濛濛ヲ払掃シ遠望スレバ、「シラ、

オロ」ノ右丑寅間位ニ一尖峯ノ嶄然海上ニ屹立スルヲ見ル、

間ハスシテ其「トツソ」山ナルコトヲ知ル、其先ニハ「マ

クンコタン」「カシポ」ノ山々雲煙ノ如ク連延東北ニ迸出

セリ、二三丁ニテ「ヲタシヤン」ノ旧川口ヲ過ク、夷家ア

リ、是又「ヲタシヤン」ノ内ナリ、是ヨリ木立原ニ並テ行

ク、十余里ニテ「チエポプナイ」川アリ、沢中夷戸アリ、

二里ニシテ「マトマナイ」川アリ、舟渡リス、沢中夷戸ア

リ、此辺迄木立ノ背後ニ連山アリシガ此ヨリ漸ク遠カリ、

一円ノ平林トナル、三四ノ細流ヲ掲シ、又二里ニシテ「ホ

ロナイ」川アリ徒渉ス、広沢ニシテ夷戸アリ、川ノ左右ニ

ハ土人ノ漁廠アリ 夷戸ノ在ル所字ヲ「キ、トウシナイ」ト云、夫ヨリ又細流ヲ踰

ユルコト二三度ニシテ又二里、「ベケレ」川アリ、分流ス、

此辺ヨリ浜勢漸次ニ南面ス、木立ノ背ニハ小高キ山ヲ出セ

リ、是又行クニ随ヒ次第ニ大ヒニ「シラ、オロ」ニ至リ、

鬱然一大嶺ヲナス者ナリ、十余丁ニシテ木立ノ前ナル草原

上ヲ行ク、蓋シ是ヨリ浜砂軟鬆ニテ歩ヲ勞スル故ナリ、已

ニシテ海滋ニ下リ細流ヲ踰エ遂ニ「シラ、オロ」ノ夷家ニ

投宿ス

戸口 「ヲタサン」夷家、旧川口ニ在ル者ヲ合セテ四戸、

「チエポプナイ」一戸、「マトマナイ」一戸、「ホロナ

イ」川ノ左右ニ土人漁廠五六箇、「ベケレ」ニ三四箇アリ、

是ヲ以テ其漁獲ノ多キヲ概見ス可シ、是迄経歴セシ海浜若クハ川々魚獵ノアル可キ者枚挙ニ暇アラズ、唯人種ノ鮮少ト税舗ノ陋愚ニテ大利ヲ今迄モ擲棄シ置クコト、歎惜ニ堪ヘサル者也

物産 「ヲタサン」「ヲマンネ」ノ家熊児ヲ圈養セリ、此島ニテ見ルハ初テナリ、旧冬捉ヘシ由ナレトモ大サ既ニ四尺ニ過キ、猛威幹々自カラ人ヲシテ逡巡近視スルコト能ハサラシムル勢アリ、今日ノ海浜モ「アンチ」「ロッコ」アリ「ロッコ」ハ一昨日ヨリ記シ置、倍「シラ、オロ」ノ海浜ニハケル琥珀ノ如キ凝液ノ夷名ナリ 倅「シラ、オロ」ノ海浜ニハ夥シク数ノ子ヲ打揚アリ、是鯉魚ノ多キヲ知ル可シ

氣候 朝 夕五十一度、「ヲタサン」ノ後山ハ皆残雪アリ、宿所ノ夷家ニハ雪塊ヲ水樽ニ入レ飲料トナセリ、是日北風凜冽ニテ殆ント嚴冬ノ如シ、聞ク、此風起ル時ハ六七月ノ際ト雖トモ往々雪ヲ降スト言フ、此番人先年間宮・松岡ノ二官吏ニ附添廻浦ノ節、六月十五六日ノ頃降雪又アリシト云フ

附録 「ヲタサン」ニ円木艇一隻アリ、稍大ナリ、番人之

ヲ以テ「トツソ」越ヘノ用ニ備ヘ、且税館ヨリ廻シ置タル玄米此地ニ在レハ、其内六俵ヲ取りテ夷人ノ食ニ備ヘント云フユヘ其意ニ任ス、尤評次第「シラ、オロ」ヘ漕輪ノ積リニテ、艇夫トシテ役丁三四人ヲ残シ置ケリ

閏五月四日曇 同所滞行

形勢 「シラ、オロ」ノ地勢ハ「シユノウシナイ」辺ヨリシテ海浜平地ニシテ山無カリシニ、此地ニ至リ稍高峻ナル山巒海面ニ斗出ス、即チ「シラ、オロ」岬ナリ、「シラ、オロ」夷村ハ岬陰ニ在テ 岬ノ巳午ノ位ニ在リ、岬ト均シク寅卯ニ面シ海ニ臨ム、其右ハ頗ル曠豁ナル溪沢ニシテ沢中ヨリ海ニ注入スル溪流即チ「シラ、オロ」川ナリ、夷村ノ背後ノ山ヲ「リサラキノホリ」トモ云、此レハ草樹緑鬱ノ山ナレトモ崖腹ニ赤ク禿シタル処アルヨリ名ヲ得ル由、禿シテ赤クナリシヲ夷語「リサラキ」ト云故ナル由、又前文所謂夷村ノ左ノ「シラ、オロ」岬ヲ其北崖赤禿ナリシ故「リサラキ」ト云由ナリ、村前纔ナル灣港ノ姿アリ、サレトモ暗

礁多く且遠浅ナル故ニ、大舶繫泊ノ地ニハ非ルヘシ

戸口 「シラ、オロ」住夷七戸アリ、今般「カラフト」東浦「オチヨボカ」ニ出シヨリ以来村落此処ヲ第一トス、地大ニシテ人少キコト亦甚シト云ヘシ

風俗 「オチヨボカ」以来夷人ノ宅ニ休泊セシニ、何レモ大抵同様ニテ屋根ハ蝦夷松ノ皮ニテ葺キ、四壁ハ木皮或ハ板或ハ草茅等ニテ包ミ廻シ、家ノ出口一処アルノミニテ別二戸口或ハ窓等ナシ、宅内ハ土間ニシテ板ナトヲ敷キ每家必炉アリ 大家ハ二炉
小家ハ一炉、炉上ニ於テ屋根ヲ纒ニ穿ツ、江戸人家ノ引窓アル如シ、此ヨリ焼火ノ煙ヲ出シ且ツ明リヲ取ル、

入口ハ昼トイヘトモ戸ヲ鎖ス、故ニ室内ハ薄暗キ方ナリ、又室内土間ノ三方 四方ノ内ニテ入
口ノ一方ヲ除ク 壁ニ傍テ幅三四尺許ノ床ヲ作りアルナリ、我徒ノ休泊スル時ハ土間及ヒ此床上ニキ

ナノ筵席ヲ敷キ 「ベツチャムシ」ト云草ヲ織テ作りシ物ノ由草ヲ稱シテ「キナ」ト云由ユヘ和人コレヲ稱シテ「キナムシロ」ト云、本邦ノ蒲筵ニ似タリ、且四壁ノ見苦シキヲ掩フ為メニモ此キナ

席ヲ打廻セリ、我徒板宿スルニ暖ヲ取り煙ヲ吹ク為メニハ炉ヲ囲メトモ、土間ノ湿氣ヲ避ケ、且夷家何レモ掃除足ラ

ス蚤ノ多キニ堪ヘス、寝ニ就ク時ハ必床上ニ於テスル也、

昨夜ヨリ逗留セル此夷家ハ「ノテカリマ」ト云テ東浦ニ於テ衆夷ノ畏服セル夷酋ナリシニ、今ハ已ニ死シテ其妾残り居リ、所謂後家暮シノ家ナル由、サレトモ「ノテカリマ」

ノ家ナリシ故ニヤ、「オチヨボカ」以来宿スル所ノ夷家ニ一等勝レルニ似タリ、然レトモ又風俗ノ醜陋ナルヲ覺得タルハ、此家ノ夷婦ハ既ニ「ノチカリマ」ノ妾タル身分ナルニ、今ハ西浦ノ「ナヨロ」ノ夷長「シトクラレ」ヨリ世話ヲ致シ居ルトカ、又一説ニ今般召集来ル夷長礼五郎ノ妻ト為リ居ルトカ、其事ヲ詳カニセンスレハ番人我徒ノ情ヲ疑惑恐惧スル状ナル故ニ強テ糺サス、何レニモ夷長ナトハ彼処此処ニ妻妾アルコト内地ノ力士又ハ船頭ナトノ類ト思ハル、且夫死シテ其家ニ居テ人ノ妻妾トナリ、己レモ恥チス他人モ咎メサル者ト思ハル、ナリ、偕又此辺ノ風俗ニテ小兒額髪ニ飾リヲ為ス、赤小豆ナトヨリモ一等小粒ナル練物ヲ玉ヲ連テ三角ノ形ニシ髪ニ結付ルナリ、此家ニ居ル男子七八歳ナル者此飾ヲ為シ居レリ

物産 此辺鯡魚多ク数ノ子ノ多キコト前日既ニ記スル如シ、

又昨夜番人等前浜ニ出テ漁セシニ暫時ニ「イトウ」「アメ

マス」鱒六七尾ヲ獲タリ 鱒ヲ得ル時節ニ今少シ早キ由、今日
ユヘ始テナリトテ殊ニ珍重ス

村中ヲ散歩シ一見スルニ山樹ハ椴・蝦夷松・樺ノ類ナリ、

村落間僅カナル平地雑草繁茂、其種ヲ見ルニ欸冬・木賊・

虎杖・薊花・土筆・トマ 延胡
索・ハ 黒百
合・イノシカイ 内地ノ
姫百合

ノ如シ・コシヤク 草人
參・「ニオ」「ベツクド」ナト名クル者、

又一輪草・猿猴草ナト花盛リナリ、草間ニ又柳或接骨木多

シ「欄外 鶯及「キトチリフ」ノ声ヲ聞クコト多シ」

土質 海浜ハ細砂ニシテ、僅カニ山ニ入レハ赤土或ハ石交

リナリ、要スルニ「カラフト」ハ硫黄火山ノ無キ故力寒地

ナレトモ何方モ草樹鬱々タリ、但寒氣ノ故ニヤ長大ノ材木

無キ也

氣候 朝四十二度夕

閏五月五日晴 滞行在「シラ、オロ」如故

紀事 今日ハ風波モ稍穏ナル方ナレハ発船スルモ可ナレト

モ、「オタサン」ヨリ食料米取寄スル船イマタ着セス、食

料具ハラサレハ「タライカ」ニ踏込難シト、扱ナク又滞行

トナル也

閏五月六日朝晴朗已刻以後曇陰微雨 「シラ、オロ」

出立「フヌフ」止宿、行程十四里許

リサラキ シコマナイ シンノシコマナイ

ヌツプオポオマナイ マーヌイ オハコタン ワーレ

チトカンチシ モホヤンケ ヲタイ、シユウ

クサレミイク チカヘルシナイ ソヨンコタンノチ

ソヨンコタン ニオイ トツソ ノボリポ

オチャセナイエンルモ マクンコタン ワートツソ

イ、カルホト オヤンギナイ フレイチツシ テシユシ

ワツカナムナイ モトマリ ウリイ

地勢「シラ、オロ」形勢前日記スル如ニシテ発船シテ「シ

ラ、オロ」岬即「チリサラキ」「リサラキ」又「イサラ
ルヨウナイ」岬ト云由、ニ

至リ、羅針ヲ検スルニ前面「トツソ」ノ山峯子丑ニ当リ背

後海中ニ斗出セル遙山ノ尽頭ハ「ヌムシ」岬ナル由我徒ハ「オソコニ」岬ナラント思ヘトモ、夷人礼五郎「ヌムシ」ト云、「オソコニ」ハ「オソコニノツ」ノ西三十町許ニ在ルナリ、既ニシテ天曇リ四望茫然只左傍ノ陸地ヲ見ルノミ、「シラ、オロ」岬ヲ曲リ尽シテ又次ノ山ヲ得テ沢アリ、「シコマナイ」ト云、又次ノ小沢ヲ「シンノシコマナイ」ト云、既ニシテ稍々深湾トナリ、平地頗ル豁然タル処ヲ得ル、「ヌツプオプオマナイ」ト云、此処ノ北ニ尽テ山澗底ト見受ル処「マーヌイ」ノ夷村ナリ、「マーヌイ」川船中ヨリ見取ヘカラス、只其川流ノ西南ニ廻リ、西海岸ニ山越アルヘキ地勢隠然ト想像スヘキ状アリ、独詳細ノ地勢ハ帰路ヲ期スルナリ、「マーヌイ」川ヨリシテ稍々山巒海面ニ迸出ス、又転シテ北走スル山勢ト為リ、一夷家アル処ヲ「オハコタン」トス、其地鹿島神社アル由ナレトモ是亦見得ズ、又暫ク過去テ一好湾ヲ得ル、此ヲ「ワーレ」ト云、既ニシテ岬名「チトカンチシ」ナル者ヲ得ル、此ヨリ地勢一変シ、山崖峻絶巉巖突兀タリ、小湾・小岬各二個ヲ経テ小岬一ハ名ナシ一ハ「ヲタイ、シユウ」、偶平坦一小沢ヲ得ル、「ヲチャセナイ」ト云、

此ヨリ転シテ次ノ山ト為リ一大岬ヲ得ル、「クサレミイク」ト云、此岬ヲ曲レハ忽チ快明ナル一大沢アリ、海面一深湾ヲ為ス、此ヲ「チカヘルシナイ」ト云、夷村ニシテ其背後遠山邈迤セルヲ見ル、湾前一巨岩海中ニ起立ス、「チカヘル」岩ト称ス、湾前ヲ経尽セハ「ソヨンコタンノチ」此レ更ニ大岬ナリ、此岬「クサレミイク」ト左右ヨリ「チカヘルシナイ」ノ湾ヲ為スナリ、此岬ノ北一小沢「ソヨンコタン」ト云、此ヨリ石崖峻絶甚高聳ナル者ニ非レトモ、突怒磊砢総テ人行ヲ通セサルニ似タリ、既ニシテ一岬陰屈曲セル処ヲ「ニオイ」ト云、此ヨリ以後山崖形勢真個ニ一変、始ハ石壁城堞ノ如ク既ニシテ重疊屏風ノ如ク終ニ懸崖絶壁直立千仞、鳥獸トイヘトモ攀過スルコトヲ得サルノ状ナリ、此際一里許ノ間ヲ「トツソ」ト云、即チ「トツソ」山下ナリ、山頂ヲ仰見ルニ煙雨冥濛漠然認得ヘカラス、只崖腹山趾ノ峭截如削ノ形勢及ヒ波浪ノ深黒ニシテ舟中ノ人皆慘然タルヲ覚フノミ、今日雨中ナレトモ波浪静穩ナルヲ以テ夷舟ヲ撐過ルヲ得、若シ僅カニ風濤アラハ其勢果シテ

如何アルヘキヤ、偕又考ルニ「カラフト」ニ来ル者「トツソ」ノ嶮ヲ称スルコト噴々人耳ニ譁シキニ似タリ、サレトモ畢竟平直一縷ノ舟路ニシテ危礁大岬ヲ凌クノ類ニ非ス、元蝦夷地「オカムイ」岬・「オフイ」岬ヲ経歴スルニ比スレハ一等平易ノ地勢ナリ、夷舟ハ真ニ木葉ノ如キ者ナル故ニ、聊風波アレハ撐得サルヲ以テ如此ニ人口ノ膾炙セルナルヘシ、「トツソ」ノ山頂「シラ、オロ」ヨリ見ルニ双尖或ハ三四尖アルニ似タリ、今日其麓ヲ過キテ其頂ヲ見ズ、遺憾ト云ヘシ、間宮林蔵北蝦夷図説ニ「カラフト」島名山・大岳ナシ、只東海岸ノ「トツヨカウツシリ」西海岸ノ「キトウシノボリ」ノ二山アルノミト、其「トツヨカウツシリ」ハ即チ此「トツソ」ナル由ノ説アリ、サモアルヘシ、但今日山容果シテ林蔵所図ノ如キヤ否ヲ断シ得ス、姑ク帰途ノ再検ヲ待ツ、「トツソ」ヲ経テ「ノボリポ」ト云フ地ヲ得ル、此ハ山脈「トツソ」ヨリ来ルトイヘトモ別ニ一小山ヲ為シ山容平穩ニシテ、海岸平沙其前海ハ岸ヲ去ルコト六七町ニシテ一条ノ暗礁横亘シテ、故ラニ船舶繫泊ノ一港

ヲ設ル者ノ如シ、此地勢凡半里余モアリ、既ニシテ平磯尽キテ一岡阜ヲ得ル今日所見ノ瀑十数条ニシテ、此ニ於テ見ル者ヲ尤美トス、此ヨリ崖岸又峻絶ノ状アリテ、終ニ大ニ海面ニ突出セル一岬ヲ得ル、「オチャセナイエンルモ」ト云「シラ、オロ」岬発船以來此、岬最海中ニ斗出セル者ト覺フ、此岬ヲ廻レハ忽チ前面ニ当リ又一岬アリ、此ヲ「ワートツソ」ト云フ、「ワートツソ」「オチャセナイエンルモ」ノ間相去ル一二町ニシテ一深灣ヲ為ス、灣底ヲ「マクンコタン」ト云、平低ナル一大溪沢ニシテ其奥頗ル深ク、而シテ沢中ノ一川頗ル巨大其海ニ注入スル水勢激沸、舟中一見シテ漁利アルコトヲ知ル、此灣幅員長広ナラサレトモ「ワレ」ニ勝ル一等ニシテ此近辺イマタ見得サル好港ナリト覺フ、「ワートツソ」ヲ過レハ遙ニ見得ル岬ハ「ソウヤ」岬ニシテ遠キコト三四里外ト思ハル、「ワートツソ」以後「イ、カルホト」ト云地アリテ、此辺ヨリ岡阜草叢鬱葱タリ、又一変ノ地勢ニ似タリ、サレトモ草崖峻絶ニシテ崖下暗礁危石多シ、平穩ノ地ニ非ス、「オヤンギナイ」ト云一沢ヲ経テ、十町余ニシテ「フレイチツシ」ト云沢ヲ得ル、

此辺ニ至レハ海浜平沙ニシテ背後ノ山巒稍卑低ナリ、又半里余モ經過セル内ニ平浜ニシテ柳樹多キ原沢ヲ得ル、地名「テシユシ」ト云、此地勢連綿一様凡一里以上モアルヘシト覚フ、其後背ニ一山嶺頗ル高ク聳ユ、夷人其名ヲ知ラサルニ似タリ、「フヌフノホリ」ト云者アレトモ「フヌフ」ノ夷村ニ山脈接セス、蓋シ別ニ名アルヘシ、「テシユシ」ノ地勢行尽シテ一深沢ヲ得ル、「ワツカナムナイ」ト云、此処僅カニ海灣ヲ為ス、ソレヨリシテ一個ノ草山ノ岬ヲ廻リ一小沢ニ入ル、此ヲ「フヌフ」ト云、夷長「シユンコクサ」ノ宅ニ宿ス、今日經過ノ舟程「シラ、オロ」ヨリ二里ニシテ「マーヌイ」、又三里許ニシテ「チカヘルシナイ」、又五里許ニシテ「マクンコタン」、又四里近クシテ「フヌフ」通計十四里許ナリ、方向ハ數四出沒屈曲アレトモ、要スルニ針路始終子丑ヲ指ス、其内「シラ、オロ」ヨリ「オチャセナイエンルモ」岬マテハ子ニ向ヒ来リ、「オチャセナイエンルモ」以後ハ丑ニ向ヒ来リタリ

附録 今日モ「シラ、オロ」滞留ト歎息致居シニ、巳ノ刻

頃ニ及ヒ「オタサン」ヨリ夷人共舟ニテ飯料米ニ俵持来ル由、且ツ「ワール」ヨリ取寄セシ船モ既ニアレハ舟米モ備ハレリト喜ヒ、折シモ雨天ラシキ日和ナレトモ船ヲ発スヘシト番人申出ルニ任セ俄ニ出立ス、追々雨天ニテハアレトモ幸ニ風波甚シカラス、明日ノ天氣覺東ナシトテ四時過ヨリ十四里許ノ路ヲ急キ、七時半頃ニ「フヌフ」ニ着ス、既ニ着スレハ「シラヌシ」ノ支配人川上甚三郎、官命ヲ奉シテ「タライカ」「オロツコ」等ノ奥地諸夷ヲ撫育綏服ノ為メニ發行シ、五月五日「クシユンコタン」ヲ発程セシ者、此処ニ滞留致居レリ、其話ヲ聞ケリ、「クシユンコタン」出立後風波雨雪ノ為メニ彼此滞行スルコト多ク、既ニ三十日ニシテイマタ此所ニ在リト、吾徒ハ「クシユンコタン」出立後イマタ十一日ヲ経ルノミ、且佐倉侯ノ衆モ今日頃ハ何レニ在リヤ必スイマタ此処ニ着スルハ程アルヘシ、サレハ吾徒廻島ノ運ヒ甚悪シカラスト一同窃カニ喜ヘリ、但「オタサン」ヨリ米四俵来ルヘキニ、夷共風波強キ故舟ノ輕キ様トテ僅カニ二俵ヲ持来ル、此レニテハモシ滞行久シ

キ時ハ食料尽クヘシト、是ノミ互ニ心中ヲ悩スナリ

戸口 「マーヌイ」夷家川ノ左右各二戸アル由、「オハコタン」「ワーレ」「チカヘルシナイ」「マクンコタン」各住夷一戸宛アルノミ、「ワーレ」ノ住夷ハ即チ此度吾徒ノ乗来リシ船ノ主ナリ

物産 舟中ヨリ目撃スル海岸、岩崖或ハ草崖ニシテ纒力ニ山腹ニ掛レハ皆楸・蝦夷松也、其間楓・槐等ノ交レル由ニ聞ケトモ親接セサレハ分明ナラス、「チカヘルシナイ」ノ山ニテ老熊ノ其子二匹ヲ牽テ遊歩セルヲ見ル、「トツソ」前後岩石間ニ石燕多シ、且ツ「イトヒリカ」鳥三四匹ヲ見ル、海面ニ水豹十数頭ヲ見ル
氣候 朝五十度、夕五十三度

閏五月七日曇 海波不穩小艇通行甚難シ、同所滞行
地勢 「フヌフ」ハ南一小巒ノ尽ル処ノ一沢ニシテ、北也左ニ稍突兀タル孤山半腹ヨリ下ノ方青草ノ鬱茂スル者ト相對シ、僅カニ小湾ヲナシ湾底辰巳ニ向ヒタル平沙ノ磯ニテ、

小舟ノ出入モ少シ風アレハ浪高クシテ難トナス処ナリ、背後ハ平地漸々高ク樹林鬱葱トシテ山ニ連接シ其奥ハ高山連環三面ヲ擁ス、沢中ニ溪流ニアリ、南山ノ麓ヲ流ル、モノ稍大ニシテ幅三間許アリ、濁流ナリ、北ノ山麓ヨリ沢中柳樹間ヲ流ル、モノハ細流ナレトモ清冽ナリ、両川流ノ中間草原上ニ夷人ト居ス

戸口 夷戸三戸アリ

物産 草木ノ類別品ヲ見ス、鯡ノ海浜ニ寄タルヲ土人拾ヒ取りテ棚ヲカキ夫レニ掛ケテ干シタルヲ三四ヶ所見ル、又海浜ニ石炭ヲ打上ケタルコト夥シ、定メテ此辺ノ奥ニ石炭窟アルナラン、又夷屋ノ側ニ熊ノ皮ヲ張りテ干タルアリ、聞ク、是熊ハ十二日前ニ捕ヘ得タルモノニテ、尋常ノ者ニアラス、暴猛ナル熊ニテ友食ヒテ度々ナシテ手負タル疵痕アリ、爪ハ白キ由、一種ノモノト云ヘリ、捉フル時土人額ヲ爪ニテ搔破ラレ大ニ怪我ヲナシタリ 此捉ヘタル夷人一人ハ弓、一人ハ鎗ヲ持チ、其槍ヲ持チタルモノ熊ノ喉ヘ突立タルヲ、熊其鎗ヲシゴキテ手許ヘ来ル、其節熊ヲハ二人シテ倒シタレトモ額ヲ爪ニテ搔破ラレタリ、併薄疵ニテ此節ハ大ニ快癒セ、其熊ノ皮ナリ、幅四尺ニ余リ丈リト、此夷不敵ナル者ナリ

ケハ五尺余、腕ノ皮短カケレトモ横ノサシワタシ一尺五寸
余ト思ハル、尤是ハ母熊ニテ其子ヲハ生捕ニシタリトテ圈
ニ入レテ畜ヒ置ケリ、生テ僅カ五ヶ月許ノ児熊ナレトモ猛
氣人ヲシテ畏怖セシム

土質 海浜ハ砂地、平地ヨリ岡丘ニ至ルノ間黒赤色ノ粘土
也、草木發生モ氣候温ナレハ二三日ニテ忽チ鬱茂ニ至ルト
云ヘリ

氣候 五十三度

附録 此島東海岸ノ旅行甚艱難トナス、大船ヲ用ユレハ湾
ノ船ヲ繁着スヘキ処少ナク、陸行スルトキハ巉巖海濊ニ聳
ヘノソミ道路絶シタル処多ク、且溪流川沢アリテ行ヲ沮ス
ルモノ又少ナカラス、唯小艇円木艇ヲ用ヒテ海浜ニ沿ヒ
搔送リニスルヲ便ナリト為ストイヘトモ、是又無風無浪海
面イカニモ平穩ノ日ニナケレハ行キ難キトス、然ルニ我徒
山道ヲ越ヘ東海岸ニ出テ、或ハ小舟ヲ用ヒ或ハ陸行シ、
「クシユンコタン」ヲ出テ僅十一日ニシテ「トツノ」ノ險
難ヲ易々ト踰ヘ此ニ至ルモ至幸ト云フヘシ、川上甚三郎ノ

事ハ昨記ニ委シケレトモ猶其所聞ヲ贅ス、同人ハ昨日ノ話
ニ去月五日「シラヌシ」ヲ出立シテ「クシユンコタン」ヨ
リ「チベシヤニ」ニ至リ、「トウキタイ」ヲ経テ東「トン
ナイチヤ」ニ出、夫ヨリ東海岸通行、本月朔日漸ク此処ニ
着シタリシニ、又風波ニ沮セラレ今日迄逗留ノ由、尤所々
滞行多ク日ヲ費シタリト也、併同人ハ道路ノ檢察ハ勿論、
夷人ノ撫育ノ儀ヲ兼ネ官命ヲ奉シテ来リ、此ヨリ追々「シ
レトコ」ヘモ至リ、又「シツカ」川ヨリ遡リ山道ヲ巡察シ
テ奥地ノ光景ヲ探索シ西浦ヘ転行スル由ナレハ時日ヲ急カ
ヌコトニテ、我徒ノ日刻シテ往返セント欲スル者トハ固ヨ
リ異ナルコトナレトモ、三十余日ニテ漸ク爰ニ来ルコトナ
レハ道路ノ險難推テ知ルヘキ也、是日同人來話移晷、大ニ
旅況ヲ慰ス、此島ニ「トウス」ト云物アリ、落葉松ニ生ス
ル物ニテ俗ニ猿ノ腰掛ト称スルモノ、如シ、水毒ヲ消シ腹
痛ヲ愈シ打身ヲ療スル妙薬也、此ハ「トウブツ」辺ニテ得
タル辺一塊ヲ同人ヨリ贈レリ 此物箱館ノ薬店ニテ得タルハ「エト
ロフ」許ニアル由、今此島ニモアル
コトヲ知ル、産物ノ一種ニ加フベシ

閏五月八日曇午時疎雨一過 「フヌフ」出船「ウエン
コタン」止宿、行舟七里

地勢 「フヌフ」昨記ノ如シ、同所出船、「ソウヤ」岬ヲ
過テ平地ノ草原砂浜小許ノ灣ヲナシタルアリ、「ソウヤ」
ト云、背後ハ平山樹林鬱葱タリ、十余町ニシテ小沢アリ柳
樹林ヲナス、平沙磯ノ小灣ヲナス、前面礁石平布シ、一細
流後山ノ溪澗ヨリ出テ海ニ注ク、「ネウヌイ」ト云フ、又
行、「グアマル」ト云同前ノ沢也、此辺ヨリ後山高ク聳ユ
ト、然ルニ雲深クシテ見ルコトヲ得ス、十余町ニシテ「ル
ツソサン」、此辺形勢一変ス、岩崖海ニ走り岬端竹筍ノ形
ヲナシタル一大岩石突兀トシテ海ニ臨ム、此ヲ「ルツソサ
ン」岬トナス、岬ヲ過キテ忽一大平沢ヲ得タリ、山遠ク地
平広平磯ノ砂浜ニシテ中ニ草樹繁茂、尤柳木多シ、五六町
ニシテ一川沢中ヲ流レテ海ニ入ル、幅五六間許此川鱒多クノ、
ホルト云フ
川口ヨリ二三町ノ奥南岸ノ小高キ処、樹林ノ間ニ夷家二戸
見ヘタリ、後口山ハ海浜ヲ距ルコト五六町ト思ハル、皆深

樹ノ山ナレトモ雲深クシテ纒ニ麓ヲ見ルノミ、此処ヲ「カ
シポ」ト云フ、行クコト半里許、形勢ハ前ノ如クナレトモ
素浜ノ平地ニシテ雜木林ヲナス、竹藪ノ如シ、又半里許行、
浜ハゴロタ石トナリ木ハ樺林トナル、「キモヲ、ナイ」ト
云、又一里許、海ニ逼リテ山崖崩レ秃山トナル、下ニ小沢
アリ、又行ク、草山ノ趾海ニ突出スル処「シマリヒラ」ト
云、又一里許ニテ平地沙嘴海ニ差シ出タル処ヲ「ノツカ」
岬ト云フ、廻リテ砂浜ノ小灣アリ、「ホロナイボ」ト云、
地広平沢中樺木林ヲナシ山際ニハ榎松並列シ海浜ハ草原也、
後山ノ高キモノハ雲頂ヲ掩ヒ低キハ皆兀々タル尖峯ナリ、
一里余ニシテ小岬アリ、名ヲ失ス、其前面六七町ノ海中ニ
一大岩聳拔ス、「イコツソウ」ト云フ、十余町ニシテ小沢
「レブンケナイ」、又一里許ニシテ大沢ヲ得「トミチシ」
ト云、山海濶ヲ距ルコト五六町、山頂雲横ハリ麓ハ榎・樺
ノ林稠密ス、中間雜木鬱葱、平磯砂路此ノ如キ形勢凡二里
許、其間小沢ニアリ、名ヲ詳ニセス、山尽キテ平林トナル、
其地ノ沙嘴屈曲シタル処ニ一川涯キ出ツ、川口幅五間許、

川身ニ広く小湾ヲナス、船ヲ入ルヘシ、是ヲ「ウエンコタン」ト為ス、上陸シ夷人「サネキリバリ」ノ家ニ宿ス、是日舟行始終丑子ヲ指シ来ルナリ

戸口 「カシポ」ニ夷屋一戸アルノミ

物産 今日過ル処ノ海岸沙上鷺二羽、又「シマリヒラ」ノ海中礁石ノ上ニ水豹六七游フヲ見タリ

氣候 朝五十度、夕五十六度

閏五月九日晴午後曇 「ウエンコタン」出立「コタン

ケシ」止宿、行程十四里許 内陸行一里半許

フシコオブツツ ウエンコタン旧川口 ヤンベトイ

シレトル イマウシナイ フンベランベ チナウシナイ

シヤツコタン トナイボ ウシヤウンナイ コタンウトル

イクシアンコタンウトル オノプロトキ ニートイ

ノテト モエンルモ

地勢「ウエンコタン」ノ地ハ東南ニ面シ、左右ニ沙嘴アリテ浅湾形ヲナシ、「ウエンコタンナイ」西ヨリ来リ、川口

ヲ又東南ニ開ケリ、川広サ七八間許、退潮ノ時ハ浅クシテ小艇ダモ容ルコトヲ得ス、故ニ船ノ出入海潮ノ進退ニ資セリ、川ノ左右ハ草原ニシテ平山其南北ヲ阻シ、其中間二三丁許ノ平地ナリ、川原ハ一円ノ樺・楊樹ノ平林ニシテ遠山其背ニ連亘セリ、其地住夷二戸ニテ川ノ両側ニ居ル、余等カ宿セシ夷家ハ北側ニ在ル者ナリ、午時船ニ上リ川口ヲ出テ、船首ヲ北差東ニ嚮ケ沙嘴ヲ廻リ、平林ヲ沿フテ行クコト二三丁許ニシテ夫ヨリ平山ニ並フ、山腹皆峻峭ニテ草樹之ヲ被ヒ所々赤崖ヲ露ハス、此ノ如キ者一里許リ連続セリ、其間ニ小沢「フシコオブツツ」其次「ウエンコタンナイ」ノ旧川口 案スルニ其支流ノ旧川口ナラント称スル者アリ、既ニシテ山尽キ広沢平林トナル、「シレトル」ト云フ、川アリ、聞ク、今日行路中最大ナル者ナリト、南岸ハ赤壁北岸ハ平林ニテ川口又浅湾ヲナス、沢背数里外ニ高岳崔嵬聳立ス「シレトルノホリ」ト称ス、実ニ「トツソ」以来ノ大岳ナリ、偕又西浦ノ「ライチシカ」ハ此地ノ背ニ当ル由ナリ、此ヲ過キ又椴木立ノ低山ニ循フ、数箇ノ小溪沢アレトモ枚挙ニ勝

へス、一里余ニテ「イマウシナイ」、小沢中ノ稍大ナル者ナリ、猶一樣ノ形勢ニテ半里許モ行キシト思フ所ロノ山趾ニ一帶ノ平林アリ、七八町ニテ「フンベランベ」纜カノ積崖ヲ称ス、此辺ヨリ地形漸次ニ低ク平原椴林トナル、頗ル「ナイブツ」辺ノ岸容ニ似タリ、十余丁ニテ「チナウシナイ」、此辺愈開豁ナリ、夫ヨリ広沢大川アリ、「シヤツコタン」ト云フ「ウエンコタン」ヨリ五里余此ヲ過キ平岡ニ沿フテ行ク、其岡次第ニ高シ、半里許ニテ「トナイボ」、平沢小川アリ、夫ヨリ五六丁ニテ又平岡木立ナリ、半里余ニテ「ウシヤウシナイ」平沢、此辺ヨリ先キノ岡ハ皆削成スルカ如キ赤崖ニテ高サ七八間モアルベシ、些ノ高低ナク繩墨ヲ用ヒシカト疑ハル、岡上ハ椴樹蠹々森立シテ遠ク望メハ竹篁ノ如ク、此ノ如キ一里許リ其末ハ蘚崖トナル、偕今日「ウエンコタン」川口ヲ出テ三箇ノ出岬ヲ望ム、第一ハ「シレトル」、第二ハ「シヤツコタン」、第三ハ此ノ蘚崖ノ極末ニシテ、皆其所ニ至レハ何レカ前ニ望ム者ナルヲ知ラス、思フニ全ク海岸ノ大屈曲ニテ岬ト云フ者ニハ非ラサルカ如シ、此ノ

第三岬ノ如キ所ヲ廻レハ一沢小川アリ、「コタンウトル」ト云フ、此ニ隣ル小沢ヲ「イクシアンコタンウトル」ト称ス「イクシアン」ハ「向フ」ニ在ルト云フガ如シ、夫ヨリ或ハ岡或ハ沢ヲ經過スルコト半里余ニテ「ヲノプロトキ」、是ヨリ又低岡ノ赤壁一里余、其末ハ草崖ニテ遙カニ海面ニ斗出シ、此所初メテ岬ヲナセリ、岬陰ニ平沢大川アリ、「ニートイ」ト云フ、其北ニ沙嘴アリ、此ヲ過ルコト十町余ニテ浜形浅湾ヲナスアリテ波濤稍穩カナリ、此所ニ船ヲ寄セ上陸ス「ウエンコタン」ヨリ十三里ハ、夫ヨリ平山ニ並ヒ砂礫浜ヲ行ク、十余丁ニテ岩岬アリ、「ノテト」名ツク、南方「ニートイ」ノ岬ト対峙一湾ヲナス、夫ヨリ又七八町ニテ一小岬ヲ踰ユ、「モエンルモ」ト称ス、又七八丁ニシテ広沢アリ、一川海ニ注ス、則チ「コタンケシ」ナリ、草原ニ上リ「カネクサアイノ」ノ家ニ投宿ス「ニートイ」ヨリ一里半許ト云フ附録 今日早晨ヨリ番人出船ノ積リ申出タル故一同其支度杯調ヒタルニ、「フヌフ」ヨリ同行トナリシ御雇足輕格「シラヌシ」支配人川上甚三郎ナル者、余等出船ノ由ヲ聞

キ番人へ書状又ハ夷人等ヲ使トシテ、今日ハ風濤荒キユヘ出船ヲ止マル可キ由申来リシユヘ、午後迄見合セタリシカ海面穏静ノ様子ナレバ遂ニ出船ス、川口ハ海潮川水ト戦ヒ頗ル噴騰ノ勢アリシカ、夷人共ハ手馴レタル事ユヘ波ノ絶間ヲ覗ヒ難ナク搔抜ケテ洋面へ出タルニ、果シテ海波緩静ナリ、初メハ「シヤツコタン」辺ニテ止マラント思ヒシカ、格別ノ波濤モナキユヘ「ニートイ」迄至ラント又船ヲ進ム、「コタンウトル」辺ニ至ル頃ヒ、風力次第ニ勁ク高浪汨起シ来リテ船動揺甚シケレハ、此辺一円ノ素浜ニテ船ヲ寄スルコト能ハサレバ、猶「ニートイ」ヲ指シテ行クニ、濛靄俄然トシテ起リ来リ数度海岸ヲ罩籠セリ、已ニシテ「ニートイ」ノ出岬ニ至ルニ、是日南風ニテ岬陽ニ激スルユヘ波濤漸猛悪ナリ、兎角シテ岬陰ニ出タレハ稍穏静ニナリタリ、此岬陰ハ大沢則チ「ニイトイ」ナレトモ川口浪荒クシテ船ヲ入レ難キユヘ、猶「コタンケシ」ニ進ミ船ヲ入ル可シ、彼地ハ住夷モアルユヘ船ヲ引揚ルコトモ大ヒニ安カラント、番人「トーコロ」相談セシ所ニ濛霧ノ間ヨリ望メハ岸上ニ

夷人三人許リ歩行セシアリ、船ヨリ大呼シテ船ヲ引揚シトヲ請ヒシニ彼ハ衣服等ヲ脱キテ其用意ヲナシタリ、夫ヨリ波ノ穏静ナル処ヲ扱ヒ一船ツ、上岸ス、四艘ノ内一艘少シ後レタルユヘ頗ル心ヲ悩マセシニ程ナク是モ岸ニ着タリ、是時已ニ黄昏ナリ、此二船及夷人ヲ残シ必用ノ品許リヲ負担セシメ、遂ニ陸行シテ「コタンケシ」ニ着セリ

戸口 「ウエンコタン」住夷ニ煙川ノ両側ニ居ル、其余今日ノ沿道絶テ一戸ヲ見ス、「トナイホ」ノ沢目ニ「フロツコ」人三四名円小屋ヲ營シ居タリ、其川へ漁獵ニ来ル者カ、又ハ「クシユンコタン」へ交易ニ至ル途中ナルカ、其故ヲ知ラス

風俗 「ウエンコタン」ノ夷家矮小ニシテ「フヌフ」ニ同シ、「シラ、オロ」辺ノ夷家ノ三分一程ナリ、醜穢又甚シ、主人ヲ「サネキリバリ」ト云フ、家内五人許ト云フ、昨夜「タライカ」人一人来リテ余等ニ謁見ス、風俗蝦夷ニ異ナルコトナシ、聞ク、此地へ来リシハ食料ノ草ヲ摘取ル為ニテ四五人許ナル由 此「タライカ」ト云ハ土地ノ総称ニテ人種ハ則蝦夷ナリ、村落ノ在ルヲ「シリマヲカ」ト云、此

夷人ハ其村ニ
居ル者ト云

物産 今日経過ノ地榎最多シ、頗ル良材ナルアリ、溪沢
樺・楊樹多シ、草ハ遠眺ユヘ審カニスルコト能ハス

氣候 朝六十二度

閏五月十日曇 同所滞留

氣候 朝五十二度、夕五十九度

昨日ハ異常ノ事ニテ、召連土人格外ノ骨折ナルユヘ其勞ヲ
慰セン為メ、且海岸波濤モ高キユヘ此ニ滞留ス

閏五月十一日晴 午後一時
半許曇陰 コタンケシ出立シツカ止宿、行
程十里許

オソネンルモ ソウニ ベセト チヤウクレイコタン
メヤフニ エンルンホロナイ オネトウナイ
コチクンネナイ アカシウシナイ ナヨロ トマリケシ
ルエサンオロ ホンモヲケ ホロモヲケ ウエシユハウシ
チカエ リヤウシ

地勢 「コタンケシ」ノ地勢ハ東面シテ海ニ臨ム一個ノ溪
沢ニシテ地面僅カニ凹凸アリ、右ハ再昨経過シ来ル「ノテ
ト」「モエンルモ」ノ二岬、左ハ「オソネンルモ」岬ヲ擁
シテ小灣ヲ為ス、沢中凸処ニ住夷居室ヲ構ヘ、其左側コタ
ンケシ川、「オソネンルモ」ノ方ニ向テ海ニ注入ス、川幅
六間穩流ナリ、背後諸山綿亘セル内ニ最高峻ナル一山ヲ見
ル、首巔覆鍋ノ如ニシテ左右纒カニ下リテ両三個ノ尖峰ア
リ、此山此近辺ニ於テ鉄中錚々ト云ヘキ者ナリ、サテ「コ
タンケシ」ヲ発船シ「オソネンルモ」岬、草崖ニシテ岬上
ハ榎木立ナリ、十数町ニシテ「ソウニ」ニ至ル、此辺断岸
絶壁纒岩突起シ、浜磯地狭ク纒カニ岬碕ノ形モアリ、満潮
高波ノ時ハ陸歩通スヘカラス、既ニシテ「ベセト」岬ニ至
ル、「コタンケシ」ヨリ一里余ト云、此岬「ノテト」以後
ノ大岬ナリ、但シ「ソウニ」岩崖ノ形勢ハ既ニ変換シ、草
崖ニシテ小石浜其上ハ平岡榎木立ナリ、此岬ヨリシテ「ナ
ヨロ」岬ニ至ルハ殆ント四里許ナル一大浅灣ナリ、岸ニ傍
テ行ク、「チヤウクレイコタン」「トマリケシ」ヲ経過ス、

「ベセト」以来平沙ノ磯浜ニシテ岡上ハ元ノ如ク椴木立ナリ、「メヤス」ニ至ル、此ヨリ岡崖草変シテ赤壁ト為ル、而シテ浜辺地面モ亦狹隘ナルニ似タリ、「エンルンホロナイ」ニ至ル、此処赤壁間ニ二町許ノ一沢ヲ挿入セル者、但シ沢ハ甚浅クシテ、其背後ハ一様ノ丘陵樹林ナリ、既ニシテ又一小沢ヲ得ル、「オネトウナイ」ト云、草樹繁殖ニシテ地面稍寛闊ナル平磯ナリ、又変シテ赤壁ト為リ、又変シテ小沢「コチクンネナイ」ヲ経テ稍々平低卑下スル原岡ニシテ椴木立ハ始終変セス、又一小沢「アカウシナイ」ヲ経テ卑下ナル草崖ノ下ヲ過キ、其卑下ノ地勢終ニ極リテ平沢・石磯・砂嘴トナル、此レ「ナヨロ」岬ナリ、「ナヨロ」岬ヨリ回顧スルニ「ベセト」岬午位ニ当ル、此兩岬ノ間畢竟一様ノ形勢、一個ノ長灣ニシテ海岸ハ椴木立ノ丘阜ナリ、且「コタンケシ」以来左側ニ諸山ヲ看過ス、走龍ノ蜿蜒セル者ノ如シ、「ナヨロ」岬ヨリ上陸ス、即チ「ナヨロ」川ノ南岸ニシテ溪沢ノ海浜ニ出タル処ナリ、此処ヲ「ナヨロ」ト称シ漁利アルヲ以テ名着ハル、(ママ)石磯上ニテ午

飯シ、コレヨリ陸行ト定メ、荷物ノミ舟ヲ以テ「シツカ」ニ運送セシム、サテ「ナヨロ」川ヲ渡ル、川幅十間余、但シ舟渡シナリ、一見スルニ川ノ奥モ深遠ナル趣ナレハ、水ノ増減ニ因テ川幅ノ大小変換多カルヘシ、此ヨリ程ナク小岬ヲ廻リ大抵直行北面シテ平坦沙浜ヲ行ク、左側漸々諸山遠カリ、海岸モ丘陵岡阜ナク地勢大ニ変シ、「イシカリ」辺ノ如キ浩蕩漠々タル大郊原トナレリ、「カラフト」ニ渡来セシ以来イマダ如此ノ大平地ヲ見ス、折シモ恨ムヘキハ「ナヨロ」ヲ経去ル以来、煙霧籠罩四塞晦冥咫尺モ弁シ難キ程ニ至ル、時々煙霧ノ薄キ頃、郊原茫茫白茅密茂シ其奥ハ一様ニ満原ノ椴木立ナルヲ見ル、但シ木立トハ雖トモ皆短小ノ木ノミニシテ、是マテ経過セシ路上ノ椴林ノ如ニ非ス、「ナヨロ」ヨリシテ三里モ来リシト思フ頃、霧消シ天晴レ四望豁然タリ、方向ハ始終丑ニ向ヒ来リ、回顧スレハ「コタンケシ」ノ後山未位ニ当リ、ソレヨリ又稍東ニ在テ海面ニ走出ル岬アリ、此ヲ聞クニ「ウエンコタン」「ホロナイホ」ノ間ノ後山ナルヘキ由 帰途実スルニ「ホロナイホ」「ノツカ」ノ海岸ニアル山也、

「ホロナイホ」山ト云トモ「ノツカ」山ト云トモ、又ハ此山「カシホ」迄連続セルヲ以テ「カシホ」山ト云モ可ナリ、要スルニ夷地ハ甚罕レナリ、紀行スル、此等ノ如キ背後ノ諸山ヨリシテ左手者ノ為ニハ一ノ不便也

及ヒ左手ノ差前マテ連山波濤ノ如ク遠近重疊シテ周匝セリ、而シテ残雪麿斑ヲ為ス者多シ、右手ハ大海茫洋タルニ右手ノ差前ニ至テ山見ハル、「シレトコ」ハ此辺ヨリ見ヘサル由ナレハ、其他ノ山ナルヘキハ勿論ナリ、此山丑寅ノ間ニ当リ、此ヨリシテ西ニ連リ大抵亥子ノ間迄繚繞セリ、何レモ二十里外ノ山ナルヘク思ハル、又背後ノ見得ル「ウエンコタン」「ホロナイホ」間ノ後山ハ巳午ノ間ニ在テ、コレヨリシテ前文所謂周匝セル麿斑ノ雪山ナト漸々遠カリテ西北ニ連リ酉戌ノ位ニ至テ尽ク、如此ニシテ右手ノ海面ノ外ハ四方皆遠山見ルニ、独り西北間ノ一隅所謂天門中断スル形ニテ絶テ一小山ヲ見ス、サテ「ナヨロ」ヨリシテ經過スル浜辺只小石又ハ細沙ノ平磯ニシテ毫モ変化ナク、時々小流ヲ渡ル、其水深キ者ハ踝ヲ没シ浅キハ脚底ヲ湿マテノ小流ノミ、其流ノ数ハ「ナヨロ」ヨリ六七町ニシテ一流、又二十余町ニシテ一流、又二里許ニシテ一流、其次ハ六丁許、

又十町許、又十町許、又三町許、又六町許、又八町許、又八町許、又三町許、又一町許、又二町許、又八町許、又六町許ニシテ小流アリテ、通計スルニ十四五流ナリ、最後ノ小流ヨリシテ程ナク「シツカ」川口ニ行当リ、此ヨリ左折シ川ニ循ヒ廻リ、流レ木ノ間ヲ歩シ四五町ニシテ草原ヲ得ル、即チ「シツカ」川ノ南岸ニシテ此処ニ仮廠ヲ作り宿所ト定ム、此処ハ「オロツコ」人ノ部落ナレトモ彼等ノ宅ハ寄宿スヘキ者ニ非ス、故ニ仮廠ニ宿スル也

境界 蝦夷人ノ「クシユンコタン」運上屋支配ヲ受ル者ハ東海岸ハ「フヌフ」マテナリ、「フヌフ」マテノ夷ハ運上屋ヨリ年々人別改ヲ為シ、介抱米ト称シ小兒五歳以上惣人別へ一人前ニ毎日米二合宛遣スナリ、故ニ老幼病人ノ外ハ皆「クシユンコタン」へ呼出シ西海岸ハ「エンルモコ」マフノ番屋ニ呼出ス、獵業

ニ召使フ、且ツ乙名・小使ナト云フ夷中ノ役名アリテ莊屋・百姓ノ姿ニ取扱フモ、「フヌフ」ノ北ニ入りテ「ウエンコタン」「カシホ」「コタンケシ」此三所蝦夷人居レトモ既ニ運上屋ノ介抱ヲ受ケス、且漁業ノ為メニ呼出サル、

事モ無シ、同シク蝦夷人ニテアリナカラ其趣ノ換リタル者ナリ、サレトモ此三所ノ者時アリテ獸皮等ヲ以テ運上屋ニ行キ煙草・米ナトニ交易ヲ乞ヒ、ソレヲ以テ渡セル身上ニシテ詰リ蝦夷人ナレハ、「フヌフ」以南ノ者同様運上屋ヲ仰キ居ル情状ハ異ナル事ナシ、故ニ此ノ「コタンケシ」マテヲ純然タル蝦夷地蝦夷人部落ト云ヘキ也、「ナヨロ」ハ既ニ蝦夷人定住ノ地ニ非ス、又殊俗ノ者住スル地ニ非ス、「ナヨロ」川筋漁利アリ、且「オロツコ」「タライカ」等ノ夷ニ「トマ」「ハー」ナト云フ食料ニ充ル草無キ故ニ、ソレ等ヲ採旁諸夷雜居スル地ト為リ居ル由、然レハ現在ノ事實ニ於テ論スレハ何レノ国ノ領地トモ云ヒ難キ有様ナリ戸口「コタケシ」^(ママ)住夷一戸、即チ「カネクサ」ノ家ナリ、此「コタンケシ」ノ「カネクサ」ト云ヘハ、近辺ノ蝦夷及ヒ「オロツコ」「タライカ」人ナト頗ル畏懼リ居ル由、身ノ丈モ頗高ク容貌豪爽ナリ、元来「カネクサ」ノ父余程ノ猛暴勇悍ナル者ニテ、近辺ノ夷ヲ压倒シ、人ヲ殺害セシコトモ多ク、人皆畏怖シテ近地ヲ避ケテ他所ニ逃走転住スル

夷モアリシ由ナリ、今ノ「カネクサ」ハ如此ノ悪徒ニハ非レトモ、決シテ溫柔平和ナリモノニ非ス、近地ニ在テハ自然ト跋扈シ居ル由ナリ、「カネクサ」妻二人其子五人、都テ八人家内ニテ、此説ハ「ニイトイ」ニ往テ漁業及ヒ草根ヲ掘リナト致シ、拳家残ラス出テ外ニ在リ、本宅ハ戸ヲ鎖シアリシニ、余等ノ宿セルニ付テ「カネクサ」一人及其悴一人帰宅セリ、「ナヨロ」住夷ノ宅ハ一戸モ無シ、サレトモ諸夷漁時ニ来住スル地ナル故ニ仮小屋ナトアリ、今日「ナヨロ」ニテ上陸午飯セシニ、折節此地ニ来居ル「タライカ」人三人、其名ハ「ソリ、アイノ」「トタノサウキリアイノ」「トミシテカアイノ」、「フロツコ」人一人其名「タラベカヌ」、都合四人吾徒ノ前ニ来リ礼拝ス、各葉タハコ聊宛与ヘタリ、此外「ニクブン」人十五人来居テ徘徊セシハ見レトモ、彼等ハ来拜モセサリシ也、「ニクブン」妻女ナト七人来居ル由ナレトモコレハ見受ケス、「タライカ」人モ妻兒両三人来居ルヲ見タリ、「ニクブン」「ルモウ」ノ二夷其本土ハ遠ケレトモ、食料乏シキ故ニ夏中「ナ

ヨロ」「シツカ」「タライカ」ナトニ来リ、漁獵シ食料ヲ得テ其郷ニ帰ル由ナリ

風俗 「カネクサ」宅ニテ其父ヨリ伝来シ家ニ宝蔵セル古キ甲冑二領^{兜ハ一領ノミ} 及ヒ刀劍二口ヲ見ル、其秘蔵セル情

態・風俗惣蝦夷地ニ同シ、甲冑ノ毛付ハ別ニ認置ケリ、

「ナヨロ」ニテ始メテ「オロツコ」人ヲ見シニ、顔色ハ甚

溫柔ニシテ婦人ニ近シ、其坐作進退ハ蝦夷人ニ比スレハ輕

忽粗暴ナリ、頭髮少シモ剃ラス、前項ヨリ髮ヲ左右ニ搔分

ケ後口ニ廻シ、束ネテ三組打ニシテ背ニ垂ル、耳鐙アリテ

更ニ琥珀ノ小粒ナル者ヲ加添テ掛ク、衣服ハ下着ハ木綿ニ

シテ牡丹バセ、筒袖コレハ滿州ノ物、上着ハ蝦夷人ノ服セ

ル「ヨタラツベ」ノ如キ者ニシテ裳末甚広ク、襷積アリテ

僧衣ノ如シ、水豹皮ニテ作ル履ヲ着ス、既ニシテ「ナヨ

ロ」川ヲ渡ル頃ハ彼舟ヲ撐タルニ、吾徒ヲ敬スル意ナルヘ

ク、着替シテ羅脊板ノ如キ地合ノ物ヲ服ス、筒袖ニシテ裳

末ノ広キコト前ノ如シ、亦滿州ノ品ナリ、都テ「オロツ

コ」人衣類山丹持来ノ滿州ノ品ヲ着用スル事多キ由ト、果

シテ然リ、「タライカ」人着服ハ蝦夷ニ同シ、「ニクフ
ン」人接近シテ見サル故ニ詳細ナラサレトモ、「オロツ
コ」ニ異ナラサル様ニ覺フ、滿州製服ノ者アリ、又魚獸皮
ヲ服セル者アリ

物産 「コタンケシ」ノ沢「ヨタラツベ」甚多シ、其他目

ニ触ル樹ハ椴・樺・柳多シ、「ナヨロ」以後ノ原上ハ浜近

キ処ハ草原ニシテ白茆鬱茂シ、二三里奥ニ入レハ前文ニ云

フ如ク一円ニ椴木立ノ短小ナル者ト見ユ、海浜始終昆布ノ

捨タル者多シ、鉄砂ナラント見ケシ浜モ頗多シ、大雕・

白鷗及ヒ小雀ノ如キ鳥多ク見受タリ

閏五月十二日快晴 「シツカ」出立「シリマヲカ」止

宿、行程十一里許

セチヤウレチヤアハ ウトネンチヤ サアゼエイカル

ベツニイカル ブトイ タランコタン ウエチヤロナイボ

地勢 「シツカ」ノ形勢海浜辰巳ニ向ヒ、未ノ方遙カニ

「コタンケシ」ノ岬ヲ望ミ、丑寅ノ方「タライカ」湖畔ノ

諸山ヲ杳靄ノ中ニ見ル、而戌亥ノ間山ヲ見ス、浩漠ナル曠原ニシテ唯天ト際シテ涯無方如シ、「シツカ」川ハ北西ヨリ屈曲シテ流レ、此ニ至テ辰巳ニ向ヒ海ニ注クト云フ、川口ハ幅百廿間許、濁流ニシテ深く緩流ナリ、偕昨日此地ニ着後南岸草原ノ上ニ仮廠ヲ取建ルノ間番人申出ルニハ、此時間ニ「フロツコ」ノ住居ヲ巡見セハ如何ト、依之土人「フロツコ」人ヲ郷導トナシ、小艇ヲ円木 艇也浮ベ「シツカ」川ノ上流ニ遡リ、「フロツコ」ノ住居ヲ一見セント、南岸ニ沿ヒ子丑ニ向テ遡ルコト四五町許、左ニ支川アリ幅廿間許、岸上樹林ノ間樺茸ノ小屋二戸アリ、「ニクフン」ノ漁廠ナリト云フ、前面ニ樹林一帯アリ、低小ニシテ草原ノ岸アリ、「シツナイ」ト云フ、其右ニ又支川アリ、少シ折レ丑ニ向ヒ行ク七八町、此辺ノ川幅二百間モアルヘシ、左ノ岸上樹林ノ中ニ樺茸ノ小屋アリ、空屋ト見ヘタリ、又三四町行テ左ニ支川アリ、幅卅間モ可有、支川ノ上又岐シテ左右二分ル処ヲ「ハツタヲワン」ト云フ、又卯寅ニ向テ遡ルコト二三町、左岸ニ舟ヲ着テ上陸ス、樺・落葉松・五葉松

ノ木立アリ、河辺ノ開ケタル処ニ「フロツコ」ノ夷屋三戸アリ、地名ヲ「ウトネンチャ」ト云、「ソヲツコカヌ」「エモルカヌ」ノ家ニ入テ一見シ戻リテ乗船ス、又上流ニ遡ル、此辺川幅益広クシテ中流ニ洲アリ、遡ルコト三四町ニテ洲尽テ川ノ全身ヲ見ルニ幅凡三町半モ有ラント思ハル、上流ハ亥子ノ際ヨリ来ル、中流ニ流レ木ノ横ハルヲ見ル、瀬深キコトハアラント思ハル、川ヲ横絶シテ東岸ニ舟ヲ繫キ上陸ス、夷家八戸有リ、地名ヲ「セチャウレチャアハ」ト云、夷屋ハ皆丸小屋ナリ、屋外ハ矮小ノ樺木立ナリ、南ノ後条風ノ処ニ委記ス方川ニ沿フテ草原ナリ、夷家ハ河岸ニ並ンテ立テタリ、八家ノ内一戸ハ明キ屋也、頭分ナル「イトミ」ノ家、又舟ヲ搔タル夷人「コイタカアヌ」ノ家ニ立入りテ見ル、夫ヨリ又舟ニ乗り東岸ニ沿フテ下ル、四五町許ニシテ左岸樹林ノ間ニ樺茸ノ小屋二戸アリ、「ルモウ」ノ漁小屋ト云フ、人ナシ、又下ル四五町、左ニ折レテ下ル、四五町ニシテ南岸ニ着キ上陸シ仮小屋ニ帰ヘレリ

今日ハ早朝出立、「シツカ」川ヲ舟渡シ荷物ハ舟ニテ「タラシ」コタン」川ヘ廻

シ、我等ハ陸行シテ同所ニ至リ同所ヨリ乗船ノ積リ 海浜沙場ヲ丑寅二向ヒ行ク、漸々卯二向テ行ク、天氣晴澄稍暖氣ヲ帶タリ、右ニ「コタンケシ」辺ノ諸山ヲ望ミ、左ハ平原曠闊樺・柳ノ林簷ノ如キヲ見ル、「サアゼエイカル」「ベツニイカル」ヲ経テ凡ソ一里半許小川アリ、舟ナクシテ渡ルベカラス、「プトイ」ト云フ、樹林ヲ倒シテ川ニ架シ渡ルコトヲ得タリ、行一里許ニシテ浜辺ニ出、其辺散乱セル流レ寄ノ木ノ上ヲ攀縁シテ行キ、一大川ニ行当レハ「タランコタン」川ナリ 先発セシ船已ニ着岸シテ居、川口ノ幅五六十間アルベシ、濁水ニテ穩流ナリ、卯辰二向テ海ニ注入ス、此ヨリ船ニ上リ川筋ヲ遡リ「タライカ」湖ニ入り「シリマオカ」ニ至ル、川筋ノ形勢、広狭屈曲・支川分流・兩岸ノ樹林草原・水路ノ方向變化大略左ノ如シ、川口兩岸樺・柳ノ樹林ヲナス、戌亥二向テ遡ルコト五六町、川身稍ク広ク幅二町許モアルヘシ、兩岸五葉松尤多ク樺・落葉松林ヲナス、又丑寅二向テ遡ル七八町、川愈大ニシテ其幅三町許モアルヘシ、兩岸ノ奥ハ椴・落葉松ノ高樹密林ヲナス、右岸ノ前ハ草原ナリ、中ニ「フロツコ」

ノ小屋ヲ見ル、左岸ノ林中ニ夷倉ニツツ見ル、行クコト六七町右方匯シテ瀦ヲナス、方六七町許アリ、左岸ニ夷家四戸ヲ見ル、「フロツコ」ノ小屋ト云フ、又寅卯二向テ遡ル四五町、川岐シテ二トナル、寅ヨリ来ル一川幅二町許、子ヨリ来ル一川幅三四町許ナリ、寅ヨリ来ル川ニ遡ル、「ウンネホ」ト云フ、亥二向テ上ル、正面遙カニ一大山ヲ見ル、「ネンコロノホリ」ト云フ、此辺子丑ノ間山ヲ見ス、寅卯ノ際遙カニ山ヲ見ルノミ、行四五町ニシテ川身俄ニ大ニシテ湖ノ如ク幅七八町モアリト思ハル、寅丑二向テ上ル、五六町ニシテ寅卯ニ転シ行ク、川身漸々狭ク幅一町許ニナル、左ハ草原ナリ、蓋シ思フ、大川此辺ニテ分レ、本川ハ左ニ流レ、支川ハ右ニ流レ、中間一大洲ヲナス者、即チ草原中ニ短小ノ樺林ヲ見ル、遡ルコト五町許川又岐アリ、子ヨリ来ル者アリ、卯ヨリ来ル者アリ、卯ヨリ来ル者ヲ「ナアチウ」ト云フ、幅二十間許、此川ヲ遡ル、左ハ葎ノ洲、右ハ椴・落葉松・五葉松多シ、四五町行キ川又岐ス、子ニ向ヒ洲中ノ小川ニ入ル、一町許ニシテ丑寅二向ヒ遡ル、幅

拾間許アリ、六七町上リ丑寅ニ向ヒ又行、七八町ニシテ一
 巨川ノ横流スルニ突当リ、右ニ折レテ卯ニ向ヒ遡ル、川幅
 四十間許アリ、兩岸荻荻ノ中往々樺・柳ノ林ヲ見ル、凡半
 里許ニシテ左方ニ広サ一間許ノ小川アリ、岸ニイナヲ多
 ク立テタリ、「ヲ、シナイホ」ト云、子丑ニ向ヒ上ル、半
 里余ニシテ右ニ折レ、又二間許ノ小川ニ入、兩岸柳樹多シ、
 「ウエチヤロナイ」ト云フ、樹枝下垂シテ時々舟ヲ支撐ス、
 披払シテ過ク、一里許ニシテ岸樹梢開ケタル処ニシテ「ヲ
 ロツコ」漁舟ニ逢フテ、舟子「タライカ」ノ鯽魚ヲ得タリ、
 又一里許ニシテ「タライカ」湖ニ出ツ、茫洋タル大湖ニシ
 テ津涯ナキカ如シ、地勢曠豁ハ言ヲ待タズ、石狩ト頡頏ス
 ヘシ、其西方数里外ニ「ネンコロノホリ」高ク聳へ、山趾
 南ニ走リ、東北遠ク連山波濤ノ如キヲ見ル、蓋シ「シレト
 コ」辺ノ山ナラン、戌亥ノ間ハ平原天ニ接シ、湖水渺々東
 南「シリマヲカ」堤ノ如ク、其上ニ海水雲ノ横フ如ク天ニ
 連リ、天四野ヲ籠蓋スルモノ闊島ノ一大勝景ト思ハル、聊
 旅況ヲ慰ス、右ニ折レテ南岸ニ沿ヒ湖中ノ島嶋ヲ左ニシ卯

ニ向ヒ遡ル、一里半許岸上漁屋ニアリ、「オロツコ」人來
 リ漁ス、又三里許ニシテ東岸ニ着船ス、「シリマヲカ」ト
 云フ、夷酋「ウケウナタラ」ノ家ニ投宿ス

境界 昨日記セシ如ク「コタンケシ」迄ハ運上屋声息ノ届
 ク処、夫ヨリ以北ハ蝦夷トハイヘトモ殊俗各地ニ散居シ各
 部落ヲナス、「ルモウ」「ニクブン」ハ居処詳ニセス、
 「ヲロツコ」ハ「シツカ」川上・「タランコタン」川畔、
 又「タライカ」湖畔ニ散住シ、「シリマヲカ」ニハ「タラ
 イカ」人蝦夷同種一村落ヲナス、但生活ノ為メ川湖或ハ原野
 ニ就キ雜居シ、水草ヲ逐フテ産業トスルモノ故ニ境界ヲ分
 ツコトナシ

戸口 「シツカ」川ニ住スル者ヲ「オロツコ」ト云、「ウ
 トネンチャ」ニ三戸、「セチヤウレチャアハ」ニ八戸、
 「タランコタン」川畔ニ四戸、「タライカ」ニ湖畔「オロ
 ツコ」アリ

風俗 「ヲロツコ」人ハ都テ容貌卑陋ナリ、男夷ハ顔色柔
 和、額広ク鼻低ク眼孔細ク尻下リ眉毛薄ク形柳葉ノ如シ、

頬少シフクレ、口付ハ並、髭鬚無キモノ多、頭髮赤薄ク額
 上ニテ左右二分ケ後頂ニテ三ツ打ニ組ミ垂レ置クナリ、耳
 環ハ銀環ニ瑪瑙ノ玉ヲ付ケタルヲ穿ツコト男女同様ナリ、
 衣服ハ滿州制ノモノヲ着ス、酋長タルモノ始メハ皮服ヲ用
 ヒシカ、我等ヲ郷導スルニ付、宅ニ行キシトキ滿州制ノ紺
 羅沙ノ古手ヲ着シテ出タリ、其製僧衣ノ如ク幅広ニテ裳ノ
 方尤広カリタルモノ、襟ハ合羽ノ如ク右ヘ深く合セ、真鍮
 ノ牡丹掛ケニタ所ニ付テセメタリ、袖ハ筒袖ニテ指先迄掛
 ル様ニシタリ、右前ニ合セテアリ、魚皮・獣皮服モ皆是ニ
 倣ヒテ製作シタルモノナリ、襪ハ水豹ノ皮ノケリヲ用ユ、
 禪ハ幅六七寸、長尺許ナル木綿ノ端ニ、コヤス貝ノ小ナル
 モノヲ並ヒ付ケ、一段二段或ハ三段モ付タルアリ、夫ヲ前
 ニ下ケテ覆フ迄ナリ、女夷ハ容貌男ニ替ハラズ、但頬フク
 レ色白キ程ノ違ヒノミ、勿論柔和ナルコトハ一倍ナリ、都
 テ男女共平顔ニテ下品ナリ、髪ハ額上ニテ左右ヘ分ケ後口
 両耳ノ上ニテ三ツ打ニ組ミ左右ヘ垂レ或ハ結ヒタルモアル
 ナリ、襪・禪都テ男夷ニ同シ、服モ同様ナレトモ裾ニ清ノ

乾隆嘉慶道光杯ノ真鍮錢ヲ並ヘ着テ飾トナシタリ、帶ハ山
 且ノ物ニテ皮ニテ上ニ真鍮ノ紋散シ様ノ飾ヲナシ、其下ニ
 渦卷ノ如ク真鍮ニテ拵ヘタルモノヲ並ヘ下ケテ飾トス、扱
 又女子年ノ頃十四五ナルヘシ、酋長ノ子供ニヤ天鷲絨ノ筒
 袖ノ服ヲ着シケリヲハキ耳環ヲ付ケ、襟ニ青玉・黄玉・瑪
 瑙・水晶ナトノ念珠ノ如ニ拵ヘニ筋ヲ掛タルヲ見ル、又
 三四歳ノモノモ女児ハ必念珠ノ如キ者ヲ襟ニ掛タリ、男夷
 ノ言語アイノニ似タレトモ早言ニシテ舌ノタラサルト云按
 排アリテ更ニ通セス、家屋ノ製作ハ丸太二本ヲ柱ニ立テ棟
 木ヲワタシ、ソレニ丸太ヲ四方ヨリ丸ク立掛ケ、上ニ樺皮
 ヲ覆ヒテ丸小屋トナス、中ニ四本柱ヲ中央ニ立、棚ヲ拵ヘ、
 其下ヲ炉トナシテ火ヲ焚ク、幅一尺五六寸長九尺計アリ、
 土間ハ三間ニ四間ニシテ草ヲ敷テ其上ニ起臥ス、戸口ハ前
 後ニ幅二尺丈ケ四尺計リニ明ケタリ、何レモ同様ノ制也、
 小児ヲ入レ置ク器械アリ、名ヲ「チャクカ」ト云フ小児ヲ縛
シ置クコ
ト当歳ヨリ二歳ノ間ナリ、ヨクアルク時、小児ヲ此ニ結ヒ付置テ、
ヲ以テ「チャクカ」ヲハナツ期トナスト
 啼トキハ其器コト抱ヘテ乳ヲ飲マセ又釣リ置クナリ、此形

林蔵ノ描ク者ト小異ナリ以上、家屋ノ制・チャクカ、ノ制別ニ記シタル図アリ、又水豹ヲ

突ク器械ヲ「トナ」ト云フ、「ヤス」ノ柄ヲ繼テ拾間許ニ

ナシ、河岸ノ水涯ヨリ又股ノ木ヲ立テ追々ト岡へ立並へ其

上ニ右ノヤスヲ架シ置キ、水豹出ルヲ覗ヒテ突出シテ取ル

コト也、「シツカ」ノ川口ニテ見タリ別ニ図ヲ記シ置

物産 「シツカ」川鮭・鱒多シ、鮭モ此節ヨリ取ル、其貌

少シ小キ由、鱒モ昨日川端ニテ網ヲ張タルニ暫時ノ間ニ

三四尾ヲ得タリ、鮭ノ新鮮ヲ是日晚餐ニ供シタリ、「タラ

ンコタン」川モ同断ノ由也、草木ハ樺・椴・柳・落葉松・

五葉松多シ、「ヨタラツペ」「ハー」ナイ(マ)多ク見受タリ

土質 土色「シツカ」ヨリ「タライカ」辺経歴ノ処何処モ

白黄ハミタル土ニテ、樹木ハ成長鬱茂ストイヘトモ草ニ至

ツテハ短小ニシテノビス、曠原氣候ノ故ナルカ、此辺沮

洳多水味尤悪シ

氣候 綿衣一枚ヲ減シタリ、江戸暮春ノ候ニヒトシ、山ヲ

離レテ平地トナリ、南ニ向キタル処ナル故ナラン

閏五月十三日小雨午後曇 シリマヲカ滞留

当地ニテハ一日滞行休憩イタシ度由、召連土人共兼テ願ユ

へ一日滞留ス

地形 「シリマヲカ」ハ「タライカ」湖ト海トヲ前後ニシ

タル平野草叢ニシテ、夷落ハ湖ノ東畔ニ扱在シ、湖口ノ川

ヲナシタル者ヲ前ニシ海ヲ後ロニス海ト湖ト相距ル、コト三丁許ナリ、海浜ハ

南面シテ此ヨリ西方ハ「シツカ」地方ノ大灣ナリ、偕又

「タライカ」湖ノ形勢ハ東西七八里、南北二三里許ト思ハ

ル土人「ワロツコ」人ニ其広袤ヲ質問セシニ、唯「トンナイチャ」湖

ヨリ大ナルト云フ耳ニテ其審カナルヲ得ス、故ニ大概ノ見取ヲ抄挙

スル、湖ノ南北ハ遠山十余里外ニ駢列シ、其西北ノ間ハ只

渺茫タル広漠ノ大野、又一点螺モ目ニ障ル者ナシ、是則チ

「シツカ」ノ濫觴「ルモウ」辺ノ地ト云フ、湖中ニ三小嶋

アリ、「ゲクワモシリ」「ポロモシリ」「ポンモシリ」ト

云フ、皆昨日其近傍ヲ經過セリ、「ゲクワモシリ」ハ長三

丁許リニシテ平丘林樾アリテ稍島嶋ト称スルニ足ル、其余

ハ芦葦ノ小洲而已、湖ノ周圍ハ茅原アリ林樹アリ、其光景

各齊シカラスト雖モ慨スルニ瀾漫涯涘ヲ知ズトモ称ス可キ

平衍豁朗ノ平野ニテ、何ニトナク陽靈發生ノ氣象充塞シ、北蝦ノ辺陲ニモ此ノ如キ良壤アルカト真二人ヲシテ慨然歎惜ノ意アラシムル程ノ地勢ナリ、其ノ此ノ如キ地ニ居民甚少ク、「シリマオカ」ヲ除ク外「キール」「キトー」此二地ハ「シリマオカ」ノ北二里所ニ在リト称スル二所ニ「レボロヲロツコ」ノ小聚落アル耳「レボロ」ハ夷言ニテ「レブン」ト同シ、「レブン」ハ沖ノ義ニテ其居海ニ近キヲ以テ目ス

戸口 「シリマオカ」住夷十煙廩十八アリ、奥地ニハ珍ラシキ大部落ナリ、此ヨリ年々「ノコロ」「シリマオカ」ノ北十里所二三戸、「ホロカチウ」二戸、「ナヨロ」二戸ノ漁場ヲ開ク由、世称シテ「タライカ」人ト云フ者全ク此「シリマオカ」人ニテ、其居「タライカ」湖畔ニ在ルユヘナリ

風俗 「シリマオカ」住夷ハ蝦夷人種ニテ風俗又絶テ異ナルコト無シ、何ノ年此地ニ占居セシヤ、其詳カナルヲ得サレトモ、「コタンケシ」ト本地ノ中間ニ「フロツコ」人ノ雑廁スルコト殆ント奇ト称ス可シ、当地ハ「クシユンコタン」ヨリ甚遠遠ナルユヘ、他ノ土人ノ如ク取テ使役スルコト無シ、故ニ介抱ノ米穀等モ与フルコト無シ、只土人時ト

シテ「クシユンコタン」税館へ謁見ニ至リ、獸皮杯ヲ以テ衣服ヲ貿易スルノミ、故ニ其食フ所ノ物ハ魚獸肉或ハ草根・木実ナリ、服ハ蝦夷同様「アツシ」「ヨタラツペ」ヲ用ユ、又中国ノ綿類モアリ、器物ハ往々山且産ヲ用ユ、衣服モ少シハ用ユル様子ナリ、又矢鏃・釵杯ハ其自製ニ出ツ、其地金ハ釘ノ折レ等ヲ用ユ、此地一種ノ鞆アリ、其製木ヲ以テシ風袋ハ魚獸皮ヲ用ユ、其風ヲ發出スル口ハ木ヲ合セテ筧ノ如クス、長サ一尺五六寸、其風ヲ啣ム所ハ琵琶ノ腹ノ如ク中央小孔ヲ開ヒテ風ヲ吸入ス、側面ハ魚獸ノ皮革ヲ以テ袋ヲ作り是レニ粘着ス、琵琶腹ノ如キ者ノ底下ニ握リアリ、之ヲ用ユル時其上下ノ握リヲ採リテ開合揺動スレハ輒チ風ヲ噴出ス、甚タ陋鈍ヲ極ムト雖モ愚俗ニハ感ス可キ物ナリ、又水豹ヲ刺ス釵アリ、夷語ニ「トナ」ト云、其製落葉松ノ直幹ヲ扱ヒ、其中心ヲ以テ五六丈許ノ長竿ヲ作り、其末ニ釵ヲ結着ス、用法河岸或ハ海浜ニ二又ノ長サ一尺許ナル杭ヲ十余本列植シ、水中ニモ又四五本ヲ植ヘ以テ竿ヲ撃ケ、夷人其竿根ヲ持シ、水豹ノ至ルヲ覗ヒ之ヲ刺スナリ「フロツコ」

人亦之、偕又此地ニ頭目五人アリ、皆閩閩ヲ以テナリ、余ニ同シ。等力宿セシ家ノ主人ヲ「ノキウナタラ」ト云フ、其五人中第二位ノ者ナリ、是夜右ノ五人及ヒ来リ会セタル「ヲロツコ」一人ヲ召シテ、此辺ノ様子等彼是ヲ質問シタリ、何分此土人ハ中国ノ民タル心得ノ様ニ見受タリ、「タライカ」「ヲロツコ」ノ兩種夷ハ雜居タリト雖モ互ニ嫁娶ハ通セズト云フ、○是夜来会セタル「ヲロツコ」人ノ名ヲ「ナカメノ」ト云フ、是又一箇ノ首長ナリ、「ヲロツコ」ノ風俗定マレル酋長ナシ、其豪強ナル者ヲ称目シテ「アツサラカムイ」ト云フ「アツサラ」ハ夷語、事ノ呈露スルコトヲ云フ、「カムイ」ハ神ニテ「アツサラカムイ」トハ名ノ顯ハレシ神人ト云フ義ニテ其、人ヲ稱贊スルナリ、之ヲ以テ其頭目トナス、此「ナカメノ」モ其「アツサラカムイ」ナリ、唯「レボロヲロツコ」ノ地「キール」ニ「チンカンチー」ナル者アリ、是ハ奕世其首長タル由、其主トシテ尊信スル所ノ鬼神ハ別ニ無キコト蝦夷ニ同シ、其至ル所口山川ノ神ヲ祭ルコト又蝦夷ニ同シ、只其屋中ニ数箇ノ木偶ヲ置クヲ見タリ、是又神ノ類ト云フ、其大一尺許ニテ木ヲ刻ンテ人面ヲ作ル、眉目鼻在テ

耳口ナシ、頭頂ニ木幣ヲ植ユ、体ハ水豹皮ヲ以テ襲フ、又人ヲ葬ルニハ其骸ヲ枯乾シ、之ヲ臥棺ニ充レ、地上ニ長サ四五尺ノ柱四本ヲ樹テ、棺ヲ其上ニ掲ケ置クナリ、「シツカ」川側ニテ一箇ヲ見ル、実ニ醜俗ノ極ト云フ可シ、其鱈ヲ挽シムルニハ犬ヲ用ヒスシテ「トナカイ」ト云一異獸ヲ用ユ「トナカイ」ノ形状ハ近世上梓セ、夏秋ノ際ハ野ニ放チ置ル北蝦夷國説ト云フ書ニ出タリ、キ冬ニ至テ之ヲ捉ル由、其之ヲ放ツヤ耳朶ニ標識ヲ注シ置ト云フ、又屋ヲ覆フニ樺樹鱈魚皮ノ綴連セル者アリ、偕此「ヲロツコ」人ハ礼儀等ハ絶テ弁知セサル様子ナリ、物ヲ与ヘシ事モ数度ナリシカ曾テ礼謝ノ状無シ、一人ニ物ヲ与レハ後ヨリ数人隨ヒ来リ与フルヲ待ツ容チアリテ、一二中国ノ乞児・非人ノ如シ、此レ全ク窮ノ然ラシムル者カ、是レ又一箇ノ天民豈憐ムニ勝ンヤ、其余ノ事件等ハ皆前日ニ在リ略ス、「レボロヲロツコ」「キール」ニ六戸、「キトー」ニ三戸アリ、是皆「ヲロツコ」ニテ蝦夷ノ「タライカ」在ルカ如シ

物産 「タライカ」湖鯽魚ヲ産ス、大サ一尺二三寸ニ至ル、

味頗ル美ナリ、昨日「ウエチヤロナイ」川中ニテ余等カ召連シ土人共、葉煙草一把ヲ以テ其鯽四連ヲ「ヲロツコ」人ヨリ買取セリ、一連毎ニ二十余頭アリ、魚賤如土ト云フトモ可ナリ、湖中水豹モ在リ、又「エウベーカーシ」ト云魚ヲ産ス、大サ二尺許形チ鱸ニ似テ瘦ス、鱗面水豹ノ如キ黒斑アリ、甚珍奇ト云フ可シ、番人晩食ニ供シタリ、味少シ鱈ニ似タル様ニ覺ヘタリ

氣候 昨日ヨリハ差冷カナル方ナレドモ、「シツカ」以来ハ衣一重ヲ減シタル程ノ燠暖トナリシ也

閏五月十四日雨 「シリマオカ」出立「コタンケシ」

帰宿、行程十六里半許

タライカボチー ヲブコトボ トーブト ニクノシケ

ナイボヲマイ ハツマヌブ タランコタン 中略 シツカ同

ナヨロ

地勢 早晨「シリマオカ」ヲ出船、「タライ」湖ヲ右ニシテ申酉ヲ指シテ湖口ヲ下ル、此川ヲ「タライカボチー」ト

称ス、此所広サ二丁半許、兩岸茅原ニシテ矮短ノ五鬣松叢生ス、其ヨリ十余町ニシテ川身漸ク闊シ、左リニ匯シテ小潢ヲナス者アリ、「ヲブコトホ」ト云フ、夫ヨリ一里許リ行クコト川又次第ニ狭ク、其間小屈折ナキニ非スト雖モ、申酉ノ間タニ出テズ、已ニシテ忽チ左折南面シ川口ニ出ツ、是ヲ「トーブト」トナス、是ヨリ又申酉ヲ指ス、浜容南面ナリ、岸上ヲ流覽スルニ一様平闊ノ草原ニシテ、海浜ヨリ一二里許リ後ロノ方ハ一円ノ翠樾ニテ又他ノ変化ナシ、沿フテ行ク、「ニクノシケ」ヲ過キ「ナイボヲマイ」原中ノ凹窪沢形ヲナシタル者ニテ細流アリ、夫ヨリ「ハツマヌブ」ノ小川ヲ過キ「タランコタン」ニ至ル、「シリマオカ」ヨリ五里半許ナリ、来路ハ「タランコタン」川ヲ遡リ「タライカ」湖ニ入り、夫ヨリ「シリマヲカ」ニ至リシユヘ行程十余里ナリシガ、今日ハ其半道ナリ、夫ヨリ形勢都テ来时ニ記セシユヘ亦更ニ煩録セス、二里許ニシテ「シツカ」川口ヲ経、又一里半許ニシテ夫ヨリ陸行「ナヨロ」ニ抵リ、又上船昏黒「コタンケシ」ニ達ス、再「カネクサ」

ノ家ニ宿ス

附録 「タランコタン」ノ十余丁許前ニテ、佐倉衆ノ「タライカ」ニ行クニ逢フ、今日「シツカ」出立ノ由、「ナヨロ」ニハ川上甚三郎滞溜ニテ余等ヲ出迎ヘタリ、是ハ彼是差支等アリテ此ノ如ク遅延セシ也、「コタンケシ」ノ「カネクサ」同人ヲ送り来リテ此ニ居ルユヘ、余等ハ是ヲ雇フテ遂ニ出船セリ

閏五月十五日 コタンケシ発船フヌフ投宿、海程二十

里許、晴天有時微雨

地勢 「コタンケシ」ノ形勢ハ去ル十一日記スル所ノ如シ、夫ヨリ「フヌフ」ニ至ル海岸形勢ハ去ル八日九日記スル所ノ如シ、且採摘シテ遺漏セル者ヲ言ハ、来時ハ陰翳ニシテ今日ハ朗晴十ノ七八ニ居ル、故ニ稍海岸背後ノ諸山ヲ見得ルコト来時ニ勝レリ、来時ニ「コタンケシ」背後ノ山ト称道セシ者、今日熟視スレハ「ニイトイ」川ノ上流ニ在ルニ似タリ、姑ク「ニートイ」山ト称スルモ可ナルニ似タリ、

且此山ノ南ニ巔ヲ並テ屹立セル一山「ニイトイ」山ニ一輪着スレトモ、亦復一巨嶂ト云ヘシ、又「イクシアンコタンウトル」「コタンウトル」ノ両沢来時ニ夷人ノ告シハ偶誤言セシニテ、今日詳カニ詰問スレハ「ニートイ」ヨリ始テ得ル大沢ヲ「イクシアンコタウトル」ト云、其次ニ得ル大沢ヲ「コタンウトル」ト云、其次ニ「シヤツコタン」「シントル」、此四個所ヲ以テ「ニートイ」「ウエンコタン」ノ間ノ大沢トス、而シテ其広狭異同ノ次第ハ「シヤツコタン」第一、「イクシアンコタンウトル」第二、「コタンウトル」「シントル」第三四ニシテ、相頡頏スル者ナラシカ、又「ニートイ」山以後「ウエンコタン」辺ニ至ルノ間、海岸ニ近キ高山ナク、只来時ニ見シ「シントル」ノ奥遙カニ一孤嶂突然崛起シ、或ハ「ライチシカ」山ナラント云シ者ノミ、「ウエンコタン」ヲ過キ「ホロナイホ」「ウエン」コタン^ヨニ至リ、巍然巨嶺ヲ得ルコト夥シ、其最タル者^二里半許^一首嶺尖リ頸肩以下四方ニ迸走シ、或ハ比々稜角ヲ為シ、或ハ蜿蜒円形ヲ為シ、或ハ平直屏風ノ如キ所モアリ、此山脈

ヨリ兩三個尖銳峻峰聳起スル者アリ、既ニシテ稍々草樹ヲ戴ク円形ノ嶺多ク、其連綿接続スルコト「カシホ」ニ至テ止ム、「カシホ」以南又山アレトモ前ニ所云奇形ノ諸山脈

理「カシホ」川ニ至リ中断スル、故ニ「カシホ」ニ至テ一タヒ止ムト云テ可ナリ、サテ前ニ云フ、諸山來時ニ「シラ、オロ」辺ヨリ「トツソ」ノ右ニ見得テ標的シ、「シツカ」「タライカ」辺ニ至リテモ回顧シテ標的トス、南北数十里外ニ着明ナル山ナリ、「ホロナイホ」山トカ、「ノツカ」山「ノツカ」岬上ニアル故トカ、「カシホ」山トカ云テ可ナルヘシ、「カシホ」以後「ソウヤ」岬ノ辺奇形ノ山巔モナケレトモ、其山皆低平ナラス、「フヌフ」ニ近ツク頃ヨリシテ稍々陵夷スル也、此余來時ノ記アル者再録ヲ用ヒス、今日投宿モ來時ノ如ク「シンコクサ」ノ家ナリ、但シ「シンコクサ」ハ川上甚三郎ニ隨行セル故ニ家ニ在ラサル也

氣候 朝五十度、晡時ハ檢看スルヲ失ス、「コタンケシ」以北ノ路ハ身ニ附スル者ノ外、一個ノ荷物ナキ様トテ、諸品皆「コタンケシ」ニ残シ置ク、寒暖測器モ亦携ヘ

ス、故ニ「シツカ」「シリマオカ」寒暖実測スルコトヲ得ス、「コタンケシ」ニ還リテ檢看旧ノ如キ也

閏五月十六日朝曇午後快晴 「フヌフ」出船「マアヌイ」止宿、行程十一里余

地勢 「フヌフ」以來ノ形勢都テ來時記スル所ノ如クナレハ又更ニ再録ヲ用ヒス、唯「ノポリホ」以來「チトカンチシ」岬ニ至ルノ諸山、來時ハ諸山雲霧ニ遮蔽セラレテ見得サリシカ、今日快晴ニテ其全体ヲ見ハシ、山巔ノ奇狀ヲ見ルコトヲ得タリ、「フヌフ」ヨリ「マクンコタン」ニ至ル、漸々山勢高ケレトモ敢テ奇トスヘキモノナシ、「ノポリポ」ニ至テハ山頗ル大ニシテ、四五峯ヲ合聚シテ一巨岳トナスモノ也、就中右方ノ一峯童然タル秃峯ニテ尤高ク、而シテ余ノ三四峯ハ左右ニ並列シ、其峯ハ皆岩骨稜々トシ、其麓ハ蒼樹鬱茂スル也、其趾尾ハ平低ノ丘阜トナリ、遂ニ平沢トナリ、沢中樺・柳ノ木立ナリ、海浜ハ平砂磯ニシテ海滋ヨリ海中ニ平坦ノ暗礁砥ノ如ク、潮水其上ヲ往來シ、

凡ソ海中ニ布クコト七八町所々至リ、一帯ノ礁石トナリ累々トシテ長サ半里許横ハリ、自然波堵ヲナス者ノ如シ此平布ノ礁石間ニシテ夷人比目魚、是此山ノ大形勢ナリ、此ヲ突得タルコト、暫時二数十尾ナリ、是此山ノ大形勢ナリ、此山南シテ突岨山ニ連接ス、偕突岨ノ山勢ヲ見ルニ山容峻険高大ニシテ、其高サヲ目測スルニ直立ニ三百丈モアルヘシ、幅広サ一里許、海ニ臨テ嶄立ス、山巔最高キ者一大巖石ノ鋭峯突起、衆峰ノ上ニ騫出ス、其鋭峯ニ支アリ、一ハ高ク一ハ稍低、遠望スレハ長短双立シ、正面ニ至リ見レハ全ク一峯トナル、半腹ヨリ上ハ巖峯稜々尖リテ劍山ノ如シ、右方漸次二下リテ忽一峯突起シ肩ヲ張ル形アリ、左方ハ次第ニ下ル中、尖峯竹筍ヲ並列スル形チ連綿低下シ、遂ニ平低ノ山トナル、其全容ヲ遠望スルニ数峯ヲ聚合疊累シテ一大山トナリ、各峯皆破裂シテ植劍ノ如ク見ユ、半腹ヨリ巔ニ至ル青蒼ナル者ハ草芝ニシテ、赭色ナルモノハ巖石ナルヘシ、半腹ヨリ下、蒼樹鬱茂タル間巖巉峨々崔嵬タルモノ断続ス、其麓海ニ接スル処、削壁千仞險絶畏ルヘシ、而シテ海深ク水色藍ノ如ク浩波巨濤岩根ヲ打テ怒嘯ス、実ニ東浦

第一ノ難所ト云フヘシ、又第一ノ奇山ト云フク奇景ト云フ(ハ脱カ)ベシ、今日経過セシ時ハ、海波穩ニ山容モ亦時氣ニ依テ自ツカラ險ナラス、唯奇観ナリトシテ航過セシナリ絶壁間、懸瀑数道アリ、然レトモ可称、聞是ヨリ先「シリマオカ」地方ニ至ルモノ「二ト思ハル也」、是ヨリ先「シリマオカ」地方ニ至ルモノ、皆突岨ノ險ニ阻セラレテ、僅カニ五日程許ノ所ヲ半月或廿日、一月モカ、ルコトト云フ、然ルニ我輩ハ風順ヨク「マアヌイ」ヨリ「シリマオカ」迄往来九日許ニシテ、此難処ヲ一葉ノ扁舟ヲ以テ容易ニ打越シタルハ多幸ト謂フヘシ、番人・土人皆欣々喜意アリ、「ニライ」ヲ過キテ数里「チトカンチシ」ノ岬ニ至ル間ノ諸山ハ大抵峻険ナラス、然レトモ海岸ニ臨ム所ハ何レモ数仞ノ絶壁懸崖ニシテ、船ヲ寄スヘキ汀モナシ、既ニシテ「チトカンチシ」岬ヲ廻リテ湾ニ入ル、此湾ハ「チトカンチシ」岬ト「シラ、ヲロ」ノ「リサラキノホリ」岬ト対シテ弓形ノ湾ヲナス也、湾中「ワアレ」「ヲハコタン」「マアヌイ」ノ村落アリ、各又小湾岬ヲナス、而シテ「ヲハコタン」ハ中心ト云フヘシ、扱「ワアレ」ノ海浜ニ着船シテ上陸ス、此地三面山圍ミタ

ル村落ニシテ沙嘴ニ夷屋一戸アリ、沙浜ニ沿ヒ山嘴ヲ廻リテ「ヲハコタン」ニ出ツ、平岡上ニ夷屋一戸アリ、夫ヨリ山ニ登ルコト二町許、草菜ノ間ニ小祠ヲ建ツ、是ハ先年堀鎮台ノ勸請セラレシ鹿島ノ神社ナリト云フ、又海浜ニ出テ行クコト数町ニシテ「マーヌイ」ノ村落ニ至リ、川ヲ渡リテ草原中ノ夷家「イタツコヤンコ」ノ家ニ宿ス
氣候 五十三度、晩ニ丑寅ノ風起リ氣候俄ニ變ス、夜寒襲衣猶寒ノ凜冽ナルヲ覺ユ

閏五月十七日澄晴晚際陰霾 同所厄行

是日出立ノ積リナル処、西「トンナイ」租館ヨリ出セシ役夫等、「クシユンナイ」川上ニ到リ居ラザレハ、通行シ難キユヘ人ヲ馳セテ余等力昨日此ニ着セシヲ知ラシム、故ニ今日此滯留ス

地勢 「マーヌイ」ハ「シラ、オロ」ノ岬背、北方「ワレ」ノ岬ト対峙シ大灣ヲナシタル其極底ニシテ、左リハ「ヲハコタン」ヲ界セル小岬アリテ、其傍ラニ「マーヌ

イ」川流出海ニ注ス、右ハ一個ノ灣形アリ、然レトモ浜浦都テ波濤惡ニテ且淺磯ナルユヘ輿港トナス可キ者ニ非ス、其地ハ東差南ニ面シ南北ニ平山ヲ擁ス、其中間十余丁ノ平沢ニテ、背後ハ一樣蒼蒼ノ蝦松林連続シ一小丘モ見ヘザル也、夷屋ハ川ノ兩側ニ在リ、余等力宿セシハ其右ナル者ニシテ、屋後数十歩所ニ広延二丁許ノ小沼アリ、其形状川ノ匯入セル者ノ如シ、想フニ「マーヌイ」川ノ曲流海沙ニ川身ヲ中斷セラレシ者力、大抵是ヨリ北「ナヨロ」ニ至ルノ間此ノ如キ広沢ハ見ルコト無シ、宜ナリ其東西往来ノ一路逕ナルコト

戸口 此地住夷四戸ニシテ、二戸宛分レテ川ノ兩側ニ在リ物産 「マトヌイ」川鱒其外雜魚多シ、番人鱒ヲ納シ食時毎ニ之ヲ供セリ、蓋シ未タ其候ノ適宜ニ非ラスト雖モ此ノ如シ、鬪ヒテ漁場トナサバ其利又鮮少ナラス

氣候 朝四十四度、夕五十六度、今朝八十余日以来覺ヘザル寒冷ナリ、夜分又然リ、是日天色殊ノ外澄朗ナリ、蓋シ北風ナリシ故カ

閏五月十八日晴 「マーヌイ」出立「クシユンナイ」

止宿、行程十二里余 内川船
六里余

ワツカフレナイ バンゲンワツカフレナイ ウエウレヌタ

ルペシポチャラ ウンネタウシ チベヤニ ハフヌ

ハフヌフンキ カーマナイホ モフンキ ヌイホンナイ

ヌイホンナイフンキ リウケシトントエ シルチ

チトカンニ チヘヤニ シユウンクヲマハツタラ

ベンキウフナイ ハンキウフナイ

地勢 此韓羅布刀島ニ東西開通ノ道路四条アリ、今日越ル

者ハ南ヨリ数ヲ起シ其第四ニ居ル者ニシテ、其關開尤古キ

者ナリ、且此ノ山路ハ本島中東西浦ノ最狭マリシ者ト云フ、

早ニ夷船ヲ「マーヌイ」川ニ下シ、西ヲ指シテ之ヲ遡行ス、

川幅ハ六七間漸遡リテ漸ク闊シ、七八丁ニシテ方ニ南ニ転

セントス、北岸小支流アリ、「ワツカフレナイ」ト云フ、

此辺ヨリ以往ハ兩岸陰鬱ヲ蝦松林ナリ、川勢曲折多ク甚シ

キニ至リテハ時々東南ニ向フコトアリ、四五丁ニテ南岸支

流「バンゲワツカフレナイ」ト称ス、夫ヨリ十余丁北岸林

樹ノ稍開ケタル在リ、「ウエウレヌタ」ト云、半里許ニシ

テ南岸小川「ルペシポチャラ」ト云フ、右ノ三条皆東流シ

テ此川ニ合同ス、其余五六派織流アレトモ採録ニ足ラサル

者ナリ、夫ヨリ上ルコト一里余川幅次第二狭ク五六間許リ

ナリ 是ヨリ前路ニ八四五、
間ノ所モアリシナリ、南岸ノ林莽中ニ連岡延亘ス、川

源ノ方ニハ初テ蝦木立ノ連山ヲ出セリ、夫ヨリ北岸上頗ル

豁朗ノ地アリ、「ウンネタウシ」ト云フ、夫ヨリ半里余ニ

テ前ニ望シ連山直チニ南岸ニ側立、水面ヲ圧セリ、此辺ヨ

リ川水極テ浅ク船濇泥シテ進マス、舟子械ヲ以テ棹トナシ、

僅カニ刺シテ能ク行ク、其間又半里許ニテ遂ニ北岸ノ「チ

ヤベニ」ニ上ル、此地ノ本名ハ「ハフヌ」ト称ス 「チベヤ
ニ」ハ夷

言船ヲ上ル所、
ヲ称スト云、「マーヌイ」ヨリ三里許リナリ、是ヨリ陸

路ヲ取ル、蓋シ是ヨリハ川モ浅ク且南方ニ転入スル故ナラ

ン、大抵此川船路ヲ直径ニナサハ纔ニ一里余ナラント思ハ

ル、也、偕平沢ヲ行キ漸ク蝦木立ノ嶺ニ上ル、「ハフヌフ

ンキ」ト云フ、嶺上都テ密林ニテ絶テ矚眺ナシ、路逕踳躓

行歩頗ル勞ナリ、半里許リニテ「カーマナイボ」ノ溪澗ヲ
 踰エ「欄外」「チヘヤニ」ヨリ「カーマナイボ」迄一里半
 許ニテ、其地平山密林ニテ仮小屋ニ軒許アリ、溪澗ハ其西
 ニアルナリ、「モフンキ」ノ一嶺ヲ度リ広平ノ沢中ニ下
 ル、楊・樺ノ疎林ナリ、小川アリ、掲厲シ又嶺ニ上ル、登
 路頗浚滑ナリ、其沢ヲ「ヌイホンナイ」ト云ヒ、嶺ヲ「ヌ
 イホンナイフンキ」ト云フ、夫ヨリ溪澗源泉ニ循フテ行ク、
 「リウケシトントエ」ヲ過キ「シルチ」又幽寥ナル溪谷ナ
 リ、是地此山道ノ中央ニ在ル由、夫ヨリ又山上林中ヲ行ク
 コト一里許ニシテ「チトカンニ」、路傍ニ巨大ノ朽木横倒
 セル在リ、其面ニ矢鏃數十ヲ射立居ケリ、之レヲ問フニ往
 年夷人之レヲ過レハ、怪異ヲ圧勝ノ為メ矢ヲ射立テシト云
 フ、其側ラニ木幣ヲ樹タリ、已ニシテ大沢ニ下ル、沮洳卑
 湿ノ地ナリ、其間殆ント一里許リニシテ一巒ヲ踰ヘ狭溪暫
 ク行キ阪上ニ登ル、上ミ都テ平地ニテ陰翳ノ蝦松林ナリ、
 半里許リニシテ「クシユンナイ」川ノ南岸ニ出ツ、仮廠ア
 リ、是又「チベヤニ」ト云フ、「マーヌイ」川上ノ「チベ

ヤニ」ヨリ六里許リト覚ユ、此ノ地川ニ面セシ方西北間位
 ニシテ川ヲ隔テ、連山アリ、是ヨリ又艇ニ上リテ川ヲ下ル、
 南岸ハ連巒アリ、北岸ハ一円ノ平林ナリ、此処川幅十四五
 間、其屈曲多キコト「マーヌイ」川ニ異ラス、兩岸楊樹林
 ニテ枝条水面ニ蘸セリ、半里許ニシテ右ニ小洲アリ、七八
 丁ニシテ南岸ノ椴木立山聳立水ニ臨メリ、又十余丁ニシテ
 兩岸林樹遠カリ、地勢開朗ナリ、又一里許ニテ北岸ニ又山
 アリ、此所川ノ曲流セル所ニテ流勢甚鈍遅ナリ、此辺ヨリ
 川幅二十余間トナレリ、左右茅原ニテ光景益豁然タリ、既
 ニシテ漸ク川口ニ近ク、南岸支流「ペンキウフナイ」ト云
 フ、其末滞蓄小沼ナス者ナリ、夫ヨリ五六丁ニテ北岸ノ支
 流ヲ「ハンキウフナイ」ト云フ、此ヨリ兩岸ノ連山相距ル
 コト二里余ナリ、夫ヨリ南転スレバ忽然トシテ四望明快ナ
 リ、五六丁ニシテ遂ニ「クシユンナイ」南岸ニ達シ仮廠ニ
 宿ス、川船是又三里余ナリ

附録 是日、元ト「カーマナイボ」ニ宿スル心組ナリシガ、
 其地ニ至リシハ未タ午時ナレハ、尚「クシユンナイ」川上

ノ「チベヤニ」ニ宿セント、又進行シ「チベヤニ」ニ達スレハ「クシユンナイ」ヨリ川舟及ヒ番人等廻リ居且ツ未タ晡時前ナレハ、又上舟シテ遂ニ「クシユンナイ」ニ達セリ、真ニ意外ノ幸ト云フ可シ、偕又山道ハ蚊ノ夥シキコト言ニ尽シ難シ、暫時休憩ノ間モ二三ヶ所ニ焼火ヲナシテ之ヲ凌キタリ、六七月ニ至レハ又是レニ倍スト云フ、蓋シ深林陰幽、水沢湿流ノ故カ、此ノ如キ寒地ニ思ヒ付サルコトナリ、故ニ今夜山中ノ仮宿如何ナル艱苦ナラント思ヒシカ、料ラズモ一日ニ立越シ「クシユンナイ」ニ至リ見レハ、仮屋モ闊大浄潔ニテ、余等着スルヤ否ヤ番人共湯杯ヲ持来リ、手足ヲ洗ハシメ初メテ夷屋腥臭ノ氣ヲ一掃シタリ

物産、山道都テ密林ニテ些ノ間断ナシ、其品ハ蝦夷松殆ント十ノ八ニ居ル、長大ナル者多シ、其余ハ樛・樺・楊多シ、草ハ木賊・款冬・「シヤク」「コシヤク」「ニヨー」等多シ

氣候 測器朝五十二度、夕五十六度

閏五月十九日 「クシユンナイ」発船「ライチシカ」

湖口繫泊、行程十六里

コモシラナイ イトリナイ ノサムウ エビシ モイビシ
アシネエンルモ ロクシナイ オタクルマナイ オタシウ
地勢 「クシユンナイ」ノ形勢南北径リ半里近アルヘキ大
溪沢ニシテ、西戌ニ向テ海ニ臨ム、而シテ沢ノ深奥ナルコ
ト河流ヲ以云ハ、程遠キコトナレトモ、平地豁然原沢タル
所、東ニ入ルコト十町余ニシテ、「クシユンナイ」川ハ沢
ノ中央ヨリハ頗ル南ニ在テ西面シテ海ニ注入ス、住夷二戸
及ヒ土人通行ノ為メニ設ル仮廠河ノ南岸ニ在リ、其又南即
チ夷宅ノ背後ニ小沼アリ、其又南奥ニモ頗ル寛闊ノ沼アル
由、コレハ目撃セサル也、サテ舟「クシユンナイ」川口ヲ
出テ、右ニ折レ行キ、草崖ニ傍ヒ過クルコト十余町ニシ
テ、曠闊ノ一沢ヲ得ル、「コモシラナイ」ト云フ、イマタ
此沢ニ至ラサル数町前ニ、海浜ニ夷小屋二棟ヲ見ル、常住
ノ夷アルニ非ス、「クシユンナイ」住夷ノ漁時ニ「コモシ
ラナイ」ニ来居ル為メノ者ナル由、此沢ヲ過キテ僅カナル
一岬「コモシラナイ」岬ナリ、此岬ヲ廻リ行數町、又一沢

アリ、「イトリナイ」ト云、「クシユンナイ」以来堤形ノ草崖ニ傍フ、崖上平山楸林ナリ、「イトリナイ」ノ沢奥ニ至リ稍高峻ノ山両三峯ヲ見ル、此次ノ岬「イトリナイ」岬ト云ナルヘシ、要スルニ前文両三岬誠ニ僅々タル崎嶇ナルノミ、舟首ハ始終子差丑ヲ指シ行ク、前面ニ当リ遠山高低波濤ノ如ク横ハル、其最遠ク最海面ニ迸走シテ聳起スル大嶺「イサラ」山ナル由、戌亥ノ間位ニ当レリ、又亥子ノ間位ニ当リテ、巍然覆鍋ノ如ク最巨大ナル者「ライチシカ」山ナル由、諸山孰レモ残雪斑然タリ、偕右側ノ草崖漸々低下シテ、走蛇ノ如ク海中ニ斗出スル処ニ至ル、「ノサムウ」ト云、岬頭ハ草茅平陵ナレトモ岬腹ハ稍巉岩突兀タリ、「クシユンナイ」ヲ発セシ以来、此ヲ大岬トス、又行一里余ニシテ一溪沢「エビシ」ト云、頗ル湾曲底ノ姿アル処ナリ、土人通行ノ為メニ設ル仮小屋一個ヲ見ル、此処川幅幾何ナリヤ、見取ルコトヲ得ス、既ニシテ地勢変スルコトナク、草崖ノ上平陵幅員益寛ニシテ青氈ヲ敷ク如キナリ、岸ヲ距ル数町ノ海中ニ礁岩突出スル者二所、「レフソウ

ヤ」ト云、「エビシ」ヨリ一里半許ニシテ得ル一沢ヲ「モイビシ」ト云、此レ亦沢奥ニハ稍高キ遠山ヲ見ル、又半里余ニシテ「アシネエンルモ」岬ニ至ル、此岬「ノサムウ」ト匹敵スル大岬ナリ、而シテ形勢ハ草崖ニシテ崖高カラス、崖上殆ント平地ノ如キ寛豁原陵ナリ、岬ヲ廻リ六七町ニシテ小湾底一沢ヲ得ル、「ロクシナイ」ト云、川幅二三間ニシテ北岸ニ住夷一戸ヲ見ル、此ヲ問フニ純然タル住夷ニ非ス、「ライチシカ」夷人ノ漁時ニ来居ル者ナル由、又小岬ヲ廻リテ亦一小沢「オタクルマナイ」ト云、此辺ヨリシテ前文草崖稍高峻ト為ル、崖腹秃シテ赤色岩石ヲ見ハス処ニ至ル、此中黒色ヲ点スル者多シ、近ツキ見レハ皆石炭ナリ、既ニシテ小岬ヲ経テ又故ノ如ク草崖トナリ、地面漸々卑低シ沙礫亦甚寛闊ナリ、又平坦地勢中ニ一沢ヲ得ル、「オタクシウ」ト云、川幅三間許夷小屋一個通行家三棟ヲ見ル、通行家ハ蓋シ往日堀氏・向山氏ナトノ為メニ設ル者ナラン、今ハ荒廢甚シ、夷小屋ハ此処モ「ライチシカ」夷、鱒漁ノ時ノミ来居ル由、此ヨリシテ地勢変態ナク、沿海地面愈平

坦ニシテ幅員モ甚広闊ナリ、殆ント「イシカリ」「ユウフツ」辺ノ類ニシテ小ナル者ナリ、而シテ其背後ノ連山ハ「クシユンナイ」辺ニ比スレハ頗ル高峻ナリ、同地勢三四里經過シ、右折シ東北面シテ一巨川ニ入ル、此レ「ライチシカ」湖口ノ水ノ海ニ注入スル処ナリ、今日針路初メハ子差丑ヲ指シ、後ハ子亥ノ間ヲ指シ来ル、既ニ川ニ入り三町許ニシテ左岸ニ船ヲ繫キ船中ニ一宿ス

附録 今日乗組シ舟ハ「エンルモコマフ」番屋ヨリ差出タル者ニシテ、士人廻浦通行ノ為ニ一隻營造シアル通行船ト唱ル者ナリ、東浦通行中ハ海路ハ始終蝦夷船ニテ、其製一箇ノ円木ヲ鑿剗シテ船形ニシ木ハ柳ナリ、左右ニ幅七八寸或ハ一尺許ノ板一枚ヲ加添綴付タル俣ノ者ニシテ、風波ナキ時土夷三四人ニテ一船ヲ搔漕スレハ、一日ニ拾里許モ經過スル捷便ノ者ナレトモ、イカニモ一個ノ木葉ノ如キ小船ニテ動揺甚シク、船中ノ者僅カニ身ヲ左右スレハ從テ船亦左右傾欹ス、故ニ窮屈ナルコト甚シカリシニ、今日西浦ニ出レハ長七八間、幅モ広キ処ハ九尺余アル寛裕ノ船ニ乗リシ故

ニ、各意外ニ出テ千石積ノ船ニモ乗タル心持ナリ、但シ此船ハ「エンルモコマフ」ニ於テ僅カニ一隻アルノミノ由、然ルヲ通行多キ時節ニ此好船ヲ余等ニ供億セシハ如何ナル情景ヨリ出タル事ニヤ、全ク吾公ノ御威光ナルコト勿論ナレトモ一同恐懼ノ情アルナリ、佐倉侯ノ衆モ必ス三四日中ニ来ルコト故ニ、其為メニ備アル船ハ如何ト「クシユンナイ」ニテ問ヒシニ、此船ナリトテ一船ヲ示ス、其船ハ余等ノ乗タル船ニ比スレハ聊小ニシテ俄ニ取付タル屋形船ナリ、其品格吾等ノ乗リシ者ニ比スレハ一等下ルニ似タレトモ、既ニ同様ノ者ニ隻ナク、且番屋ヨリ此船ヲ誰へ、此船ヲ誰へト定メ来リアル者ナレハ、ソレヲ引替ルコトモ為リ難ク、終ニ右ノ船ニ乗組タル也、関宿侯ノ衆、余等ヨリ七日前ニ「クシユンナイ」ニ着アリコレハ「タライカ」廻リナキ故ニ、「クシユンナイ」着ハ早キナリ折シモ「エンルモコマフ」ヨリ差出ノ船イマダ「クシユンナイ」ニ着セサル故ニ蝦夷船ニ乗リ、水手ハ東浦ヨリ召連来リタル土夷ヲ其俣引連テ「ホロコタン」辺マテト指シテ、已ニ発行アリシ由ナリ

今般吾徒ノ類「カラフト」東西岸ヲ巡行スルニ付テハ「クシユンコタン」税舖ヨリ取扱テ、東岸ヲ通行スル為ノ郷導番人及ヒ人足ト為ル夷人、皆「クシユンコタン」ヨリ差出シ、右夷人共「クシユンコタン」住居及ヒ東岸住居ノ者ノミナリ、西岸通行ノ為メニ差出ス郷導及ヒ人足ハ「クシユンコタン」税舖ノ命ニテ、西岸ノ大番屋「エンルモコマフ」ヨリ「クシユンナイ」ニ差出置テ、吾徒ノ東岸通行スミテ、「マーヌイ」ヨリ「クシユンナイ」ニ出ルヲ待テ、ソレヨリ附添フ、而シテ人足ノ夷人共皆西岸住居ノ者ノミ也、故ニ昨夜「クシユンナイ」ニ着セシユヘ、今朝ハ「クシユンコタン」ヨリ是迄附添来タル者ハ皆差返シ、今日ヨリ「エンルモコマフ」差出シノ者ヲ召連ルナリ、而シテ其者ヲ糺スニ番人二人、及ヒ役夷一人・平土人十人ナリ、右十一人ノ夷「エンルモコマフ」「ナヨロ」「ウシヨロ」三所住居ノ者共ナリ

偕又昨日「マーヌイ」ヨリ「クシユンナイ」ニ向ケ来ル山中ニテ「エンルモコマフ」詰合、調役下役出役、山本源一

郎ヨリ差越シタル飛脚ニ行逢タリ、其飛脚差出ス書面ヲ披見スルニ、一通ハ五月三十日ノ認ニテ、西浦巡行ノ為メニ通行船ヲ差越スコト、并ニ「ホロコタン」以注ニ行クナラハ、途中ヨリ蝦夷船ヲ雇入ノ方便利ナルヘク其所置云々、又蝦夷船ニテ同行尽ク行カハ食料積込難キ故ニ、途中ヨリ同行ニツニ別レ、一ハ通行船ニ居残ルヘキ云々ノ所置ヲ詳カニ記セリ、一通ハ閏五月十二日ノ認ニテ 此書状全ク飛脚、ニ差出タルナリ早川弥五左衛門 先達テ余等「ソウヤ」ヨリ「カラフト」ニ渡海ノ着シタル土井節、同船ニテ同シク落船シテ「エンルモコマフ」ニ候ノ衆ナリ 去ル十日「ホロコタン」ヨリ帰着アリ、其話ニテ奥地ノ風説ヲ聞クニ、魯西亞人「スメレン」地ニテ乱妨セシニ因テ、當時「スメレン」七八十人「ホロコタン」ニ逃来居リ、又山丹地ニ居ル魯西亞人滿州ノ斥候ノ士ヲ六七人殺害セシ事モアル由、今般何レ一人ハ 此一人ト云ハ栗山太平・川上甚三郎ノ内ヲ云ナルヘシ 奥地ヨリ「スメレン」ヲ経テ帰ルヘキニ、又此方ヨリ段々奥地ニ入込ム人アリテハ、自然魯西亞も「ホロコタン」以内ニ入来ル禍源測リ難キ故ニ、ナルヘクハ「ホロコタン」限りニテ止リ、其奥地ニハ入込ムコトナキ様、

且若シ佐倉ノ衆ト同行ナラハ通用致シクレトノ書簡ナリ、
 此事ハ勿論念ニ念ヲ入レテ箱館及ヒ「クシユンコタン」ニ
 テ議シ、佐倉ノ衆トモ打合アレハ、素ヨリ奥深く入ルマシ
 キコトト定メ、其代リニ東浦ヲ「タライカ」マテ往タルコ
 トナレハ、佐倉ノ衆モ余等同様「ホロコタン」以北ノ処ハ
 聊ナル入込浅深ハ各臨機応変ニシ、詰リ魯西亜人屯所マテ
 ハ行クマシキノ成算ハ分明ナレトモ、節角源一郎心配如此
 ニテ飛脚差出タルコト故ニ、其云々及ヒ余等愈「ホロコタ
 ン」限りニテ引還ス積リナルコトヲ認メ、佐倉侯ノ衆ニ報
 告スル書「クシユンナイ」ニ残シ置テ出立ス

戸口 「クシユンナイ」住夷二戸、「コモシラナイ」「ロ
 クシナイ」「オタシウ」三所夷小屋アレトモ、「クシユン
 ナイ」「ライチシカ」住ノ夷人漁時ニ来居ルノミニシテ常
 住スル者ニ非ス

風俗 均シク「カラフト」島中ナル故ニ、東浦・西浦別ニ
 異ナルコト無ケレトモ、往日間クニ東浦ノ夷ハ平日「クシ
 ユンコタン」ニ来居ル故ニ、自然ト本邦人ニ親ミアリテ帰

俗スル者多ク、西浦ハイマタ其場ニ至ラス、総テ帰俗ハ不
 承知ナル由トカ、果シテ然ルカ、西浦ニ来テハ帰俗ノ夷絶
 テ見サルナリ

東浦ノ役夷人ハ皆帰俗シタルヲ往日目撃
 ス、西浦ニハ帰俗ノ者一人モ有ラサル也

物産 船中ニ在ル故ニ陸地草木明細ニ尽シ難ケレトモ、大
 概ヲ看過スルニ、海辺草茅ノ原陵ハ款冬・「コシヤク」

「ニオ」「コシヤク」花満
 開シテ雪ノ如シ 雑草ニシテ、山上ハ椴・蝦夷松・

樺・柳及「ハン」ノ木等ナリ、落葉松ナトハ此辺絶テ無キ
 由、且時節鱒漁ニ及タリヤ、食膳ニ供スル者鱒魚多シ、又
 舟中ニテ目ニ触ル、ニ「アメマス」「ウコイ」等多キコト
 甚シ、又晚餐ニ「ホツケ」ト称スル魚ヲ食タリ

土質 「クシユンナイ」ノ沢中沮洳ノ地多シト見受タリ、
 海浜ハ終日看過スル者皆細沙ノミ、「オタシウ」ノ南ニテ
 石炭ヲ見シコト前文ニ云如シ

氣候 朝五十一度、夕六十度、終日朗晴ノ故ニモアリヤ、
 今日ハ大ニ暑氣ヲ覺フ、然レトモ午熟ノ時トイヘト綿入
 小袖ヲ脱スルニハ至ラサル也

閏五月廿日朝陰已牌後快晴 「ライチシカ」出帆「ウ

シヨロ」投宿、海路凡拾四里

ワツカフレナイ コタンウトル チトカンベ

タンベトツソカラ ウエンルイサン岬 ウエンルイサン

ウシトマナイボ

地勢 「ライチシカ」数里ノ間平坦ニシテ広闊ノ原野ナリ、

川口碇泊ノ処ヨリ方位ヲ立テ見シニ、子丑ノ間ニ当リ相距

一里許ニ一大山突兀トシテ空ニ聳ヘタルアリ、「ライチシ

カ」山ト云、其腰ヲ擁シテ衆峯羅列スル中、一二又突起ス

ルアリ、「キサラキ」山・「トウキタイ」山ト云フ、聞ク、

其山下ハ即チ「ライチシカ」湖ニシテ周廻凡六里許アリト

云ヘリ、其東ヨリ一川、西ヨリモ一川、注入シテ南畔ニ落

口アリ、是ヲ「ライチシカ」川ト云フ由 川ノ上流及湖ハ、其

川辰巳ニ流レ、此ニ至リ屈曲流シ未申ニ向ヒ海ニ入ル

此屈曲ノ辺ニ昨夜碇泊シタル也、其兩岸ノ光景、東ハ平林数里ニ連リ、西ハ

平岡海浜ニ蜿蜒シ、一帯川ヲ包ンテ堤ノ如ク川口ニ至ル、

其堤尽ル処ニ八幡祠一字ヲ建ツ 先年堀君巡見ノ時建シ処、西浦

「ヲハコタン」ニ春日祠ヲ建テ

アリシヲ見タリ、此社ノ瑞籬ニ昨年、向山氏廻浦ノ時一首ノ和歌ヲ書
留シヲ見ル、歌ニ曰、石清水、其源越、和春連須八、流乃未仁、耳古
利安良寸那、トアリ、蓋シ向山氏モ懐、其先ハ平低ノ砂洲トナ
概気節ノ君子ト思ハル、其死ヲ惜ム

リ二町許一細流 本川ノ支ナリ アリテ中断シ又其先へ砂洲アリ、一

町許ニシテ尽ク、此ヲ川口トナス、又東岸ノ奥辰差卯ニ当

ル緑林中ヨリ蜿蜒シテ流れ来ル一川、又此川ニ会ス、幅

二十間許アリ、其名ヲ詳カニセス、此川ニ並テ巳午ノ位ニ

当リ細長ノ沼アリ、幅一二町ノ処モ又狭キ処モ見ユ、長サ

凡一里モアルヘキカ、沼口川ニ入ル処、僅カニ六七間ニス

キズ、右ノ沼ト海トノ間平岡堤ノ如ク、其贅、砂洲ト相對

シテ「ライチシカ」川ノ川口トナル、其闊サ六七十間アリ、

曲折シテ三町許モ上ニ遡リ船ヲ泊シタル処、川ノ広二町許

モアルヘシ、深サハ四五尋アリト云フ、大船ヲモ繫クヘキ

川港ト云フベキニ、川口ノ処浅クシテ其便ナシト、惜哉、

西浦ニテハ第一ノ巨川ト云フヘシ、東浦ノ「シツカ」「タ

ランコタン」ト伯仲スベシ、偕今朝川口出帆、鍼ヲ亥ニ取

テ帆ス、一里許海浜岡上草中ニ木幣ヲ立ツ処アリ、番人ニ

問フニ曰ク、此ヨリ半里許奥ニ入レハ即チ「ライチシカ」

湖ナリ、其西ノ畔ニ夷家二戸有、是ハ其夷人浜ニ出ル路ノ
 印ナリト云、「ライチシカ」山ヲ半里ノ近キニ望ムヘキニ、
 靄霧深クシテ見ルコトヲ得ス、遺憾ナラスヤ、此辺丘陵岡
 阜ハアレトモ平低ニシテ樹林鬱葱タル曠野、其海浜ハ平磯
 砂場ナリ、行ク三里許丘岡漸々高く、又一里許ヲ過テ一大
 沢草樹繁茂、名詳カナラス、又一里許一沢アリ、一川其中
 ヲ流ル、幅三四間南岸ニ夷家一戸アリ 「ライチシカ」住夷、
 ノ出稼小屋ト云フ
 「ワツカフレナイ」云、是ヨリ岡巒重疊シテ形勢一変ス、
 中ニ大山ニアリ、左リ海ニ近キヲ「イサラノボリ」ト云、
 其山觜延テ海ニ逆ルモノ凡一里許、一大岬ヲナスモノヲ
 「コタンウトル」ト云、廻リテ沢アリ、「イサラナイ」ト
 云、夫ヨリ二里許ニテ山稍平低ニシテ密林ノ岡、草崖沙浜
 トナル、忽チ一小灣アリ、左右小岬アリテ岩石巖々タリ、
 二岬ヲ合セテ「チトカンベ」ト云、尤海中ニ突出スル也、
 又一里余ニシテ一大草岡岩崖ナルモノ海ニ突出スルコト一
 町許、其高サ十仞許広サ二町余ト思ハル、此岬ヲ「タンベ
 トツソカラ」ト云、「コタンウトル」岬ヨリ此岬ニ至ル凡

三里許、中間「チトカンベ」ノ岬ト並ヒテ山字形ヲナス、
 三岬合シテ大岬ヲナス故ニ、此沖ヲ過ル時風浪殊ニ荒ク船
 屢々傾キタリ、是ヲ過テ平低ノ連岡沙磯ナリ、凡ソ七里許
 ニシテ草山ノ觜海ニ斗出シタル一岬ヲ得、「ウエンルイサ
 ン」ト云、廻リテ大沢アリ、夷家数戸一村ヲナス、「ウエ
 ンルイサン」ト云、夫ヨリ岩礁平布シタル磯、「エナヲエ
 ンルン」ト云フ小岬、北「カバルシ」ノ岬ト対シ一灣ヲナ
 スモノヲ経テ、風浪穏ナル汀ニ船ヲ寄セテ上陸ス、「ウシ
 ヨロ」ト云フ、村中小川アリ、「ウントマナイボ」ト云、
 小橋ヲ渡リ草原ノ一夷家「ラミシンカイコ」ノ家ニ宿ス、
 今日順風故、猶船ヲ行ルヘキニ、午前ヨリ風強ク波浪荒ク、
 且是ヨリ前途五里十里ノ処ニ船ヲ寄スヘキ好港ナク、此上
 吹募ラハ如何トモナシカタク危キコトナレハ、日ハイマダ
 高ケレトモ此処ニ泊セント番人申スニ任セタルナリ、着ス
 ル時九時比ナリ
 戸口「ワツカフレナイ」ニ一戸 是ハ前文中云フ
 如ク出稼小屋也、「ウエン
 ルイサン」ニ八戸

物産 今日經過スル処、楸・樺・柳・蝦夷松多シ、草ハ
 「ニヲ」「サク」「コシヤク」「ヨタラツペ」「艾」等皆
 茂盛シテ五六尺ノタケアリ、「ライチシカ」八幡祠下ニテ
 奇草二種ヲ得タリ、一ハ葉立葵ノ如クニテ形小サク花ハ紫
 ニシテ桔梗ニ似タリ、一ハ紫蘭ニ似テ花ハ白ク清香鼻ヲ穿
 ツバカリ也

土質 舟行ナレハ知リ難シ、「ライチシカ」ハ沙場斥沢ニ
 シテ土色弁シ難ク、水性ハ塩氣アリテ悪水ナレハ土人トイ
 ヘトモ飲マサル由、船主ハ「ヲタシウ」川ニテ汲取テ蓄ヘ
 用ニ備タリ、土人ハ「ライチカ」原中東ノ川ノ上流一里流
 遡リ飲水ヲ汲取ト云、又北「ワツカフレナイ」迄ハ五六里
 ノ間飲ヘキ水更ニ無シトイヘリ
 氣候 朝五十五度、夕七十度、芒種ニ中ル五月ノ時候トス、
 今日ハ綿入一枚ヲ脱キタリ

閏五月廿一日晴 「ウシヨロ」出帆「ナヤス」仮宿、
 行程十七里許

ヲツシヨ フレヲチ カバルシ ホロケシ テモエ
 エシトリ ホロエンルモ ラムトー トーフロ
 イトシナイ リーナイ ホロルチ ノタサン

地勢 「ウシヨロ」ノ地ハ西北二面セル一大湾ニシテ、左
 リニ「エナヲエンルモ」岬アリテ其西南ヲ扼ス、岬末岩石
 磊砢トシテ錯陳シ、一二許海面ニ迸出シ、北方「カバル
 シ」岬ト対揖湾口ヲナス、二岬ノ距離直線二里許湾ノ深サ
 モ大抵之レニ同シ、夷落処在ノ所ハ湾底ノ左側ニシテ北差
 西ニ向フ、其地ハ平原ニシテ、背後ハ丘隴逶迤トシテ連亘
 シ、其外ヲ小高キ木立山環繞セリ、此湾内東南二方ノ風ナ
 レハ波浪少シモ無ク、稍碇繫ニ便ナリトス、夷廬ハ一細流
 ノ東西ニ在リ、早朝解纜シテ行クコト四五丁、「ウシヨ
 ロ」ノ東南ニ高岳屹然トシテ朗出ス、則チ「ウシヨロ」岳
 ナリ、是一昨日ヨリ仰望スル者ナリ、湾ニ沿フテ行ク岸上
 都テ草原ニシテ後ロハ木立山ナリ、一里許ニシテ大沢、
 「ヲツシヨ」ト云、小夷落アリ、又二十余丁ニシテ「フレ
 ヲチ」平沢ニシテ船濶アリ、此辺ヨリ浜容漸ク西方ニ転曲

ス、一里余ニシテ竟ニ一長岬ヲナス、是レヲ「カバルシ」ト為ス、岬前ヨリ丑位ニ一大岳ヲ睨ス、之ヲ問ヘハ則「リーナイ」ノ奥山ナリ、岬陰大沢アリ、「ホロケシ」ト云、夷村アリ、此所又船澗トナス可シ、猶平原草崖ニ循フテ行ク、数ケノ小溪澗ヲ経テ一里半許ニシテ広沢、「テモエ」ト称ス、是又湾形アリ、夫ヨリ一様ノ形勢ニテ里許、「エシトリ」大沢ナリ、又船掛リアリ、此沢ノ広闊ナルコト前ノ沢々ノ及フ所ニ非ス、背ハ椴・蝦松杯ノ平林ナリ、是ヨリ漸次ニ大湾形ヲナシ三里余ニテ大岬ヲ得タリ、「ホロエシトル」ト云フ、南方「カバルシ」ト対ス、其岬又平岡ニシテ其上ハ鬱林ナリ、已ニシテ其陰ニ出ツ、赤岩欹側シテ其崖ヲナセリ、其先キハ地勢豁然明快ニテ、二沼アリ、其間平岡アリテ之ヲ隔断ス、南ニ在テ小ナル者ヲ「ヲムト」ト云ヒ、北ニ在テ大ナル者ヲ「トローロ」ト云フ^{皆一里許}ノ洋面ヲ帆セタル故目撃実檢スルコト能ス、此辺一里許ノ間々ハ平沢密林ナリ、夫ヨリ又岡巒トナル、一沢アリ、「イトンナイ」ト云、是迄ノ海岸皆平岡草崖ナリシカ、是ヲ過レハ漸ク岩崖劔刃ノ

勢アリ、半里許ニテ小岩岬ヲ遶リ「リーナイ」ニ至ル、沢ノ左リニ高岳聳立ス、則前ニ見ル所ノ者ナリ、之ヲ過キ大岩岬ヲ得タリ、岬末更ニ小岩岬ニツアリテ其中間一浅湾ヲナス、是ヲ「ホロルチ」ト云フ、故ニ此ノ岬ノ名モ之ヲ冒ス、此岬危巖絶壁並ヒ側チ、皴麻杳蹙シテ峻險此辺ニ冠タリ、之ヲ過キ平岡赭崖ニ沿フ、此ヨリ以往一轍ノ岸勢ナリ、其中間ニ大沢アリ、「ノタサン」ト云フ、是又浅湾ナリ、此際ヨリ赭崖外ニ向フテ湾ヲナセリ、其尽ル所則チ「ナヤス」ノ海浜ナリ、晡時後着船、砂上ニ円小屋ヲ造リテ宿ス此「ナヤス」湾ハ固ヨリ好畧ニアラス、波浪頗ル荒シ、故ニ此川口ニ泊セント舟子ヲ遣シテ之ヲ見セシムルニ、水浅クシテ船ヲ容ル可カラズ、是ヲ以テ仮宿セシナリ

附録 今度召連レ舟子ノ内ニ「ノホリランゲ」ト云フ者アリ、是ハ昨夜宿シタル家ノ主人「ラミシンカイコ」ノ兒子ナリ、此者微恙アルユヘ脩途ノ往還心元ナク、番人ヨリ此地ニ残ル可キ由命セシ所、「ノボリ」云フ、此度ヲメシツレニ付「クシユンナイ」ニテ物杯賜ハリ、其厚情忘レ難キユヘ、矢張「ホロコタン」迄ヲントモ申ス可シト云ヘリ、

其情又愛ス可キ故則召連レタリ、然レトモ召連レシ番人共皆一度モ「ホロコタン」マテ至リシコトナキユヘ、彼地案内ノ役土人「ケラエ」ヲ召連タレトモ、是又唯一人ナレハ、其相談相手且ツ「ノホリ」ノ扣ヘトシテ、此地ニ居合セタル「ヲボリ」ナル者ヲ添ヘ召連タリ 此「ヲボリ」ハ毎年兩三度故道路ニ、モ「ホロコタン」ヘ至ル由熟セリ、偕又宿セシ家ノ主人ハ土産取ニテ當時「トンナイ」ニ出居リ、其家ヲ老夷「キビラゲク」守リテ居タリ、是夜「キビラゲク」ヲ召シ、其煩擾ヲ謝シ煙草ニ把ヲ与ヘシニ、彼其恩ヲ拝謝シ、且ツ曰フ、昨朝御出帆以後此地ニ木幣ヲ植ヘ鬼神ヲ祭り、「ホロコタン」ヲ恙カナク御往返ノ様ニ願禱罷在ルト申出タリ、余等嘗テ聞、西浦ハ東浦ヨリ夷心余程淳朴ナリト、今来リ見ルニ此老夷ト云ヒ、「ノホリラング」ト云ヒ、果シテ聞ク所ニ違ハザリシ、「クシユンナイ」以往ノ沿路里程甚確着ナラス、之レ番人ハ不案内、土人ハ中国ノ里程ヲ分明ニ領解セザルユヘナリ、今日月ノ下ニ掲クル者ハ、白主詰足輕江沢門四郎ノ「ナツコ」行里程記ト一行人ノ所見トヲ参考シテ記スル者ナリ、故ニ

間々誤謬有ルモ知ル可カラス

戸口 「ウシヨロ」住夷十一戸西浦ノ一大聚落タリ、「ヲツシヨ」二戸、「ホロケシ」同断、是ヨリ「ホロコタン」マテ人煙ヲ絶ツト云フ、「ウシヨロ」ノ「ラミシンカイコ」ノ家ハ「ホロコタン」ノ南四里「ソーヤ」ト称スル地ニ在リシカ、番人共之ヲ引揚ケニ至ルニ其地遠隔ナルヲ憂ヘ近時此ニ徒往セシメシ由、松前家は迄商估ニ打任セ茫トシテ顧リ見ス、自カラ土疆ヲ促ムル様ナルコトヲ仕出セリ、當時公裁トナリタレハ定テ其旧ニ御復シアルベキノミ
 氣候 朝五十九度、夜六十一度

閏五月廿二日晴 ナヤス発船ホロコタン到着、行程十里余

チツポウシ サツコタン アラコシナイ アラセシナイ
 ソウヤ ヨフケナイ オヤオナイ ホロトマリ
 チツプニナイホ サツルイエシルモ
 地勢 「ナヤス」 或ハ「ナヤシ」ト云、何レヲ正トスヘキカ ノ沢ハ幅一町許モア

ルヘク、方位戌ニ面シ左右ニ山崖迸出シ亦一個ノ灣形アリ、然レトモ船舶碇泊スヘキ港澳ノ地勢ニ非ス、沢中ノ一川僅カナル舟ハ容レ得ヘキヲ恃ミトスルノミ、然レトモ昨夜ノ一泊既ニ川中ニ入ルコトヲ得ス川中ニ礁石アリテ、波浪高キ時ハ舟触激ノ恐レアル由、昨夜此患モ亦ア、サテ「ナヤス」ヲ発シ右岸ニ傍テ行クニ、前面遙遠ノ一峯突起直立スル者ヲ見ル、是ヲ「キトウシノボリ」ト云、方位ハ子ニ当ル、「ホロコタン」以北ノ山ニシテ此処ヨリ十五六里モ隔ルナラント覺フ也、今日針路始終「キトウシ」ニ向テ行ク由ナリ、右岸ヲ看過スルニ「ナヤス」ヨリ数町ニシテ赤崖尽テ海浜ヨリシテ後山ニ連リ楸林鬱密スル者多シ、二里許ニシテ二沢相並フ者ヲ得ル、何レモ「チツポウシ」ト云、又半里許ニシテ一沢稍豁然タル者「サツコタント」云、又二里許ニシテ一沢「アラコシナイ」、又十町余ニシテ一沢「アラセナイ」ト云、「アラコシナイ」「アラセナイ」皆狹隘ナリ、而シテ後山ハ稍々峻峭ナリ、「ナヤス」ヨリシテ此辺ニ至ルマテ海浜・小岬屈曲出没ナキニ非レトモ、船中看過熟察スルヲ得ス、要スル

二僅々出没ノミ也、既ニシテ「ソウヤ」岬ニ至ル「アラセリ半里ニ、此岬一個ノ草岡海面ニ聊カ突出シ岩石ヲ以テ崖シテ近シ岸トナス者、コレヲ廻レハ一小灣底ノ形アリテ、風ノ模様ニテ此岬陰ハ暫ク舟船碇泊スルコトヲ得ヘシ、「ソウヤ」ヨリ一里許ニシテ「ヨフケナイ」ト云沢アリ、浅沢ナレトモ沢口兩岸対峙シテ門闕ノ如シ、此辺マテハ海岸諸山深鬱ナル楸林ナリシニ、此辺ヨリシテ稍々地勢一変シ草山ニ非レハ石山ナリ、楸・蝦夷松・樺等ノ木立ナキニ非レトモ大ニ減少セリ、且此ヨリ山容稍高聳尖鋭ナル者多シ、「ヨフケナイ」ヨリ一里許ニシテ「オヤオナイ」ト云沢アリ、沢上峻抜ナル山ハ「オヤオナイノホリ」ト云、ソレヨリシテ繼テ又峯稜峨然タル山「ホロトマリノボリ」ト云、此辺崖腹皆巉岩ノミ、既ニシテ「ホロトマリ」山脈連亘シテ海面ニ走出スル岬ヲ「チツプニナイボ」ト云、「チツプ」ハ舟ノ義、「ニ」ハ木ノ義、此岬陰ノ溪ヲ遡リ船材ノ木ヲ獲ル、故ニ此名アル由ナリ、此岬今日経過中ノ第一大岬ニシテ此二雁行スル岬ナシ「オヤオナイ」ヨリ此岬マテ亦一里許ナリ、此岬ヲ廻リ灣形ノ

沙磯ヲ僅カニ過キテ一草岡海中ニ突立セシ如キ者アリ、此ヲ「サツルイエシルモ」ト云、又此処ノ一岬ナリ、岬前海面礁石湧出スル者アリ、其間ヲ帆り過キ、コレヨリ右折シテ三十町許ニシテ「ホロコタン」ニ着シ、舟ヲ「ホロコタン」川内ニ容レ此ニ繫泊ス

戸口 「ホロケシ」以後人煙ナシ、「ナヤス」川ニ他ノ夷来リ居テ漁獵スル仮小屋一戸アリ、此節偶来居ノミ

物産 「ナヤス」石燕多シ、今日海中ニ鯨魚ヲ見ル、此節ニ在テハ罕レニ見シ也

氣候 朝五十七度、午時六十二度、夕六十四度

閏五月廿三日晴 ホロコタン逗留

地勢 「ホロコタン」ノ形勢、南東北ノ三面山巒周匝シ、沢中広サ南北十余町、東ニ入ルコト凡三十町許、前面ハ西戌ニ面シ海浜沙磯ノ灣ヲナス、左リハ午未ニ当リテ一山アリ、其山趾延ヒテ海ニ迸出スルコト十七八町 申ノ方ニ向フナリ、其尽ル所一草岡トナリ、形覆鍋ノ如キモノ海中ニ突起ス、則

昨記ノ「サツルイエシルモ」岬ナリ、又右方ハ子丑ニ当リ、草山甚高カラス、岩崖直立スルモノ、草崖ナダラカナルモノ、錯綜曲折シテ子ヨリ未ニ連リ、凡半町余ニシテ赤壁直立スル者トナリ、沢ノ北ヲ擁シテ海ニ臨ミ、其岬端礁石海ニ迸走出没シテ一小岬ヲナス、其岬外ハ山崖西ニ向ヒ北ニ連亘シテ「キトウシ」ノ大山ニ連接スルト云フ、前面海中相距ルコト五町許所ニ大岩礁三四屹立シ、右岬左岬ノ遠間ヲ弥縫シテ海門ヲナスニ似タリ、沢一大川アリ、東南ノ奥山溪間ヨリ来リ、沢中ヲ縦横屈曲蜿蜒シテ流レ、遂ニ北赤壁崖ニ循ヒ海ニ入ル、川ノ南岸ハ平沢ノ沙嘴ニテ砂洲ヲナシ海ニ入、此川口広甘間許、深サハ二尋許アリ、海浜ニ沿フ平原数丁、雑草矮樹茂生シ、後山ニ近キ河畔ハ大抵沮洳ニシテ楊柳多ク、山ニ近キハ樺常山ノ林ト思ハル、是日舟ヲ泛ヘテ川上ニ廻リ見、凡一里許、南北東ト屈曲転折スルコト五回許ニシテ、遂ニ東ノ山間ニ入ル形勢ナリ、此水源ヲ尋問セシニ、土人ノ答ニ、二里許上ミ迄ハ至リタレトモ其ヨリ先ノ様子ハ知ラス、水源ハ北ノ方山間ヨリ流来ルコ

トナリ、二里モ遡レハ石川トナリ、幅モ狭ク底モ至テ浅シト云ヘリ、我等ノ舟ヲ回ヘシタル処ノ幅ハ廿間程モアルヘシ、次第ニ広ク川口ニ近キ辺ハ卅間ニモ至ルヘシ、深サハ大抵一尋半ニ尋モアルナリ、兩岸ハ楊柳・樺多シ、扱此地ハ沢モ広ク川口モ広深ニシテ、岬中ノ湾形広闊大船ノ碇泊ニ堪タル好港ト云フヘシ、又斥沢多ケレハ屯戍ヲ置クヘキ地ニ似タレトモ、草萊ヲ払ヒ堤防ヲ築キ水道ヲ疏シ小砦ヲ築カハ、国界ノ一要害トナルヘキ地勢ナリ

境界 此地曾テ聞タルニ北極出地五十度ノ地ナレハ、純乎タル我邦ノ版図ニシテ異国ト分界ノ処トナスト、以前ハ蝦夷二三戸住居シタリシカ、近来「ウシヨロ」ニ移住シ、此地ニ残りタル者ハ風俗ヲ変シ「スメレン」ニナリ、而シテ「スメレン」モ今ハ亦此ニ来リ住スル故、西富内ノ声息ノ及フ処ハ全ク「ウシヨロ」領「ホロケシ」迄ニシテ、此地ハ異夷ノ住夷トナリタレハ、全ク我国ノ版図此ニ限ルトモ云イ難シ、扱「スメレン」夷ハ我ニ来テ交易スルコトモナク、唯満州ニ行テ交易シ、且ツ年ニヨリ満州ノ府ニ至リ、

官吏ニ謁見スルコトアリトイヘハ、是レ全ク満州ノ配下ニシテ異邦ノ夷也、然ルニ我境中ニ来リ、公然住居・産業ヲ営スルコトヲナサシムルハ、我ヨリ境ヲ縮ムルニ似タルハ歎ス可キコトナラスヤ

戸口 此地住夷「スメレンクル」四戸、「サツルイエノルモ」岬ノ岬陰崖下海浜ニ、同夷人ノ出稼キ小屋六七戸見ヘタリ、常住四戸ノ宅辺ニ倉庫七八棟アリ

風俗 男夷ノ容貌「フロツコ」ニ比スレハ稍險相ニ似タリ、悍黠狡智ノ者ト思ハル、性情、交易ヲ事トシ甚貪慾ナリ、

僮暴ニシテ人ニ接スル揖讓ノ礼ヲ知ラス、其人品蝦夷ニ及ハサル遠シ 蝦夷人ハ往々豪傑衆ヲ御スルノオアル者アレトモ、慨スルニ魯愚懶惰ノ者多ケレトモ黠ニハ非ス、髮

ハ頂上ニテ左右ニ分ケテ後ロニテ束ネ、三ツ組ニシテ垂レ置クコト、「フロツコ」ト異ナルコトナシ、耳環ヲ付ルコトモ亦同シ、衣服ハ皆満州ノ品ヲ用ユ、木綿・獸皮・魚皮アリ、其製寛大ニシテ丈ケハ臍ノ上ニ止マル、脚絆ハ木綿ヲモ用ヒ又ケリヲモハク、此節ハ大抵洗足ノ者多シ、腰臀ニ「マキリ」刀ヲハ佩ヒサルナリ、女夷ハ容姿アリト聞シ

カ、余等カ見シハ但色ノ白キノミ、平顔ニシテ頬コケ、
 「フロツコ」ノ婦人ヨリ少シ品アルニ似タリ、人ヲ見テ顔
 ヲ上ケス、俯シテ羞ヲ含ム意アルハ蝦夷ノ女子ニ同シ、髪
 ハ頂上ニテ分ケ、後ロニテ三ツ組ミニシテ下ケ、或ハ結ヒ
 置クコト、「フロツコ」ニ異ナルコトナシ、服ハ皆滿州ノ
 物ニテ丈ケ長ク踵ニ及フ、裾ニ真鍮ニテ小ナル紋ヲ並ヘ付
 ルコト又「フロツコ」ニ同シ、但帯ハ家居及ヒ近辺往来ノ
 時ハ不用、遠方へ行時ノミ用ユル由、耳環ハ銀環ニ青玉或
 ハ瑪瑙ヲ下ケル、一耳ニ四ツ或ハ三ツ位下ケテ飾トナス、
 児女トイヘトモ皆同シ、但念珠ノ如キモノヲ頸ニ掛タルヲ
 ハ見ス、又小児ヲ縛シ置ク「チャクカ」ト云フ物、「フロ
 ツコ」ト形ヲ異ニス、其製ヲ云ハ、椴木ノ一尺径許ナル
 ヲ二ツニ割リ、丈ケ一尺五六寸ニシ、鑿抜キテ竹筒ヲ割ル
 カ如クニシ、下ニ底ヲ残シ置、犬ノ皮ヲ以テ其筒ニ敷キ、
 其中ニ小児ヲ入レ、底ニ腰ヲ掛ケ、足ハブラリト下ル様ニ
 シテ、足ヲハ皮ニテクルミ縛シ置キ、右「チャクカ」ニ綱
 ヲ付、釣り置クコトナリ、乳ヲ飲スモ其俣ニテ抱キテ飲マ

セ、但夜分ハ外ツシテ抱キ臥スト云フ
 家屋ノ製ハ、「蝦夷」或ハ「フロツコ」ノ製ト遙カニ別ニ
 シテ堅牢ノ物ト思ハル、其仕方ハ椴ノ木、径リ五六寸許ノ
 二ツ割、又ハ四角ナルヲ長サ三間幅二間半程ノ大サニ井桁
 ニ組ミ、四方高サ四尺余ニシテ棟ノ高サ九尺許ニ建テ、丸
 木ヲ其上ニ並ヘテタルキトナシ、其上ニ椴ノ皮ヲ覆ヒ、其
 上ニ又太キ丸太ヲ左右ヨリヨセカケテ置ナリ、家根ノ中央
 ニ引窓ヲ明ケ、入り口ハ一方ニテ幅二尺堅三尺許ノ潜リノ
 如キモノヲ明ケ出入ニ便ニス、室内土間ニテ三方折曲ケ、
 壁ニ付テ高サ五六寸幅三尺許ノ床ヲカキ寢臥ノ処トナス、
 土間ノ中央ニ幅四尺丈ケ一間許高サ四五寸又ハ一尺位ニ、
 角木或ハ板ヲ以テ椽ヲ拵ラヘ炉トナス、又本家ノ余リヲ一
 間カ九尺程入口ノ処ニ出シ、両側ヲ板ヲ以テ囲イ、ソコニ
 棚ヲカキ食物杯上ケ置キ中ヲ通行スルナリ、倉庫ハ角木ヲ
 井桁ニ組ミ、家根モ角木ヲ並ヘ置キ、床下ハ四本柱高サ
 三四尺アリ、飯料等ヲ入レ置クナリ、冬分ハ穴居ヲスルコ
 ト蝦夷ニ異ナラス、此川上一里余ノ奥ニ土室アリ、雪ノ時

節ヨリ此処ヲ引払ヒ、皆右ノ土室ニ移リ住ムト云フ、土室ノ製如何ナルヤ目撃セス、料ルニ蝦夷同様ナラン、飲食ハ大抵魚獸ノ肉、草根木実ヲ主トス、酒・煙草ヲ喜フコト甚シ、産業ハ漁業ヲ主トス、此節鱒ヲ漁スルコト夥シ、「ヨタラツヘ」ニテ糸を製シ網トナシ魚ヲ捕ルナリ、舟ハ薄板ニテ底板ト左右ノ縁板トヲ木釘ニテ綴付タルコト図説ニ出タル如シ、右ノ舟ニテ網ヲ河岸・海岸ニテ一引引キタルニ鱒百許モ得タリ、魚獵ノ多キコト知ルヘシ、樺皮ニテ笠ヲ作ル、形陣笠ノ如ク、同シ皮ヲ以テ紋或ハ唐草様ノ物ヲ彫刻シテ其上ニ綴付テ飾トナス、至テ手際ナリ、犬ヲ飼フ事蝦夷ニ異ナルコトナシ、唯犬ノ氣象猛悍ニシテ、他邦ノ人ヲ見レハ猙獰咆吼シテ喰ヒ付ントスルノ勢アリ、瘦セテ丈高シ、「ウシヨロ」辺ノ犬ト同シ、鉄鎖ヲ以テ木ニ結付ケ置ク 犬ヲ繫クハ馬ノ外繫キノ如拵、 此犬ハ舟ヲ牽キ罾ヲ牽クノ用ニ備フ、余等一日舟ヲ牽カセン事ヲ見ント番人へ談シタルニ、番人其旨ヲ夷人ニ伝レハ、夷人早速承引シ前浜ニテ引カセタリ、其仕様ハ夷船一艘へ夷人二人我等四人、外ニ

犬ヲ扱フ為メ附添ノ役夷「ケラエ」一人ヲ載ス 此役夷綱ヲ手ニ取リテ犬ヲ アヤツルコト、御人ノ馬ヲ御スルカ如シ、扱フナリ、扱舟ノ舳先ノ方へヨリタル処ノ横木ヨリ綱ヲ出ス 此綱長サ廿間許アリテ、「トゞ」ノスチヲ用ユ、其綱ノ先ニ先導犬 犬中ニテ尤強悍壯大ナル者ヲ用ユ 括リ付、其本綱へ小綱ヲ十一本四五尺置ニ結付、夫レヘ犬ヲ括リ付ルコト十一疋、先導犬共十二疋ニテ 先導犬ハ直行シ、子犬ハ左右ニ行ニ行 舟ヲ挽曳ス、初メハ徐々ト引出シ、追々早く遂ニ疾走スルコト箭ノ如シ 此緩急御者「ケラエ」ノ操縦ニ從フ、 浜辺ヲ奔ルコト十五六町、暫時ニ往来シタリ、舟ハ海岸ヲ距ルコト水ノ深淺ニハヨレトモ、大抵五六間三四間ニ過キス、犬ハ始終水際ヲ走ル也 「ケラエ」曰、此節ハ犬ハ使犬モ甚疲ル、故、行キ止リニテ一息ヲ入レサ、 戻リ格別早クセントノコト故、其通ト申タリ、一元ノ処ニ帰リ 犬ノ括リヲ解キ外繫ニ入ル、喘猶急ナリ、於是犬ニハ鯉魚ヲ与へ夷人ニハ清酒ヲ与へテ聊其勞ヲ償ヒタリ 此事ハ兼テ蝦夷人ニ取扱ハセテ 見度思ヒシカ、今此国境ニ至リテ見ルコトヲ得ルモ亦奇ナラスヤ

物産 鱒・アメマス・比目魚ノ類多シ、木ハ樺・楸・柳・蝦夷松・接骨木多シ、草ハ「サク」「コシヤク」「ニヲ」「玫瑰」「木賊」「茅芦」「欵冬」「黒ユリ」「ヒメユリ」

「萱草」ナト多ク、其他今花ヲ盛ンニ開ク、内地ニ見サル
異草六品アリ、夷言ノ称呼「ランタイキナ」「セタシルツ
コ」「ライブシラン」「セタキト」「ヲチ、ウラ」「セタノツ

キナ」以上「スメレン」人ノ言フ処ナリ、
摘採シタレトモ途ニシテ失シタリ

熊ヲ飼フコト「エゾ」ト同シ、兎熊ヲ一疋ヲヨリニ入レ置
ヲ見ル、又「リキンカモイ」即麋鹿ノ
コト也ノ兎ヲ養フ、其形状

小犬ノ如ク鹿ノ毛色ニ似タリ、耳長ク足ハ鹿ノ如シ

土質 惣別沙交リノ地ニシテ、川ニ遡リ五六町奥ニ行タル
処ノ兩岸上ノ地ハ白赤ノ粘土ト見タリ 水性清冽、川水甚

麗水ナリ

氣候 朝六十二度、夕六十四度

附録 是日関宿ノ衆、青木・成石・小林氏、余ノ輩ヨリ少

シ早く此地ニ着船ノ由ニテ、余等着後乍来訪ニテ互ニ旅
況ヲ談シタリ、彼ノ衆ハ夷艇ニテ搔送り、去十一日ニ「ク

シユンナイ」出船、処々ニテ滞船、野宿等モ度々、彼是数
日間艱苦ヲ堪へ漸ク今日此処ニ着船ノ由、凡十二日目ナリ、

今一日滞行、明廿四日ハ早朝出船ト申コトナリ、是日番人

弥太郎ヲ通詞トシ、役夷「ケラエ」ヲ接伴トシ、土人「ス
メレン」ノ「チエイランビル」ニ質問セシ所、左ノ通答ア
リタリ

ホロコタン住居、スメレンクル四戸

兄 チエイランビル 妻共二人

弟 ライライ 妻ナシ
父母同居 三人

右父ハ「レイシバ」ト云フ、「ライライ」ノ家ニ同居

ス、元「スメレン」者ナルカ、此処ニ来リ蝦夷ノ女

子ヲ娶リテ此ニ永住ス、今ハ隠居スト云フ、

ワサ、 妻共ニ二人
男子二人アリ 四人

ゴント 妻ト女子一人
男子一人、小児一人 五人

右夫婦四人ハ元蝦夷ナレトモ、今ハ「スメレン」ニ風俗ヲ

変シタリト

是日呼出シタル者五人ハ「チエイランビル」「ライライ」

「チャンクマイイノ」兄「チャツパン」弟「ホツプニ」「チ
ヤン

クマ」以下三人ハ此節飯料稼キノ為メ
「ヲツチシ」ヨリ此ニ来リ会セシモノ

「スメレン」ノ住居ハ是ヨリ西二七ヶ村アリ、「ホロコタ

ン」ヨリ四日路程 此里数何
程ヤ不詳 「ヲツチシ」 住夷、 「アラコヘ」 六戸

同、○「ヲツチシ」ヨリ何里アルヤ不、「ニハンベ」 同、
四戸 〔詳、何レニモ追々奥地進ミ行ク也〕 一戸、

「ムキ、ナリ」 同、「ウタンネ」 同、「イヤツキ」 同、
一戸 五戸、二戸、

「トツク」 同 ○此辺ハ「ナツ
七戸」 〔コ〕 辺ナリト云

右「ヲツチシ」ヨリ前日中飯料取ニ来リ居ル者、三十余人
アリケルナリ、其内十余人ハ先日帰り、今朝又十一人帰り、
今残ル者ハ僅カニ九人ナル由

「ヌメレン」ハ毎年冬分満州へ交易ノ為メ多勢行クコトナ
レトモ其府ニハ至ラス、途中ニテ用要ヲ便シ帰ル、其処ヲ
詳カニセス、又年ニヨリ満州ノ府ニ至リ、頭分ノ者ニ謁見
スルコトアリ、山丹人ハ冬夏共「ヌメレン」へ来リ交易ヲ
為ス

「ヌメレン」ト「ルモウ」「ニクフン」ト互ニ相通好シ、
其往来スル処ハ平低ノ山道ニテ、三四日路モアリト

魯西亜此節「ホロコタン」ト「ヲツチシ」ノ間 〔ヲツチシ〕、
二近キ地ナリ

「ワインチャ」ト云処ニ家屋ヲ造作シテ、已ニ廿人許昨年
ハ越年致シ居レリ、来ルトキ大船ニ乗来リシカ船ハ返シタ

リ、今家ノ普請最中トイヘハ永住ノコトト思ハル、且右ノ
「ワインチャ」ニ砲台ヲ置、大小銃砲ヲ多ク備ヘタリ、大
將分ノ者居ル時ハ輕卒等モ至極穩カナレトモ、其居ラサル
時ハ乱妨ヲナスニヨリ、「ヌメレン」人モ甚迷惑ナシ、此
上多勢入り来ラハ如何ナル目ニ逢ント恐怖シテ、山ニヤ隠
レン、「ホロコタン」辺へ遁レ去ランヤト、相議区々ナリ
ト云フ、扱又「ヌメレン」モ随分狡猾ノ者ナレハ、「魯
夷」ノ輕卒カ「ヌメレン」ノ物ヲ劫奪スル時ハコラヘ兼、
時々争闘・口論ニ及フ事アリ、又魯ト滿トハ無事ニテ、山
丹地方ニハ所々ニ屯留シテ充滿スト云フ

先日山本源一郎ヨリ通シタル文中ニ、早川子ノ説ヲ取り
テ、魯夷「ヌメレンクル」ヲ乱妨シタル故、其乱暴ヲ避ケ
テ八十人許当所へ逃来リ居ル由ニ承リ、又閑宿侯衆ノ話ニ、
昨日土人ニ尋シ処、当所ニ逃来ルモノ六七人、又満州ト魯
夷ト少々取合アリ、其起リハ満州ノ犬、魯人ノ乗ル所ノ馬
足ヲ喰ミ付タルニヨリ、満州二人ヲ魯人カ殺シタリ、又満
州又魯人ノ小屋ヲ打破リタルニ付、魯人憤リテ満人ヲ殺害

シタリト、此等ノケ条如何ト「チエイランビル」ニ糺問セシニ、此「チエイ」ハ此間中、他出シテ家ニ居ラス、今日「スメレン」地方ヨリ帰リタリ、於奥地左様事コレナシ、全ク偽ニテアラン、此節魯満ノ様子前文申タル通りト云ヘリ

閏五月廿四日晴 未申風強ク船ヲ出サス、同所滞留

氣候 朝六十度、夕六十二度

是日夕、佐倉衆着船、須藤秀之助・佐波銀次郎、我船ニ過來、各無事ヲ祝シ暫時對話、千里外荒陬ノ地ニシテ故人ニ會遇、聊カ旅況ヲ慰ス、同人ニハ去ル十四日「シツカ」辺海中ニテ行キ逢相別シテ後、其日ノ昼後ニ「シリマカ」へ着ニテ、十五日一日同所逗留、十六日ニハ矢張海路ヲ「シツカ」迄戻リ野宿、十七日「ウエンコタン」止宿、十八日「フヌフ」止宿、十九日「マーヌイ」止宿、廿日山道ヲ越シ「クシユンナイ」止宿、廿一日同所出航、「ライチシカ」止宿、廿二日「ウシヨロ」止宿、廿三日欠、今日

此地着船ノ由、路次ノ都合大抵我等ト同様、獨閑宿衆蝦艇ニテ艱苦シタル様思ハル

閏五月廿五日陰曇時々疎雨來 風浪昨日ノ如ク不出船、

又滞留

氣候 朝六十五度、夕六十四度

是日朝夷人ヲ倩フテ犬二舟ヲ牽スル業ヲナサシメ一見ス、事ハ廿三日ノ条ニ記ス

閏五月廿六日朝曇午後晴 風變リ海穩ニナリタレトモ

未夕船ヲ出サス

氣候 朝六十四度、夕六十六度

是日川口ノ西方ヲ見ル、夷船ヲ雇ヒ、川ノ北岸絶壁ノ下ニ傍ヒ川口ヲ出テ、右赤壁ノ西端、岩岬ノ下、礁石ヲ廻リテ一小灣アリ、平岡草崖石浜ニテ赤壁ノ続キナリ、又四五丁ニシテ草岡ノ端、岩石削立、奇礁羅列シテ一小岬ヲナス、過キテ又一小灣アリ、模様前灣ノ如シ、行六七町ニシテ岡

巒左右二分レ、一条ノ溪沢遠ク奥山ニ達ス、此地形自カラ
 中断シ南北分界ヲナスニ似タリ、行ク一町許巉巖聳立、海
 濱ハ大礁石出沒散布シテ一小岬ヲナス、此三岬ヲ合シテ一
 大岬ヲナス、総名ヲ「ナイゴアンビン」或ハ「ゴンタツク
 シ」ト云フ、此岬ヲ過キテ右ニ折レ、赤壁ノ懸崖下ヲ一二
 町行テ北方ヲ望ムニ、山巒重疊連亘シテ海浜ニ臨ミ一帶ノ
 岡堤ノ如シ、而シテ「キトウシノボリ」ヲ子位ニ望ム、相
 距三里遠カラスト思ハル、偕此処ニテ舟ヲ回シ前路ヲ戻リ
 再ヒ三岬ヲ検スルニ、第一岬ハ岬背最高ク「ホロコタン」
 フ目下ニ視ル地形、而シテ第二第三トノ間ノ沢迄平岡連属
 シ奥ニハ大山連綿ス、思フニ若「ホロコタン」ヲ以テ国境、
 夏夷分界ノ処トナサハ、此第一二岬ハ要害トナシ以テ区域
 フ限ルヘキヤ

(以下『東京阿部家資料 文書編(7)』に続く)

東京阿部家資料 文書編(6)

発行日 二〇一六年(平成二十八年)三月三十日

編集発行 福山市教育委員会文化課 歴史資料室

福山市霞町一丁目一〇番一号

〒七二〇・〇八一二

TEL〇八四・九三二・七二六四

発行 福山市教育委員会

印刷・製本 かもめいと有限公司